

つくばセンター地区における 都市活動実態調査（2018-2020）

ーコロナ禍の影響の把握ー

はじめに

2019年度末に世界的パンデミックを起こした「新型コロナウイルス感染症」の影響は、人々の暮らしや働き方を始め、まちや社会の活動にも大きな変化をもたらしました。そして、その影響は、感染が収まったアフターコロナの時代にも変化をもたらすことが想定されています。一方、筑波研究学園都市として建設されたこの街は、街としてのスタートである最初の入居（1972年花室地区への入居）から半世紀が経過し、街の機能や建物の更新の時期を迎えつつあり、昨年は、旧西武百貨店跡地で大型商業施設が再開業（2021年5月）し、また今後もつくばセンタービルのリニューアルや公務員住宅跡地等において複数の大規模集合住宅の入居等が計画されています。加えて、スマートシティやスーパーシティ等、次世代の技術を街に実装することを意図した取り組みも具体化し、街としての活性化や機能更新の進展が期待される時期にきています。

このような社会と地域の大きな変動の時期にある中で、将来の街の変化を読み解く手掛かりとなる時代の変化を捉えることを視野に入れ、当財団では、つくば市と連携協力し、中長期的な視点からまちの変化を定量的に把握するため、つくばセンター地区を中心とした人と車の流れをはじめとする都市活動の各種データを収集する「都市活動実態調査」を実施することとしました。調査は、アフターコロナまでの変化を見据えるため、複数年度に亘って実施することとし、初年度調査にあたる本報告書においては、コロナ禍前の2018年度から2020年度までの3か年の各種データを収集し、コロナ禍におけるまちの動向について分析・考察しました。

当財団は、今後も継続的に都市活動の実態調査を行い、つくばセンター地区を中心としたまちの変化を把握し記録するとともに、アフターコロナに向けた、まちづくりのあり方について検討を進めていく所存です。今回の調査結果や、今後続く調査の蓄積が、まちづくりに関心をお持ちの皆様や、まちの活動に関わる方々の参考となれば幸いです。

最後に、本調査の実施に当たっては、各種データの提供等について多くの関係者の方々のご協力を頂きました。ご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

令和4年3月

一般財団法人 つくば都市交通センター
理事長 茂木 貴志

—目次—

序 章	調査の目的と概要	1
第1章	新型コロナウイルス感染症に係る経過	5
第2章	人流	
1.	鉄道	10
2.	バス	12
3.	駐車場	19
4.	駐輪場	28
5.	歩行者交通量	31
6.	来訪者数	35
第3章	生活・余暇活動	
1.	イベント開催状況	40
2.	文化施設利用状況	42
3.	市民活動	46
4.	屋外活動	47
第4章	人口・住宅	
1.	人口の動向	54
2.	住宅供給動向	60
3.	地価	63
第5章	産業・経済	
1.	事業所立地動向	66
2.	商業施設	69
3.	オフィス	73
4.	観光・交流	80
5.	市財政	83
第6章	研究・教育	
1.	研究活動	86
2.	交流活動	88
3.	普及活動	91
第7章	今回調査のまとめ	93
参考資料		97

序章 | 調査の目的と概要

(1) 調査の目的

2019年12月に中国の武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、国境を越えて瞬く間に世界中へ広がり、人々の命や健康だけでなく、経済や社会にも甚大な影響を及ぼし、いまだ収束が見えていない。

感染しても軽症や無症状であることも少なくないことや、飛沫で感染しやすいという特性から、まん延を防止するための措置として「密閉・密集・密接」の回避が推奨され、人が集まることによって成り立っている「都市」においては、その活動に大きな制約を受けることとなった。

更に、コロナとの戦いが長期化する中で、感染対策として導入されたテレワークは、人々の住まいの選択を含めたライフスタイルにも大きな影響を与え始めている。

本調査は、筑波研究学園都市の都市活動の中心地であるつくばセンター地区における都市活動の各種データを時系列で比較・分析することにより、コロナ禍の影響を把握するとともに、コロナ禍がもたらした社会やライフスタイルの変容が、これからのつくばセンター地区にもたらす変化を知る手がかりを得ることを目的とする。

(2) 調査対象エリア

つくばエクスプレス つくば駅から約1kmの範囲に広がる「つくばセンター地区」を基本とし、一部データは、その周辺地域やつくば市全域を対象とした。

(3) 調査対象期間

今年度は初年度調査として、コロナ禍発生前の2018～2019年度、及び発生直後の2020年度を基本としてデータ収集等を行った。次年度以降も継続的調査を予定している。

(4) 調査項目

以下の項目について調査を行った。

○新型コロナウイルス感染症に係る経過の把握

- ・感染者数の動向
- ・感染拡大の防止に向けて行われた取り組み（外出自粛、休業要請等）

○都市活動の変化の把握

- ・人流
鉄道、バス、駐車場、駐輪場利用状況
つくばセンター地区歩行者通行量、来訪者数

- ・生活・余暇活動 つくばセンター地区イベント開催状況
文化施設利用状況（図書館、美術館、ホール）
市民活動施設利用状況（市民活動センター、交流センター）
屋外活動状況（公園・運動施設、キャンプ場、レンタサイクル）
- ・人口・住宅 つくば市の人口動向（動態、地域間移動、外国人人口）、住宅着工数
つくばセンター地区の人口推移、マンション供給動向、地価
- ・産業・経済 事業所数の変化
主要商業施設の来客数・売上高、立地店舗等の営業や対応状況
オフィスの出勤動向、テレワークの導入状況、テレワーク施設の動向
市の歳入・歳出、税収
- ・研究・教育 大学・研究機関等の研究活動状況（研究発表数、施設利用状況等）
外国人・留学生受入状況、国際会議・研究関連イベント開催状況
科学技術普及活動の参加者数（つくばサイエンスツアー等）

（５）調査方法

以下の方法により、各種データの収集・分析を行った。

○統計データ等調査

人口や住宅着工数、地価、税収等の各種統計データを、公開資料等から収集し、分析を行った。

○各種施設等利用状況調査

交通機関や駐車場・駐輪場、文化施設、運動・屋外施設、商業施設、宿泊施設等、都市活動と関係の深い各種施設の利用状況等に関するデータを関係機関より提供を受け、整理・分析を行った。

○既存調査データを用いた分析

つくば市及び関東鉄道（株）が経年的に実施しているつくば市内の路線バスの乗降客数調査データの提供を受け、つくばセンター地区発着便に着目した分析を行った。

また、（一財）つくば都市交通センターがつくば駅周辺で定点観測を行っている「つくば中心市街地 歩行者・自転車交通量調査」のデータを用いて、コロナ禍前後の人の動きの変化について分析を行った。

○人流データ調査

携帯電話（au）の位置情報による人流データ提供サービスを用いて、つくば駅周辺街区やオフィスエリア、公園の人流（来訪者数）の把握を行った。

○アンケート調査

つくばセンター地区の主要な商業施設、オフィスビル入居事業所及びつくばセンター地区活性化協議会員事業所の計 250 事業所を対象にアンケート調査を実施し、オフィスや店舗等のコロナ禍における営業や対応の状況、テレワークの導入状況等の把握を行った。

＊調査結果は巻末「参考資料」参照

○ヒアリング調査

つくばセンター地区で事業を展開している不動産事業者へのヒアリングにより、住宅やオフィス等の需要の動向・変化について、定性的な把握を行った。

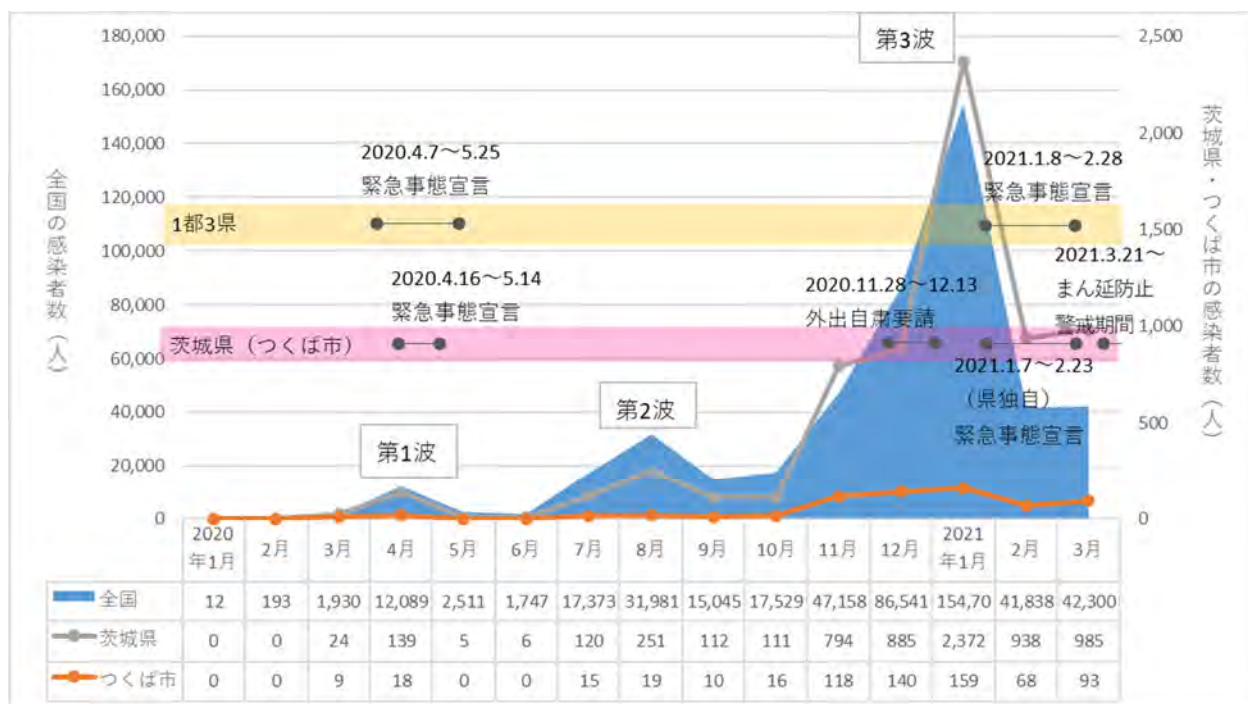
第1章 | 新型コロナウイルス感染症に係る経過

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月8日に中国の武漢市で第1例目の感染者が報告された。国内においても2020年1月15日に最初の感染者が確認され、3月2日には政府より全国の小中学校へ休校の要請が行われ、人流を抑制する取組が開始された。

3月11日には世界規模による感染拡大状況や重症度からWHOにより「世界的な大流行（パンデミック）」であると宣言され、茨城県においても3月17日、つくば市においても3月18日に初の感染者が確認された。

感染拡大への危機感が高まる中、4月7日に東京、大阪等7都府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日には対象地域が全国の都道府県に拡大されるとともに、茨城県を含む13都道府県が「特定警戒都道府県」に指定された。この緊急事態宣言下では、不要不急の外出や密を避けること、接触機会の削減（最低7割、極力8割）を目指し、在宅勤務の推進が要請され、人流は大きく減少した。

5月末には緊急事態宣言が全面的に解除され、景気の回復に向け、Go To トラベル、Go To イート等の取り組みも開始された。その後感染者数は8月の第2波を経て年末にかけて急増、年明けには東京、大阪、愛知、福岡等11都府県に再び緊急事態宣言が発令された。茨城県はこれには含まれなかったが、これに先駆け、つくば市を含む感染拡大市町村に県独自の外出自粛要請を2020年11月28日～12月13日に、また、2021年1月7日には県内全域に県独自の緊急事態宣言を発令した。その後、2月23日に県独自の緊急事態宣言は解除、2021年3月21日から4月10日には県独自のまん延防止警戒期間が設定された。



※2021/1/17～2/23 緊急事態宣言及び2021/3/21～まん延防止警戒期間は県独自の対応

出典：厚生労働省 HP「データからわかる新型コロナウイルス感染症情報」、茨城県 HP「新型コロナウイルス陽性者一覧」を基に作成

図1-1 新型コロナウイルス新規感染者数の推移

表 1-1 新型コロナウイルス感染症に係る経過

年度	国内外	茨城県・つくば市
2019	12月8日 中国武漢市で世界初の感染者確認 1月15日 全国で初の感染者確認 2月3日 「ダイヤモンド・プリンセス号」乗船者の集団感染を確認。横浜に帰港 3月2日 全国の小中学校へ休校要請	3月6日 つくば市の小中学校において臨時休校措置の開始
	3月11日 WHOが「世界的大流行（パンデミック）」を宣言 3月13日 新型コロナウイルス対策の特別措置法成立	
2020	4月7日 東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡に緊急事態宣言を発令 4月16日 緊急事態宣言の対象区域を全都道府県に拡大。茨城県を含む13都道府県を「特定警戒都道府県」に指定 5月14日 8都道府県（北海道、東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、京都、兵庫）を除く39県の緊急事態宣言解除 5月25日 緊急事態宣言を全面解除 7月22日 東京都を除く全国で「Go to トラベル」事業を開始 10月1日 東京都を「Go to トラベル」事業に追加 10月1日 「Go to Eatキャンペーン」事業開始 12月28日 「Go to トラベル」事業を全国で一時的に停止	3月17日 茨城県で初の感染者確認 3月18日 つくば市で初の感染者確認 4月2日 つくば市を含む感染拡大要注意9市町（のちに10市町まで拡大）に週末及び平日夜間の外出自粛要請 4月3日 市有施設等の休館及び市内イベント等の中止・延期 4月8日 県立高校等の休校（～6/7） 4月11日 感染拡大要注意市町に所在する県有施設の休業（つくば国際会議場、つくば美術館、筑波山野営場等） 4月18日 県内全域に外出自粛要請、イベント開催の自粛、密が重なりやすい施設の休業要請 4月21日 県内全域で休業要請施設の拡大（大学、生活必需品の小売等を除く商業施設等）、飲食店等への営業時短要請 5月18日 県内全域で昼間の外出自粛要請の解除、夜の店、スポーツクラブ等を除き休業・営業時短要請を解除 市有施設の利用制限の緩和 5月25日 県内全域で外出自粛要請の解除、夜の店等を除き休業要請を解除 6月8日 県内全域で全ての業種の休業要請、休校措置の解除 8月22日 つくば市天久保1丁目飲食店における感染者発生に伴う集中検査の実施 10月21日 感染者との接触通知スマートフォン向けアプリ「いばらきアマビエちゃん」の配信開始 11月28日 つくば市を含む感染拡大8市町に外出自粛要請 11月30日 感染拡大市町村を9市町に拡大（のちに13市町に拡大）、酒類を提供する飲食店への時短営業要請 12月13日 つくば市を含む感染拡大10市町の外出自粛要請等の解除（3市町は12/20まで延長） 12月26日 感染拡大2市町に外出自粛要請 1月6日 感染拡大市町村を6市町に拡大、対象地域等の酒類を提供する飲食店へ営業時短要請 1月7日 県内全域に外出自粛要請 1月8日 感染拡大市町村をつくば市を含む20市町に拡大、対象地域の全ての飲食店に時短営業要請 1月18日 県独自の緊急事態宣言を発令 県内すべての飲食店に営業時短要請、イベント収容人数等の制限要請、県有施設の休業等 2月23日 県独自の緊急事態宣言を解除 3月21日 茨城県独自のまん延防止警戒期間を設定（～4/10）
	1月8日 東京、神奈川、埼玉、千葉に緊急事態宣言を発令 1月13日 大阪、兵庫、京都、愛知、岐阜、福岡、栃木の計7府県を緊急事態宣言対象区域に追加 2月3日 新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正（「まん延防止等重点措置」創設） 2月17日 医療従事者等を対象にワクチン接種開始 2月28日 首都圏を除く大阪など6府県で緊急事態宣言を解除 3月21日 緊急事態宣言全面解除	

出典：内閣官房 HP、茨城県 HP、つくば市 HP を基に作成

表 1-2 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた茨城県の対応

	茨城県の主な対応																		
緊急事態宣言 2020年4月16日 ～5月25日	○外出自粛要請 ○「3つの密」が重なりやすい施設でのイベントの開催自粛 ○「3つの密」が重なりやすい施設に対する休業要請 ■休業要請対象施設 下線部；4/21～追加施設 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th><th>施 設</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊興施設等</td><td>キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホール、スナック、バー、ダーツバー、パブ、性風俗店、デリヘル、アダルトショップ、個室ビデオ店、カラオケボックス、ライブハウス、<u>ネットカフェ</u>、<u>漫画喫茶</u>、<u>場外（車・船）券場</u> 等</td></tr> <tr> <td>大学・学習塾</td><td>大学、専門学校、高等専門学校、自動車教習所、学習塾 等</td></tr> <tr> <td>運動・遊技施設</td><td>パチンコ店、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ、マージャン店、ゲームセンター、<u>体育館</u>、<u>屋内・屋外水泳場</u>、<u>ボウリング場</u>、<u>スケート場</u>、<u>柔剣道場</u>、<u>テーマパーク</u>、<u>遊園地</u>、<u>ゴルフ練習場・パッティング練習場（※屋内）</u>、<u>陸上競技場・野球場・テニス場（※観客席）</u> 等</td></tr> <tr> <td>劇場等</td><td>劇場、観覧場、プラネタリウム、映画館、演芸場 等</td></tr> <tr> <td colspan="2">その他、<u>集会場・展示施設</u>、<u>商業施設</u>、<u>文教施設</u> 等</td></tr> <tr> <td colspan="2">※商業施設は、生活必需物資の小売関係等以外の店舗等</td></tr> </tbody> </table> ■営業時間短縮要請施設（朝 5 時から夜 8 時までの間の営業、酒類の提供は夜 7 時まで） <table border="1"> <tbody> <tr> <td>食事提供施設</td><td><u>飲食店</u>、<u>料理店</u>、<u>喫茶店</u>、<u>和菓子・洋菓子店</u> 等</td></tr> <tr> <td colspan="2">※宅配・テイクアウト除く</td></tr> </tbody> </table> ○県有施設の休館	種 類	施 設	遊興施設等	キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホール、スナック、バー、ダーツバー、パブ、性風俗店、デリヘル、アダルトショップ、個室ビデオ店、カラオケボックス、ライブハウス、 <u>ネットカフェ</u> 、 <u>漫画喫茶</u> 、 <u>場外（車・船）券場</u> 等	大学・学習塾	大学、専門学校、高等専門学校、自動車教習所、学習塾 等	運動・遊技施設	パチンコ店、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ、マージャン店、ゲームセンター、 <u>体育館</u> 、 <u>屋内・屋外水泳場</u> 、 <u>ボウリング場</u> 、 <u>スケート場</u> 、 <u>柔剣道場</u> 、 <u>テーマパーク</u> 、 <u>遊園地</u> 、 <u>ゴルフ練習場・パッティング練習場（※屋内）</u> 、 <u>陸上競技場・野球場・テニス場（※観客席）</u> 等	劇場等	劇場、観覧場、プラネタリウム、映画館、演芸場 等	その他、 <u>集会場・展示施設</u> 、 <u>商業施設</u> 、 <u>文教施設</u> 等		※商業施設は、生活必需物資の小売関係等以外の店舗等		食事提供施設	<u>飲食店</u> 、 <u>料理店</u> 、 <u>喫茶店</u> 、 <u>和菓子・洋菓子店</u> 等	※宅配・テイクアウト除く	
種 類	施 設																		
遊興施設等	キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホール、スナック、バー、ダーツバー、パブ、性風俗店、デリヘル、アダルトショップ、個室ビデオ店、カラオケボックス、ライブハウス、 <u>ネットカフェ</u> 、 <u>漫画喫茶</u> 、 <u>場外（車・船）券場</u> 等																		
大学・学習塾	大学、専門学校、高等専門学校、自動車教習所、学習塾 等																		
運動・遊技施設	パチンコ店、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ、マージャン店、ゲームセンター、 <u>体育館</u> 、 <u>屋内・屋外水泳場</u> 、 <u>ボウリング場</u> 、 <u>スケート場</u> 、 <u>柔剣道場</u> 、 <u>テーマパーク</u> 、 <u>遊園地</u> 、 <u>ゴルフ練習場・パッティング練習場（※屋内）</u> 、 <u>陸上競技場・野球場・テニス場（※観客席）</u> 等																		
劇場等	劇場、観覧場、プラネタリウム、映画館、演芸場 等																		
その他、 <u>集会場・展示施設</u> 、 <u>商業施設</u> 、 <u>文教施設</u> 等																			
※商業施設は、生活必需物資の小売関係等以外の店舗等																			
食事提供施設	<u>飲食店</u> 、 <u>料理店</u> 、 <u>喫茶店</u> 、 <u>和菓子・洋菓子店</u> 等																		
※宅配・テイクアウト除く																			
県独自の緊急事態宣言 2021年1月18日 ～2月28日	○県内の不要不急の外出自粛（継続） ○営業時間短縮要請等（拡充） 県内すべての飲食店 （午後8時から午前5時まで営業自粛（酒類の提供は午後7時まで）） ○催物（イベント等）開催制限（新規） 人数上限5,000人、かつ、収容率50％以下 ○他都道府県との不要不急の往来自粛等（継続） 緊急事態宣言が発令されている都道府県との不要不急の往来自粛 直近 1 週間の陽性者が人口10万人あたり15人を超える都道府県との往来の際の感染症対策の徹底 ○出勤者数の削減（継続） テレワーク、時差出勤の活用 ○部活動の制限（新規） 大会や合宿、練習試合の中止 ○県有施設の営業自粛（新規）																		
県独自のまん延防止警戒期間 2021年3月21日 ～4月10日	○同居家族以外での会食はいつも近くにいる 4 人まで ○花見は宴会なし（屋外での会食・飲酒の自粛） ○国のまん延防止等重点措置区域との不要不急の往来の自粛、 県境を跨ぐ往来の慎重な判断																		

出典：茨城県 HP を基に作成

第2章 | 人流

つくば駅周辺の来訪者数は、緊急事態宣言期間中はコロナ禍前の約4割まで減少し、緊急事態宣言後は約8割程度となっており、県外や特に遠方との往来は回復が遅れている。

公共交通や駐車場、駐輪場等の利用総数は軒並み減少しているが、特につくば駅の乗車人員はTX全体と比べても減少が大きい傾向が見られた。また、高速バスは鉄道よりも利用者が減少しており、空間の狭さが敬遠されたと考えられる。

また、羽田、成田、茨城の各空港行きのバスは、4月以降一部期間を除き軒並み運休となり、海外や県外との往来の減少の大きさをうかがわせる。

駐車場の利用状況からは、通勤利用の多い駅に近い駐車場では大幅に利用が減少する一方、病院に近接する駐車場では減少率が低い等、コロナ禍による影響が垣間見られた。

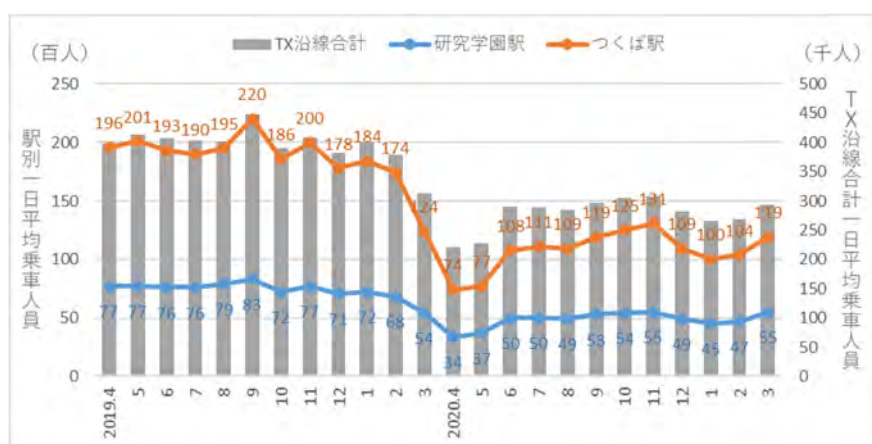


I. 鉄道

2020年度のTX沿線全体の乗客数は前年度の約7割であったが、つくば駅は約6割と減少幅が大きい。特に第1回緊急事態宣言期間中は平年では1日平均約20,000人の乗客数が約7,000人と4割程度まで減少し、2020年度末時点でも、つくば駅の乗客数はTX沿線全体より低い回復率となっている。

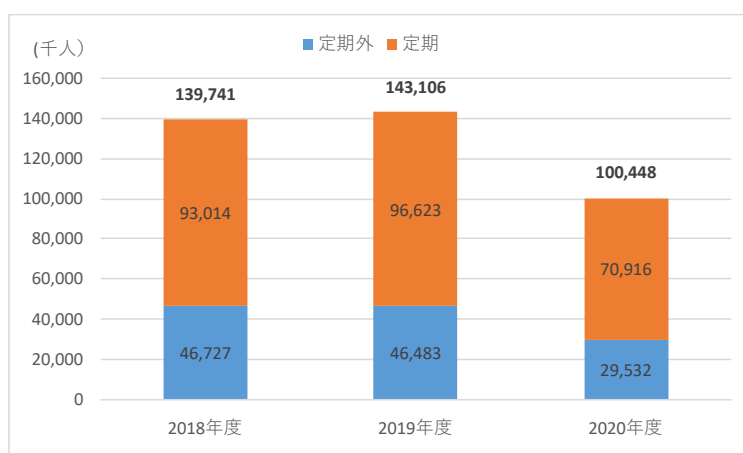
つくば駅においては、都心等へ向かう通勤・通学の人流の減少に加え、大学や研究機関等、地域外からつくばへ向かう通勤・通学の人流も減少したことが要因と考えられる。

なお、つくばエクスプレス全体の乗車人員の内訳を見ると、定期利用は前年度の7割程度となっており、定期外利用の方が減少幅は大きい。



出典：首都圏新都市鉄道(株)資料を基に作成

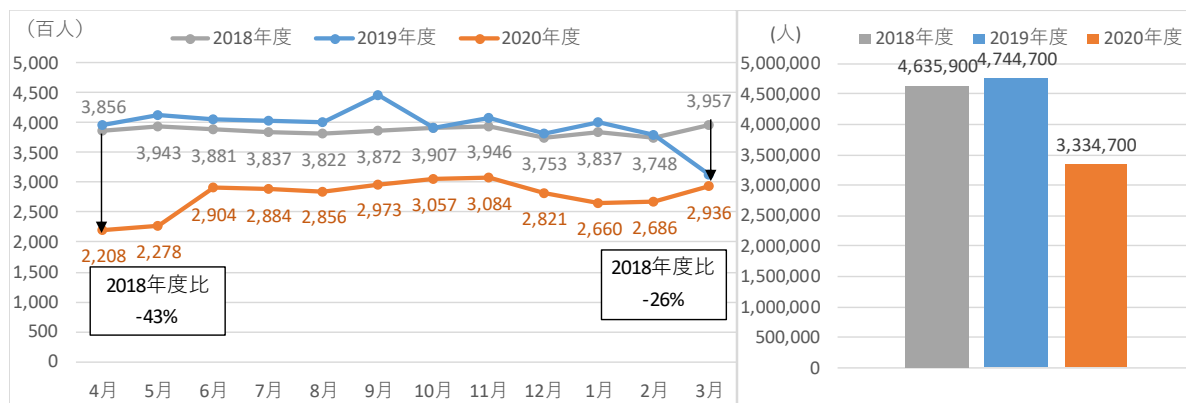
図2-1 つくばエクスプレス1日平均乗車人員の推移 (沿線計・つくば駅・研究学園駅)



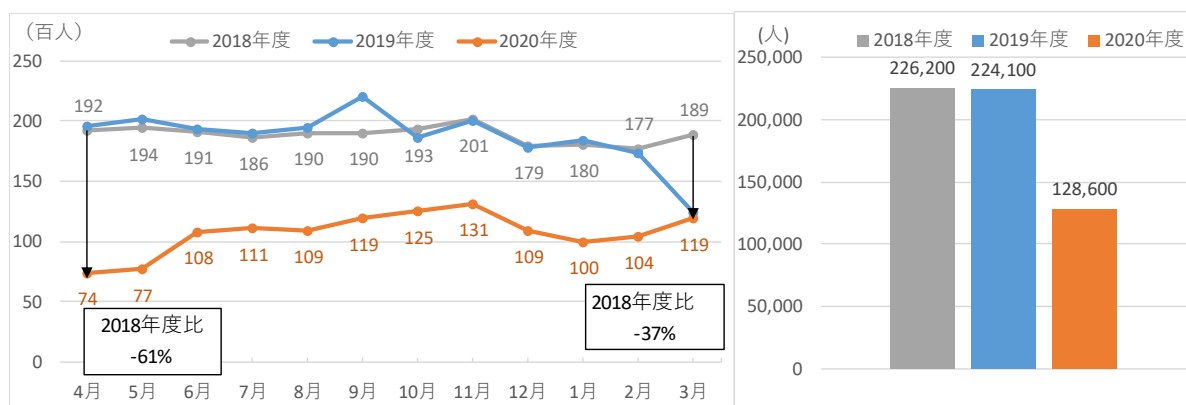
出典：首都圏新都市鉄道(株)資料を基に作成

図2-2 つくばエクスプレス輸送人員

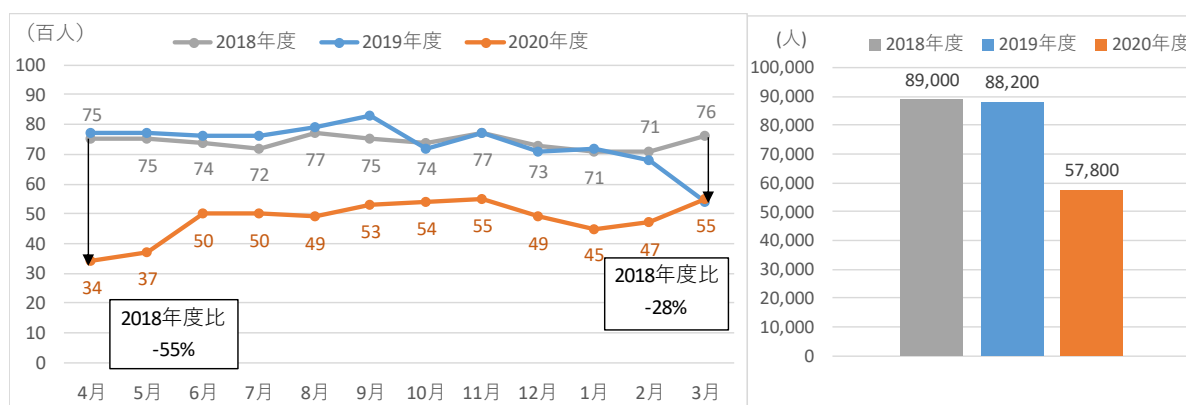
【つくばエクスプレス沿線合計】



【つくば駅】



【研究学園駅】



出典：首都圏新都市鉄道(株)資料を基に作成

図 2-3 つくばエクスプレス 1日平均乗車人員（沿線計・つくば駅・研究学園駅）

2. バス

(1) 路線バス

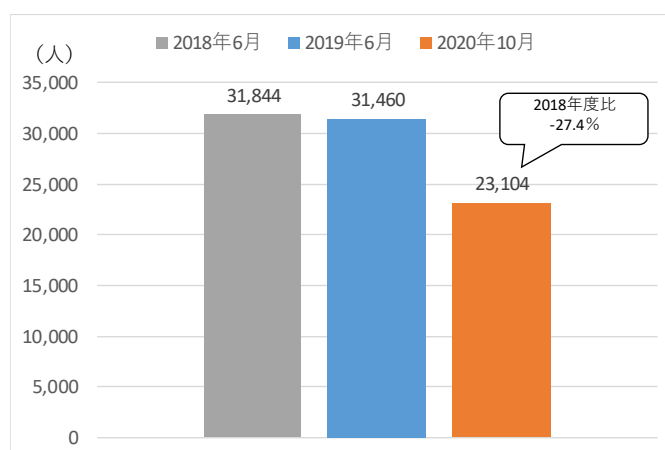
つくば市内の路線バスの利用動向を、以下の平日乗降客数データ（関東鉄道(株)提供）により把握を行った。

表 2-1 調査概要

対 象	関東鉄道の市内運行バス路線
調査日	2018 年 6 月 14 日（木） 2019 年 6 月 13 日（木） 2020 年 10 月 29 日（木）

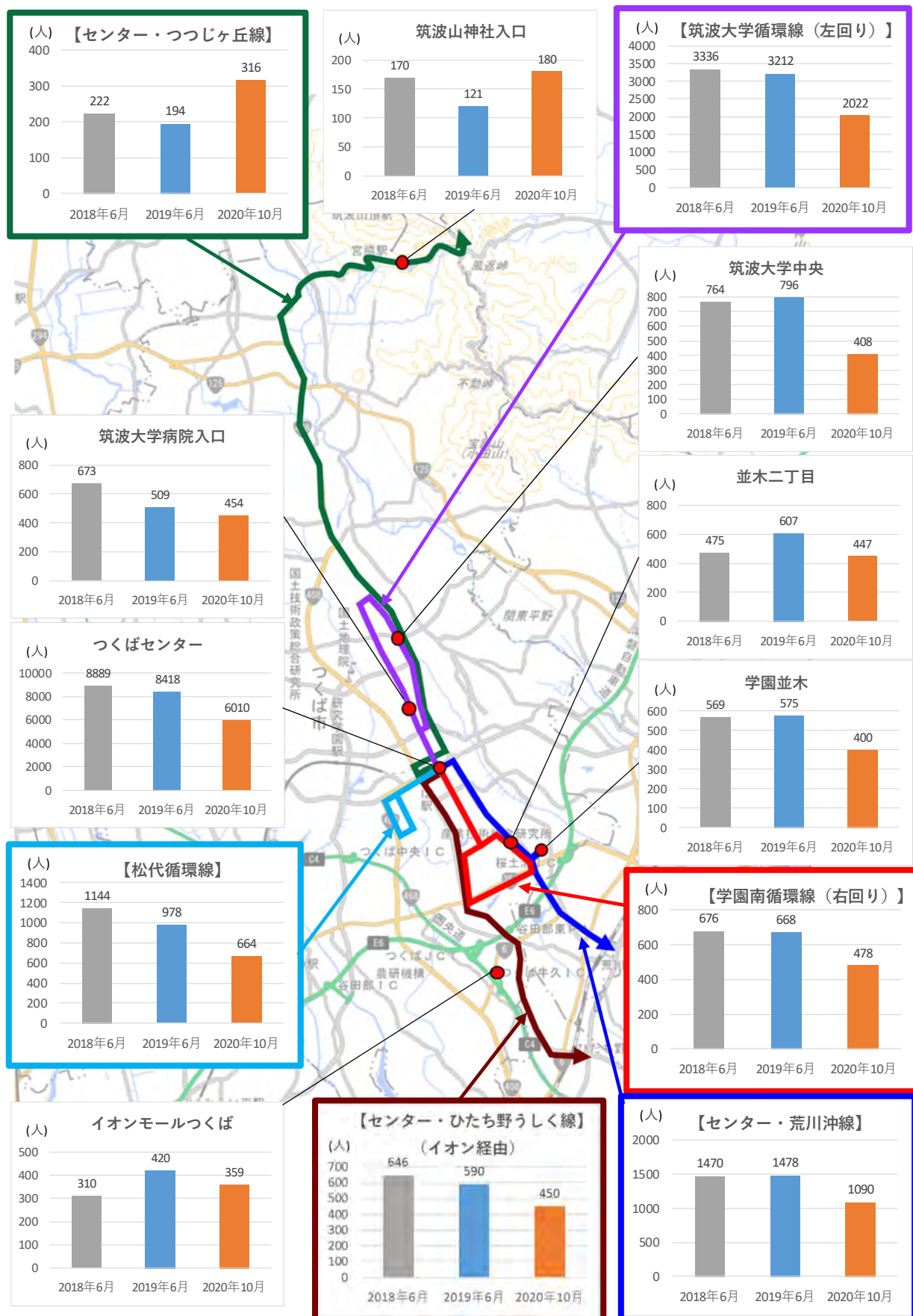
つくば市内の平日 1 日の路線バス乗降客数は、コロナ禍前は 1 日約 32,000 人であったが、新型コロナウイルス感染症拡大後は、感染状況が比較的落ち着いていた 2020 年 10 月時点で約 23,000 人と平年の約 7 割となっている。

主な路線・停留所の乗降客数を見ると、つくばセンターの乗降客数は 2019 年の約 7 割、その他の停留所や路線の乗降客数もおおむね 7 割程度となっている。減少率が高かったのは筑波大学へ向かう路線で、筑波大学中央停留所の乗降客数は半減している。筑波大学病院入口、イオンモールつくば停留所は減少率が低く、筑波山神社入口では平年より増加が見られた。



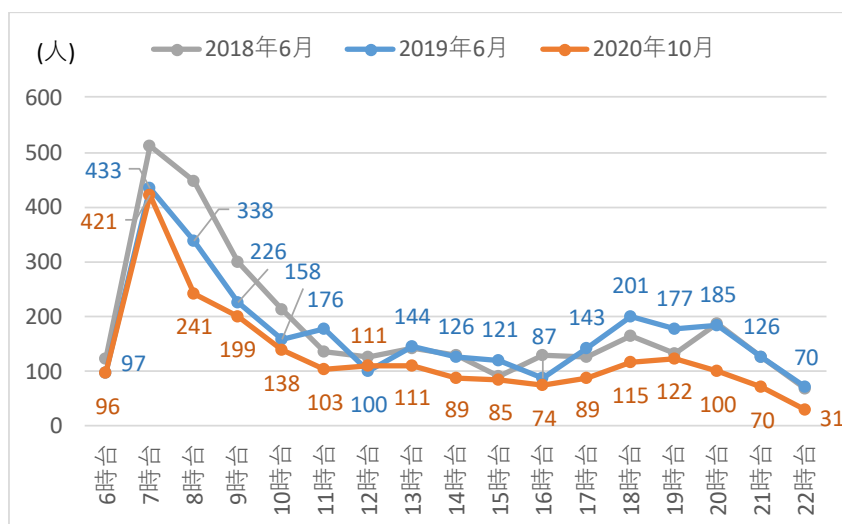
出典：関東鉄道(株)資料を基に作成

図 2-4 つくば市内路線バス 1 日乗降客数（関東鉄道運行路線）



地理院地図（電子国土 WEB）を一部加工し、関東鉄道(株)資料を基に作成
 図 2-5 つくば市内の主なバス路線及び停留所の乗降客数

つくばセンター停留所の時間帯別乗車人数を見ると、地域外から筑波大学や研究機関等へ通う通学利用と思われる朝のピーク時間帯（7時～9時）より、地域外へ通勤通学する人の帰宅利用と思われる夕方～夜の時間帯（17時～22時）の乗車人数には顕著な減少が見られ、特に遅い時間帯に帰宅する人が減少している。感染状況が比較的落ち着いていた時期にも在宅勤務等により都心等への通勤通学移動が抑制されていたことがうかがえる。



※つくばセンター始発バスのみ集計。2019年の7時台のバス運行本数は他の年より1本（筑波大学循環線）少ない。

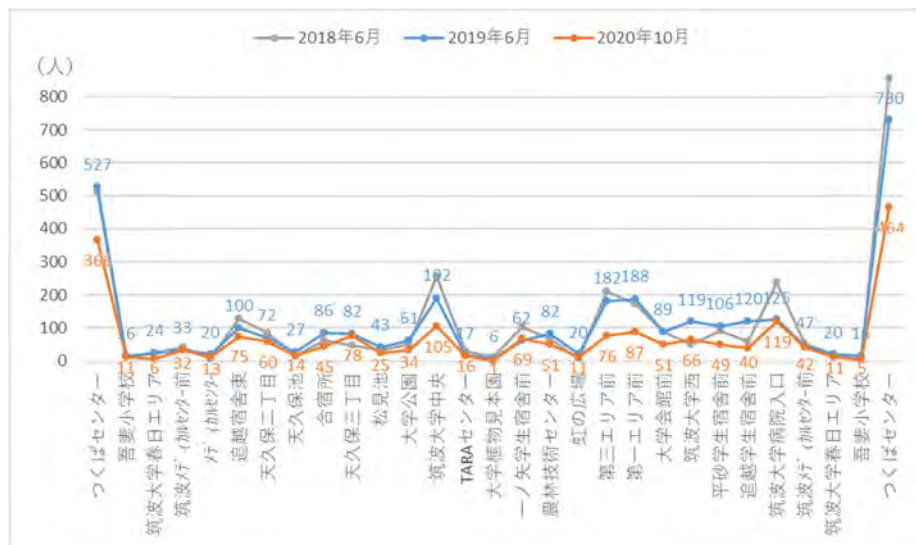
出典：関東鉄道(株)資料を基に作成

図 2-6 つくばセンター停留所 時間帯別乗車人数

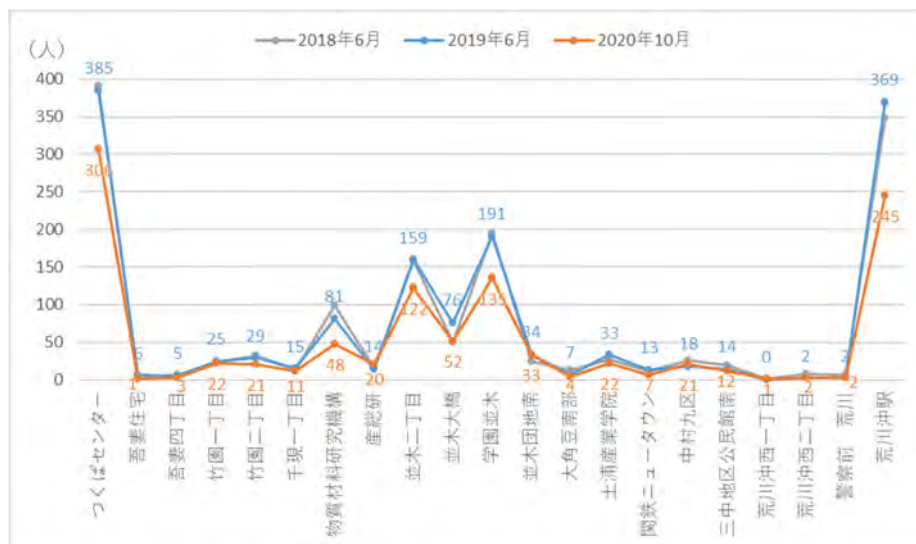
つくばセンターを起点とするバス路線の内、大学や主要な研究機関等を経由し最も利用者が多い筑波大学循環線及びつくばセンター・荒川沖線の停留所別の乗降客数を見ると、筑波大学循環線では、大学構内の各停留所の乗降客数の減少が構外の停留所に比べ大きくなっている。

つくばセンター・荒川沖線では、物質材料研究機構停留所や住宅地内の学園並木停留所等で減少していることが確認できる。

【筑波大学循環線（左回り）】



【つくばセンター・荒川沖線】



※つくばセンター発荒川沖駅着運行便の合計

出典：関東鉄道(株)資料を基に作成

図 2-7 主要バス路線の停留所別乗降客数

(2) 高速バス

つくばセンター発着の高速バスは、東京駅、東京ディズニーランド、水戸、羽田空港、成田空港、茨城空港、大阪等の路線がある。

最も利用者が多い東京駅とつくばを結ぶ路線は、平年は月 5 万人前後の利用があるが、緊急事態宣言時は 5 千人まで減少、その後も 4 割程度までしか回復していない。TX つくば駅の乗降客数は 6 割程度まで回復していることから、バスは車内の空間が狭いことから利用がより控えられたことが要因と考えられる。

大阪を結ぶ長距離路線も同様に、平年の 4 割程度の利用に留まっている。大阪便は例年夏休み・春休みの利用が多いが、コロナ禍では他の月と同等の利用者数となっており、旅行等による移動が少なかったことがうかがえる。

一方で、つくば－水戸線は、緊急事態宣言等の期間中以外はコロナ禍前と同等の乗客数まで回復している。当該路線は、茨城県の社会実験により 2019 年 10 月より平日 2 便から 8 便に増便されたが、鉄道等の代替交通手段がないことや県内移動のため移動自粛の影響が少なかったことに加え、県庁職員の通勤利用の促進が図られたことが大きく影響していると考えられる。また、2021 年 3 月には大幅に利用が伸びており、偕楽園の梅まつりへの来訪に利用されたことが推察される。

成田、茨城、羽田の各空港を結ぶ路線は、2021 年 3 月時点で 5 割～6 割減少しその後運休、東京ディズニーリゾート線は 2020 年 2 月末より運休となっている。

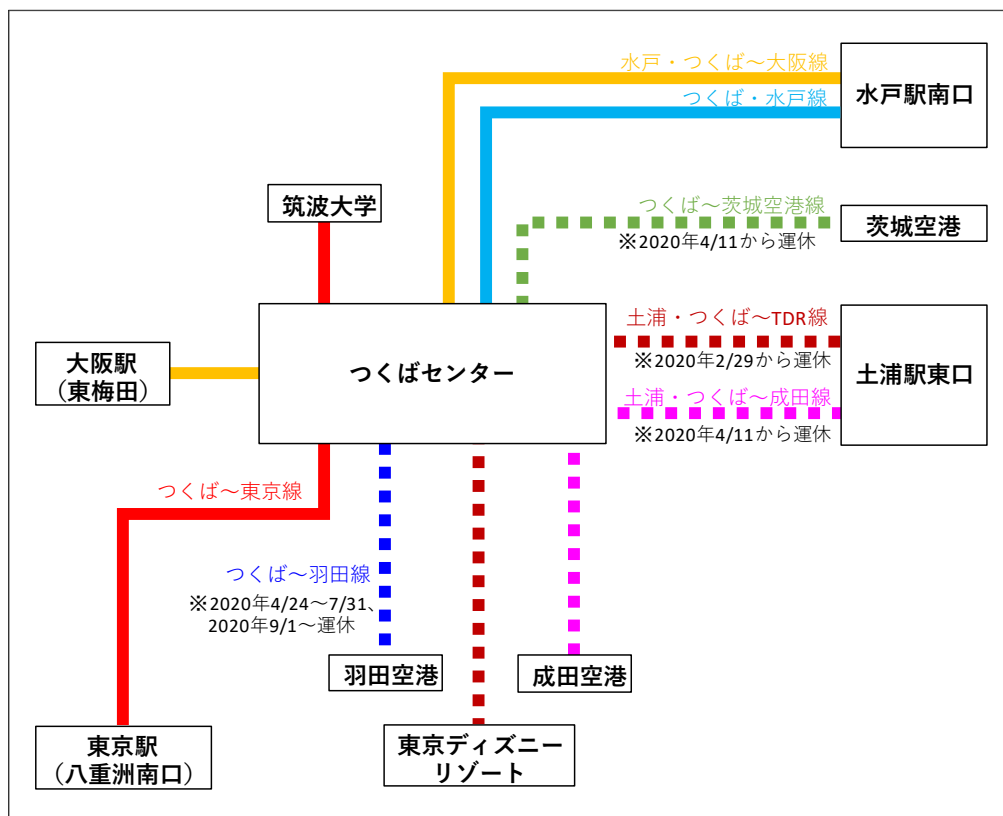
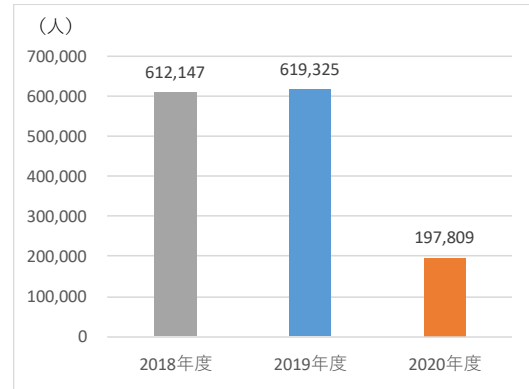
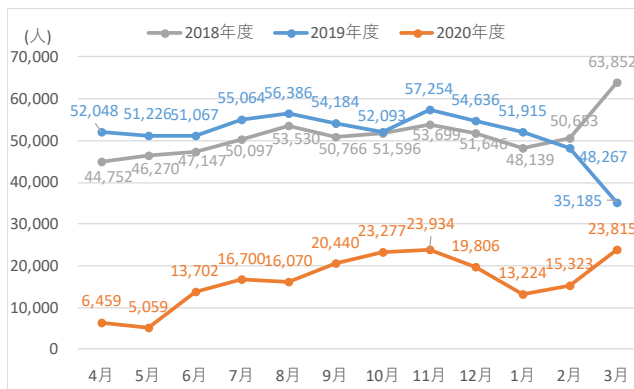
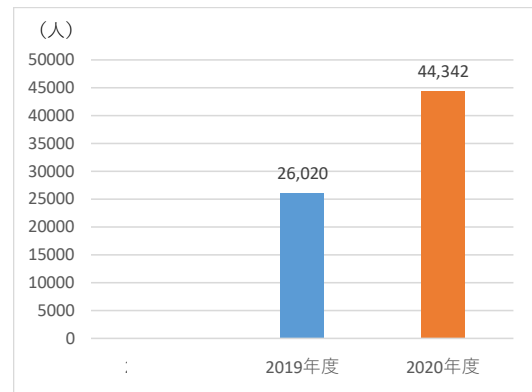
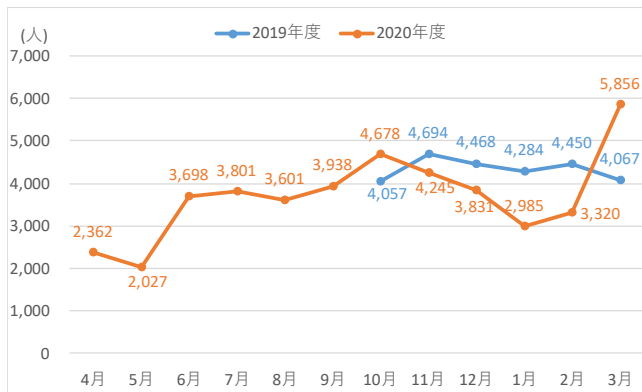


図 2-8 高速バス路線概略図 (2020 年 11 月末時点)

【つくば－東京】

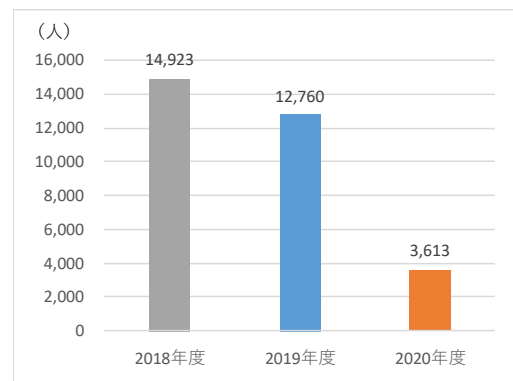
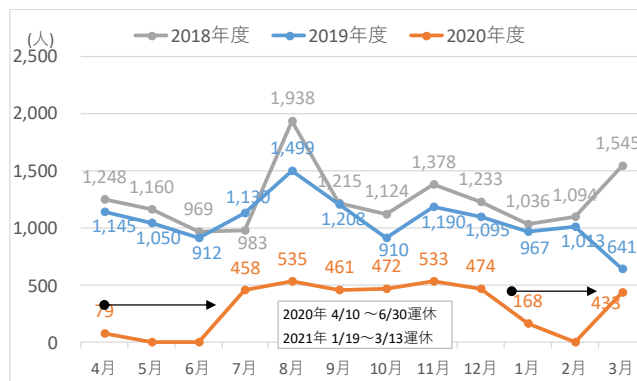


【つくば－水戸】



※2020年10月より茨城県の社会実験により平日2往復から平日8往復、土休日4往復に増便

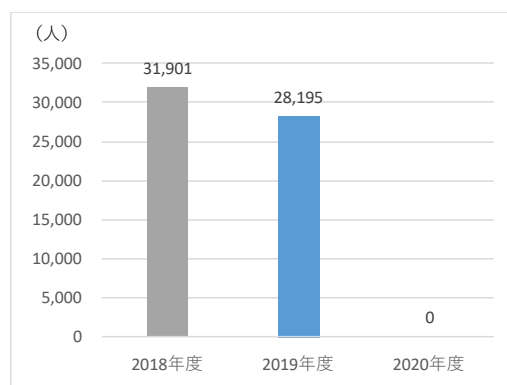
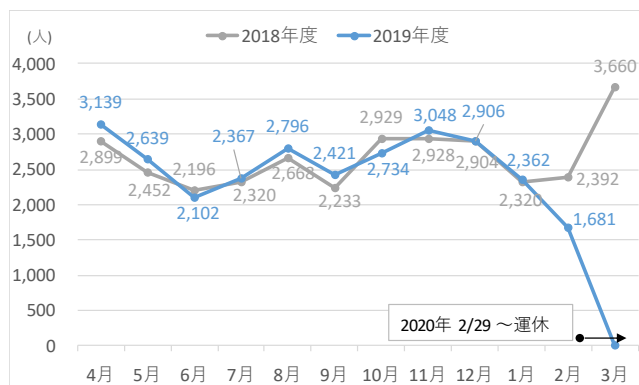
【水戸・つくば－大阪】



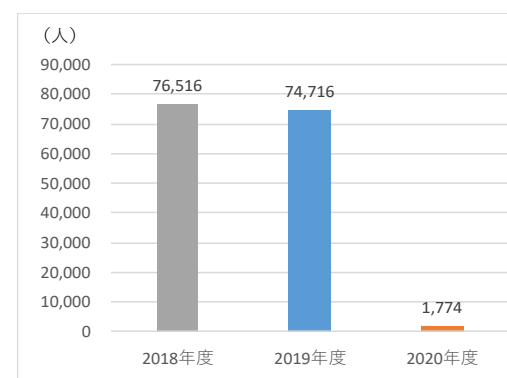
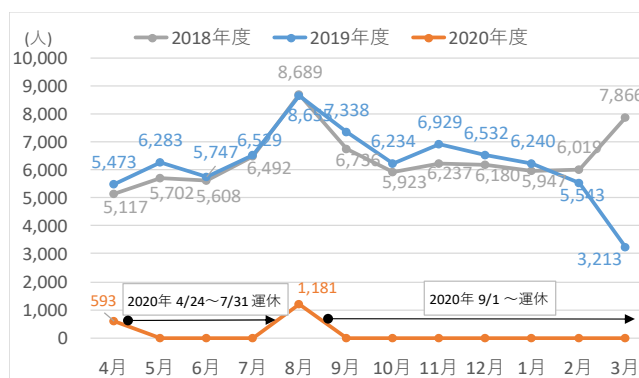
出典：関東鉄道(株)、JRバス関東(株)資料を基に作成

図 2-9 高速バス月別乗車人員の推移①

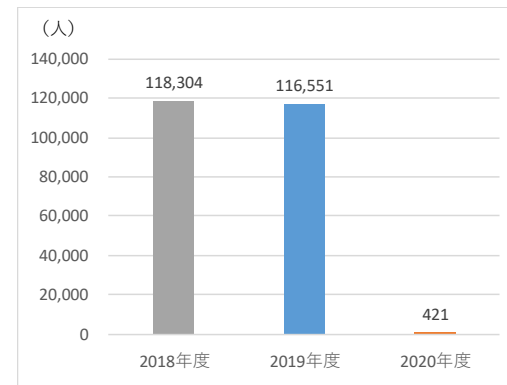
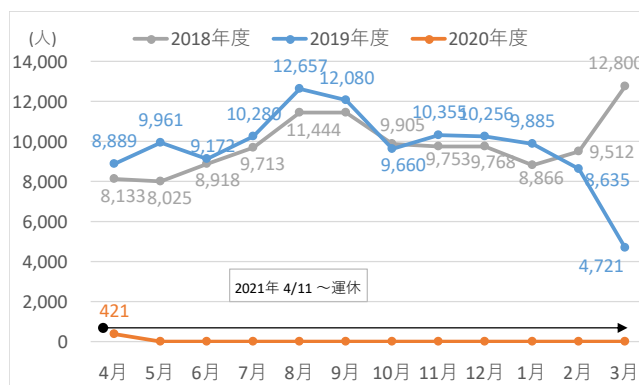
【土浦・つくばー東京ディズニーリゾート】



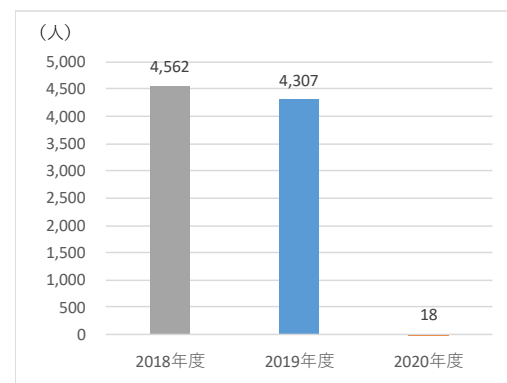
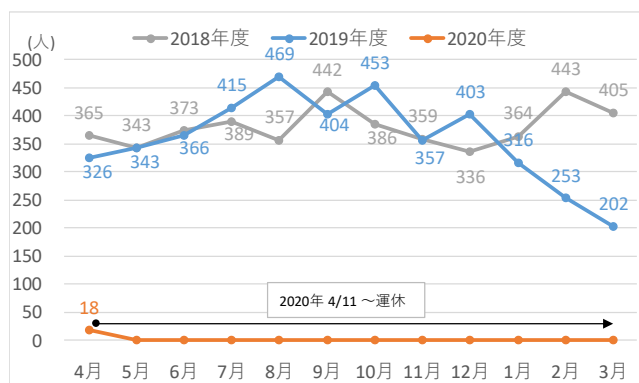
【つくばー羽田】



【土浦・つくばー成田】



【つくばー茨城空港】



出典：関東鉄道(株)、JRバス関東(株)資料を基に作成

図 2-9 高速バス月別乗車人員の推移②

3. 駐車場

つくばセンター地区で（一財）つくば都市交通センターが管理・運営する駐車場は、南1駐車場、南2駐車場、南3駐車場、南4駐車場、北1駐車場、北2駐車場、北3駐車場の合計7箇所である。各駐車場とも、一般利用（時間利用・回数券）と定期利用が可能となっている。



出典：（一財）つくば都市交通センターHP

図 2-10 つくば都市交通センター管理・運営駐車場位置図

(1) 利用台数

(一財) つくば都市交通センターが管理するつくばセンター地区の駐車場利用台数は、西武百貨店が閉店した2017年2月末以降大きく減少し、その後微減で推移していたが、コロナ禍以降の2020年度の利用台数は2019年度より約3割減となった。

特に、駅利用者が中心と思われる北1駐車場の減少率が最も大きい。次いで、周辺に文化施設が多い北2駐車場、南4駐車場の減少率が大きく、筑波大病院、つくばメディカルセンター、つくば看護専門学校に近接する北3駐車場が最も減少率が低かった。

2020年度末時点で、多くの駐車場の利用台数は平年の8割程度まで回復しているが、駅に近接する北1駐車場は半分程度に留まっており、地域内の生活に係る人流は回復してきているものの、つくばから地域外へ向かう人流は、テレワークの定着等により減少したまま推移していることが考えられる。

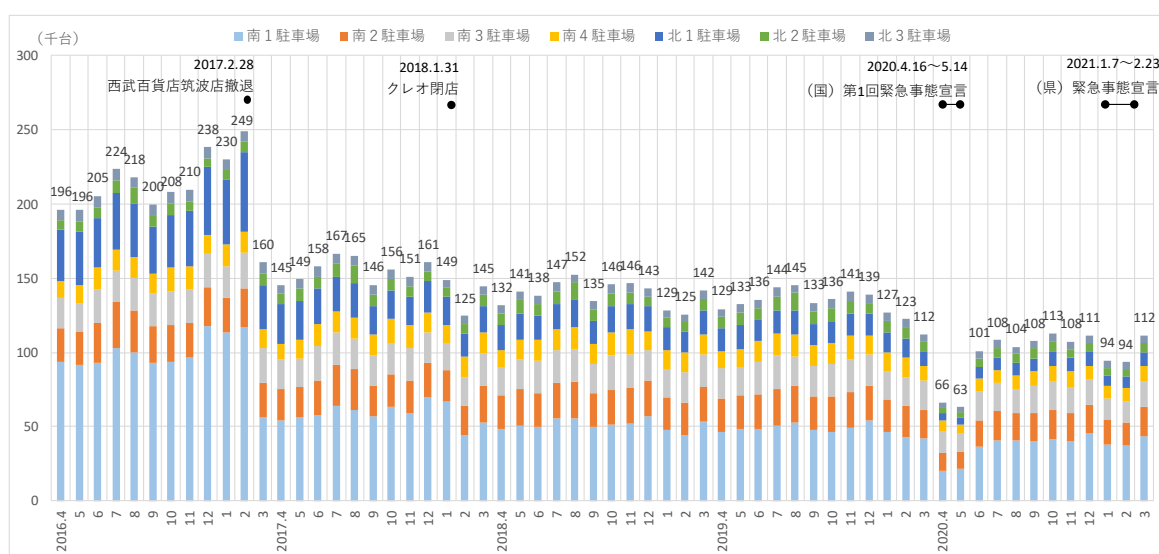


図 2-11 月別駐車場利用台数の推移

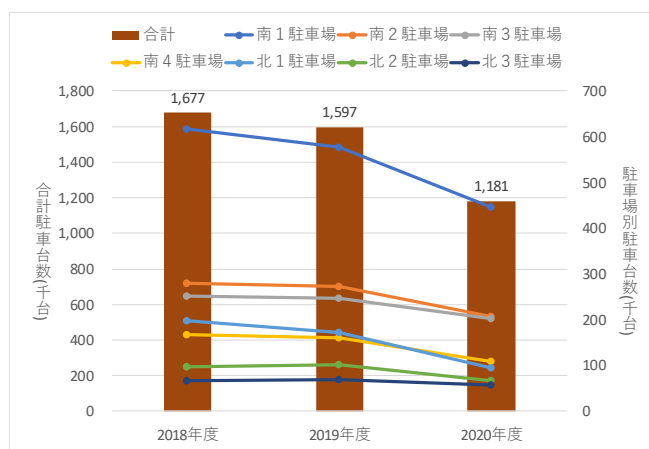


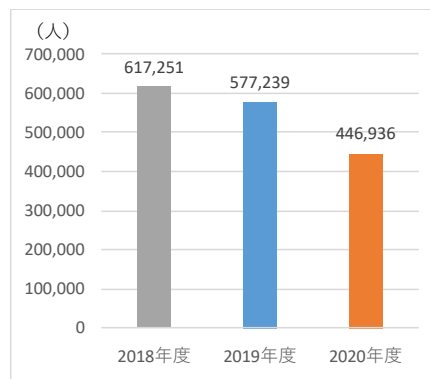
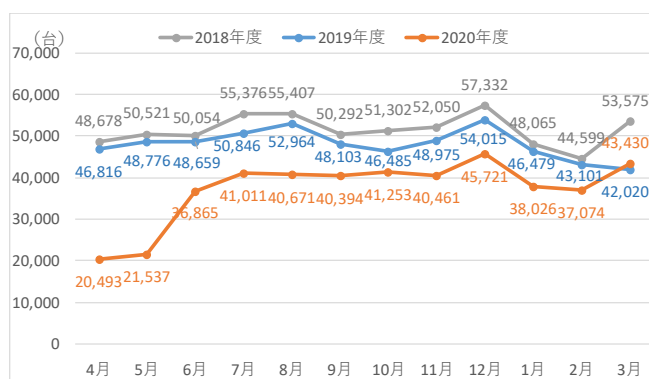
図 2-12 年度別駐車場別利用台数の推移

	2018年度	2019年度	2020年度
南 1	-12.6%	-6.5%	-22.6%
南 2	2.1%	-2.3%	-24.3%
南 3	1.7%	-2.1%	-18.3%
南 4	0.1%	-4.4%	-32.5%
北 1	-22.5%	-12.4%	-44.6%
北 2	3.0%	4.5%	-35.1%
北 3	-7.8%	0.0%	-15.2%
全体	-7.7%	-4.7%	-26.1%

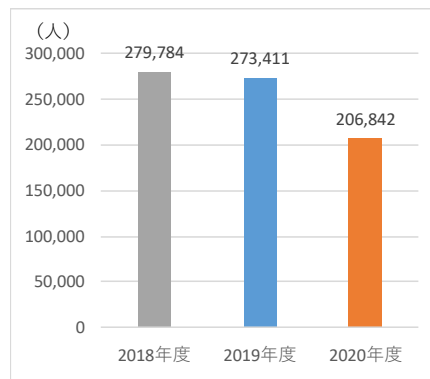
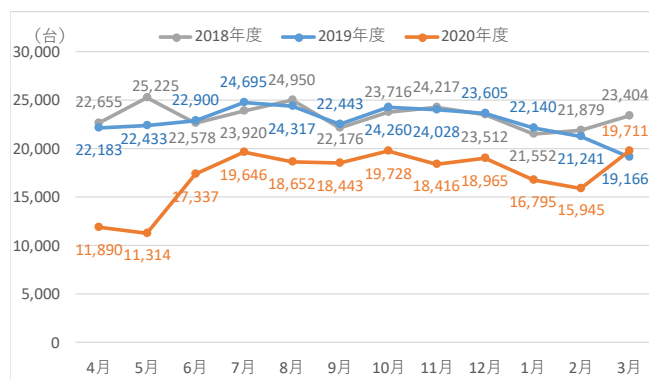
表 2-2 駐車場別利用台数（前年度比）

出典：(一財) つくば都市交通センター資料

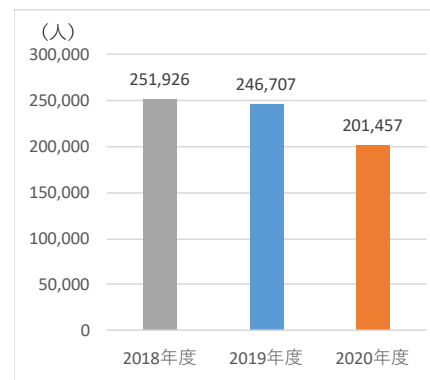
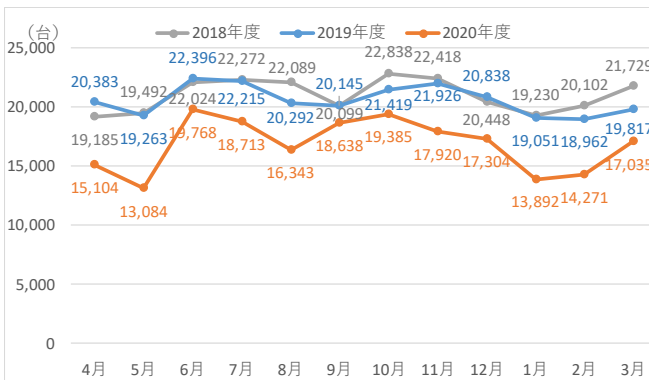
【南1 駐車場】



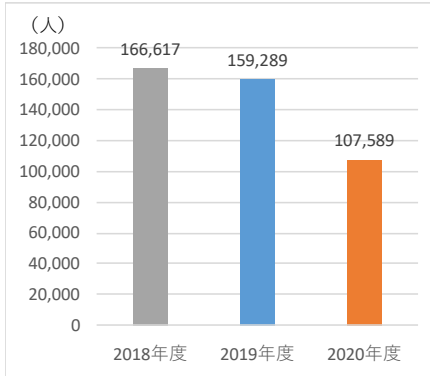
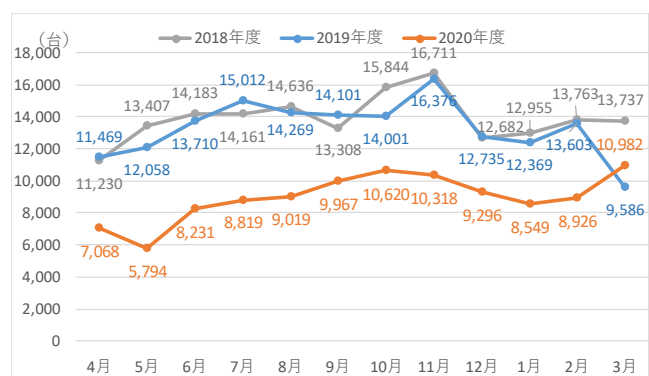
【南2 駐車場】



【南3 駐車場】



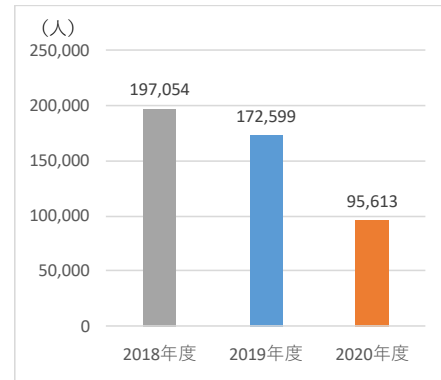
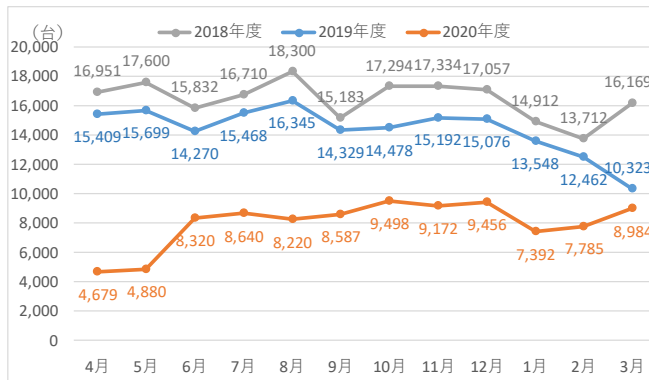
【南4 駐車場】



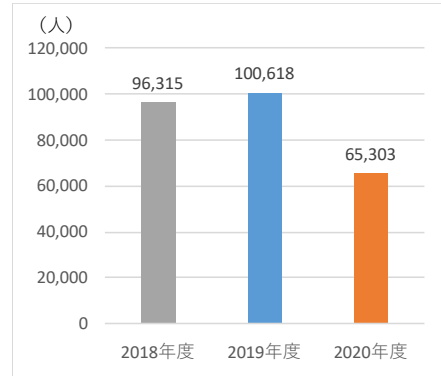
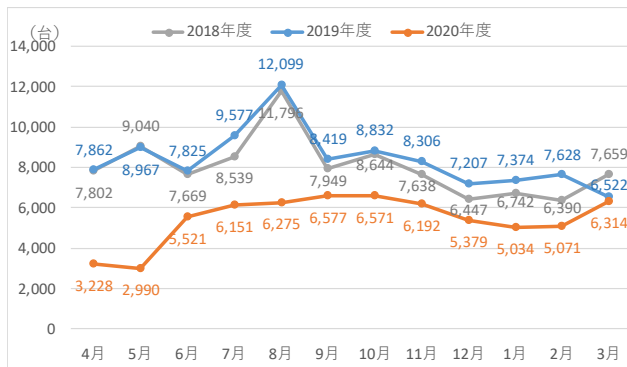
出典：（一財）つくば都市交通センター資料

図2-13 月別駐車場利用台数の推移①

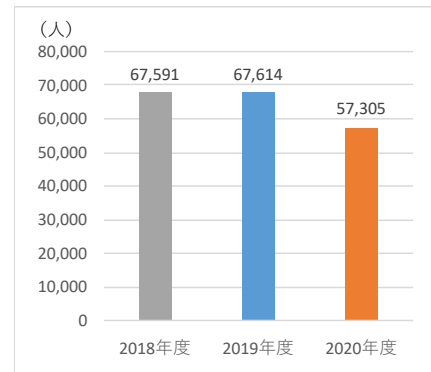
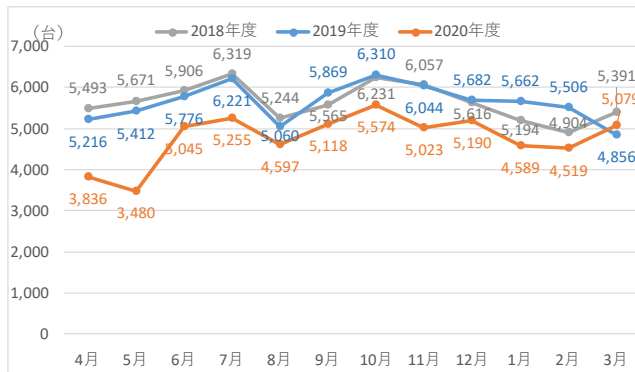
【北1 駐車場】



【北2 駐車場】



【北3 駐車場】



出典：（一財）つくば都市交通センター資料

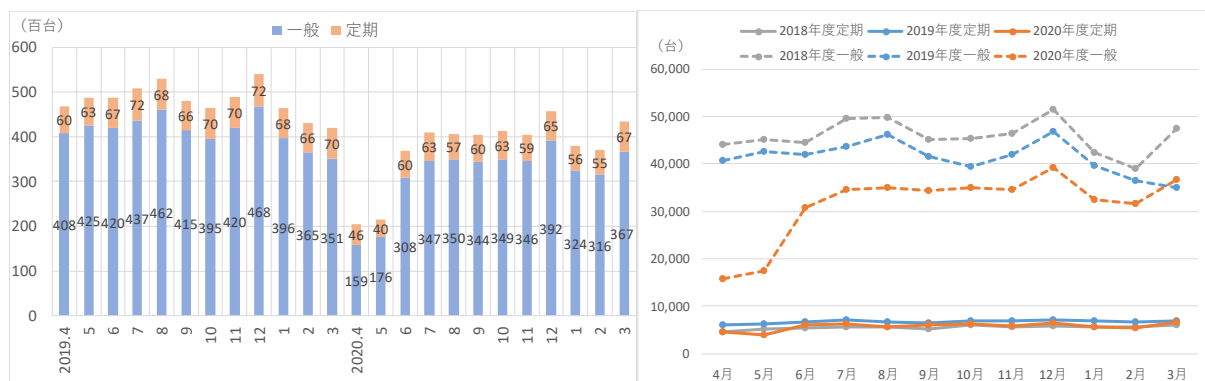
図 2-13 月別駐車場利用台数の推移②

(2) 利用形態

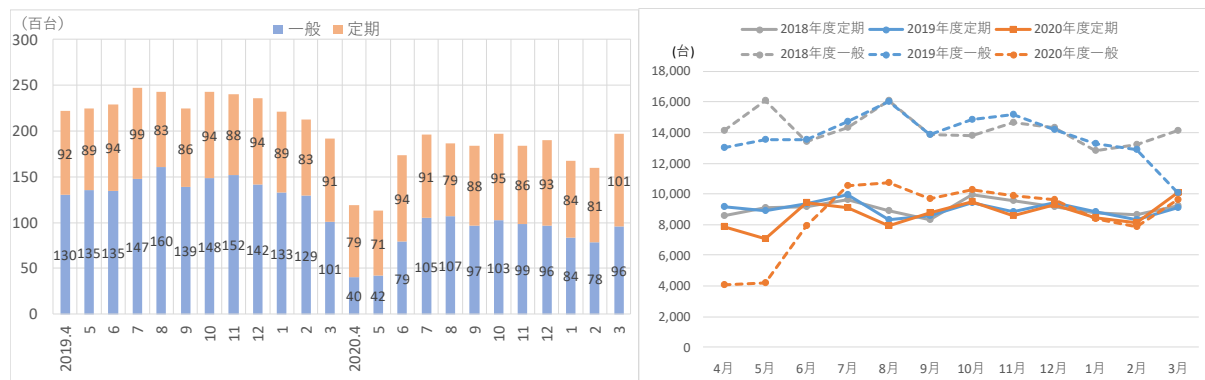
定期利用・一般利用の別で見ると、一般利用は緊急事態宣言等の時期により大きく利用台数が変動しているが、定期利用の変動は少ない。定期利用は、第Ⅰ回緊急事態宣言期間中に利用台数の減少が見られ、多くの駐車場で 2020 年度末までにコロナ禍前に近い水準に回復しているものの、北Ⅰ駐車場のみが半分程度の回復率にとどまっている。

病院が隣接する北Ⅲ駐車場の定期利用については、第Ⅰ回緊急事態宣言期間中は利用が減少したものの、その後は平年を超える利用が見られ、新型コロナウイルス対応のため、病院関係者の出勤が増加する等、勤務形態が変化した可能性が考えられる。

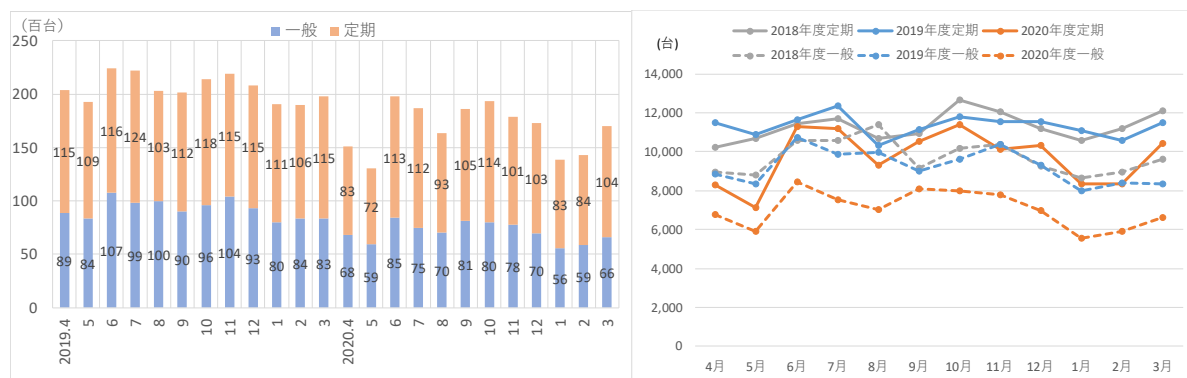
【南Ⅰ駐車場】



【南Ⅱ駐車場】



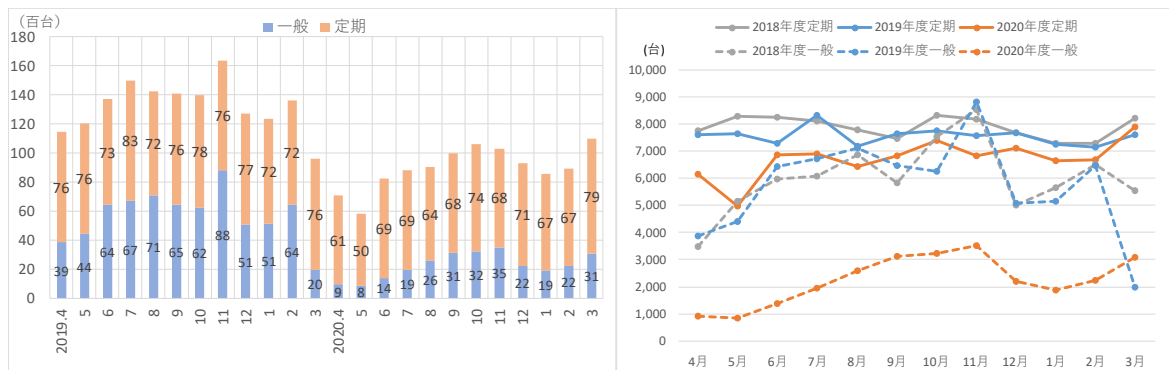
【南Ⅲ駐車場】



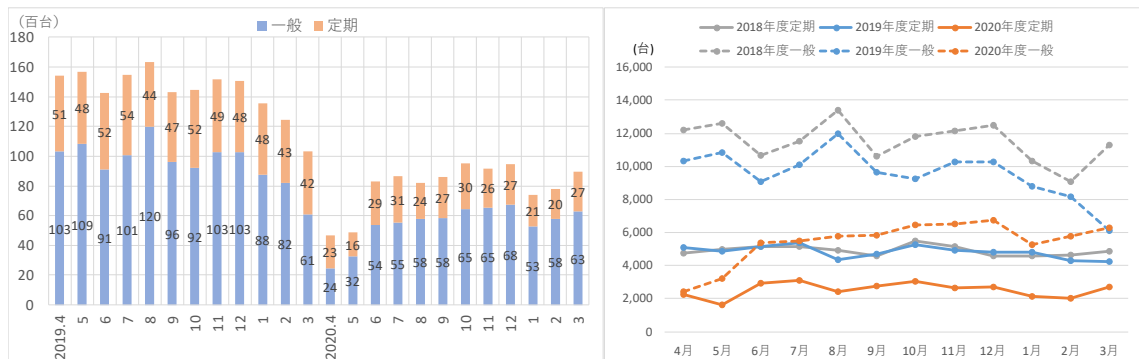
出典：（一財）つくば都市交通センター資料

図 2-14 月別利用形態別駐車場利用台数①

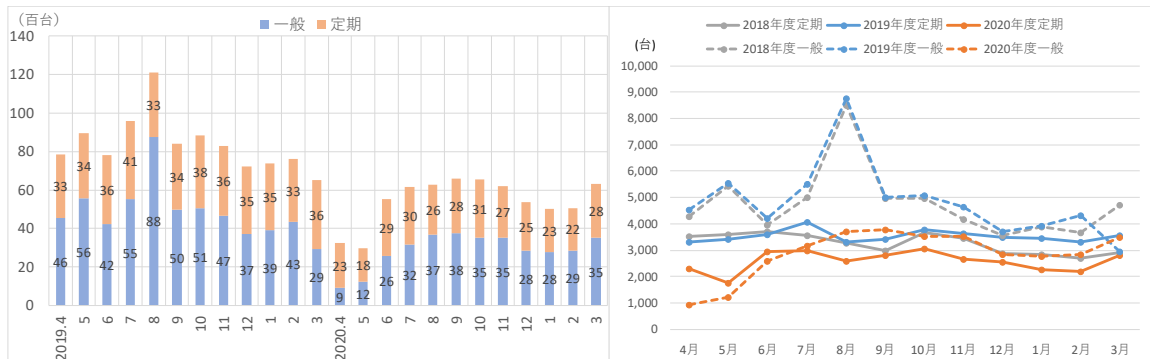
【南4駐車場】



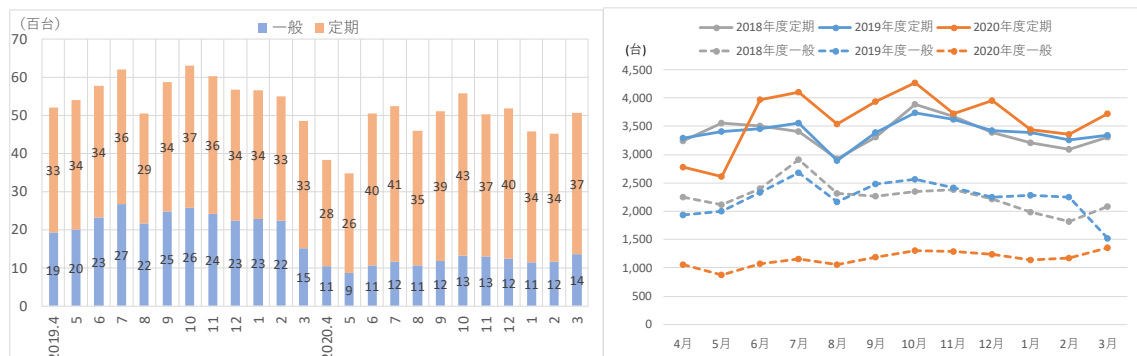
【北1駐車場】



【北2駐車場】



【北3駐車場】



出典：（一財）つくば都市交通センター資料

図 2-14 月別利用形態別駐車場利用台数②

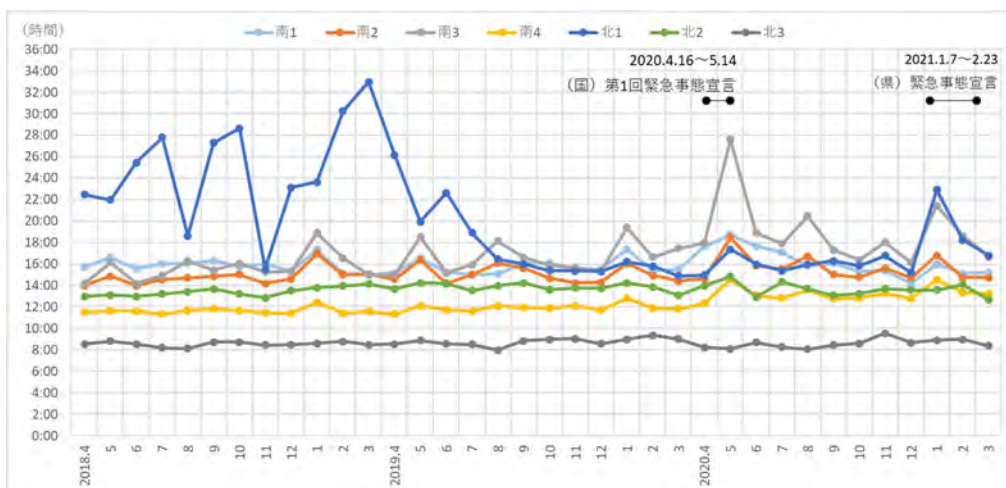
(3) 駐車時間

2020年度の定期利用車両の駐車時間は、商業施設や業務施設が集積する駅南側のエリアの駐車場では平年に比べ全体的にやや長くなっており、近隣事業所の法人契約車両の出勤や営業活動の抑制により使われない時間が増えた可能性が考えられる。

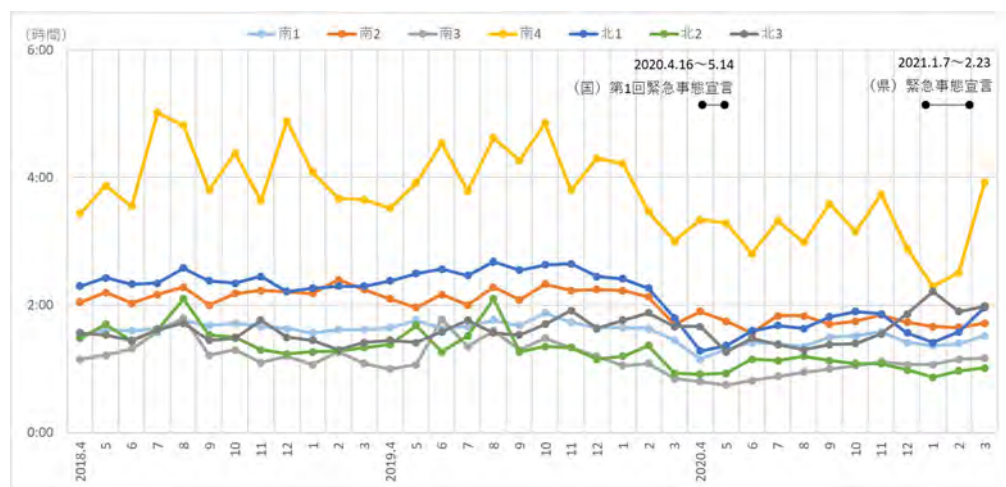
駅利用者が多い北1駐車場は駐車時間が短くなっており、かつ（日付をまたいだ駐車が多い時に見られる）駐車時間が極端に長い月があまり見られず、宴会の自粛等の影響が考えられる。

一般利用車両の駐車時間は、全体的に平年に比べやや短くなっている。南1駐車場、北1駐車場等の商業施設周辺の駐車場では、緊急事態宣言下で買い物を短時間で済ませることが要請されたことや、その後も感染を避けるため短時間で用事を済ませる人が多かったこと、また北1駐車場については出張・買い物等でTXを利用して地域外へ移動する利用者の減少も反映していることが考えられる。周辺にカピオや国際会議場等のイベント施設が立地する南4駐車場においては、イベント関連の利用の減少、北2駐車場では夏休みのエキスポセンター来館者の減少等がうかがえる。

【定期利用】



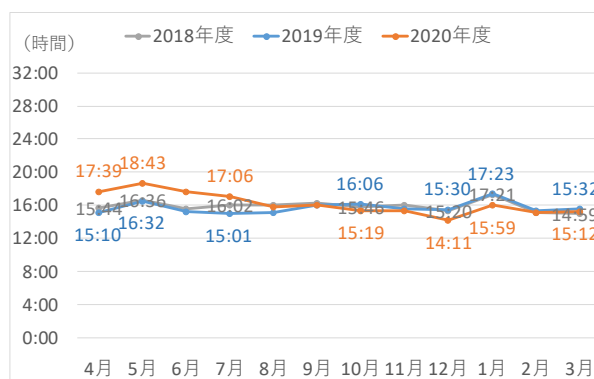
【一般利用】



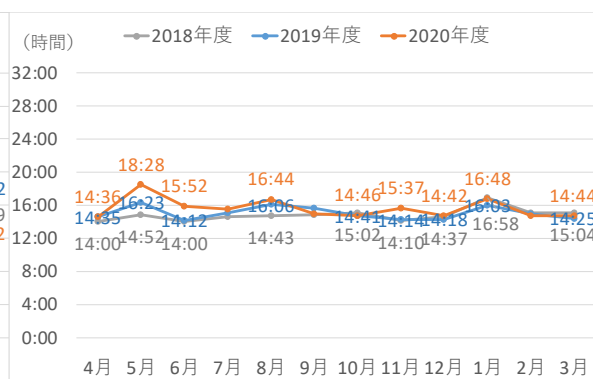
出典：（一財）つくば都市交通センター資料

図 2-15 月別平均駐車時間の推移

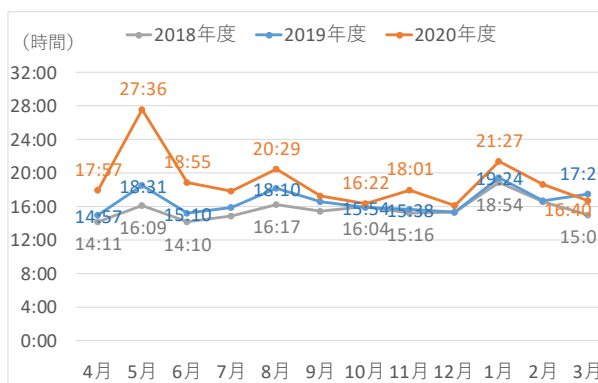
【南1駐車場】



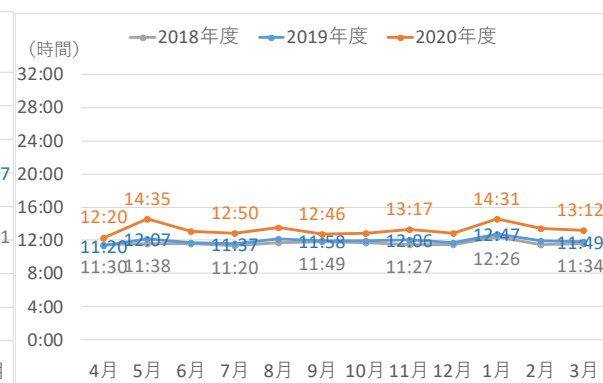
【南2駐車場】



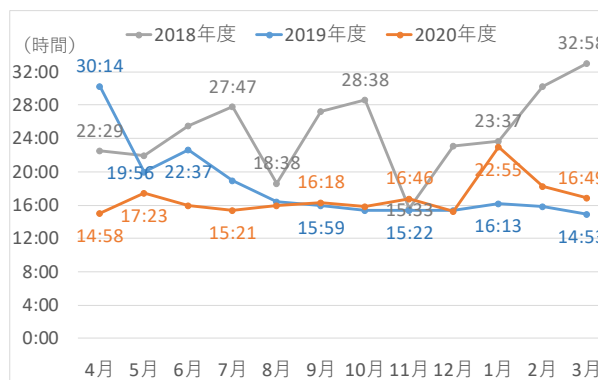
【南3駐車場】



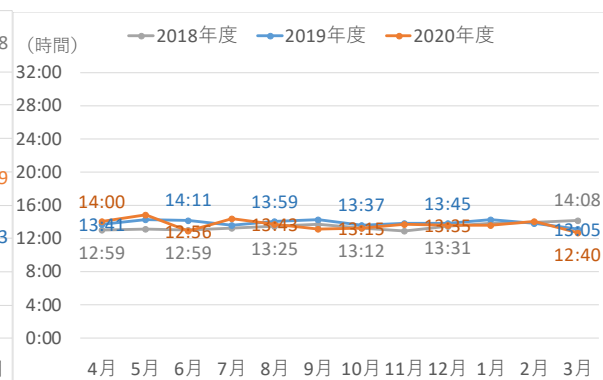
【南4駐車場】



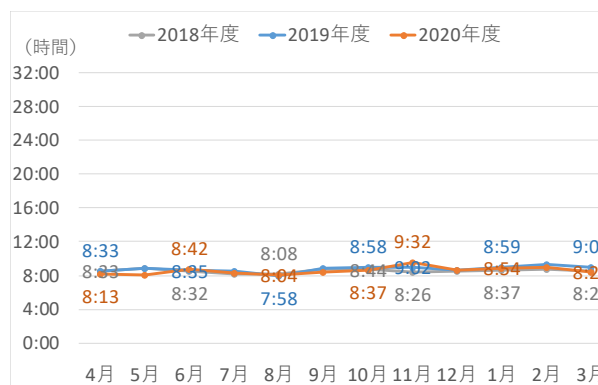
【北1駐車場】



【北2駐車場】



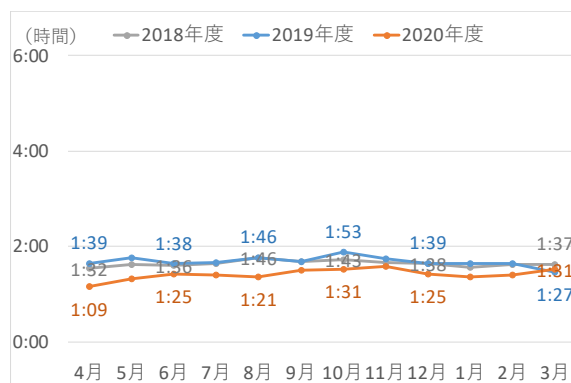
【北3駐車場】



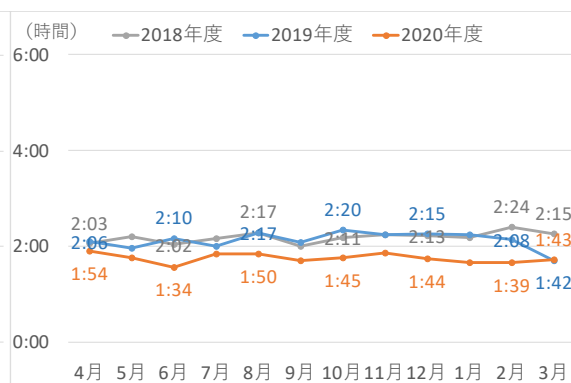
出典：(一財) つくば都市交通センター資料

図 2-16 月別平均駐車時間（定期利用）

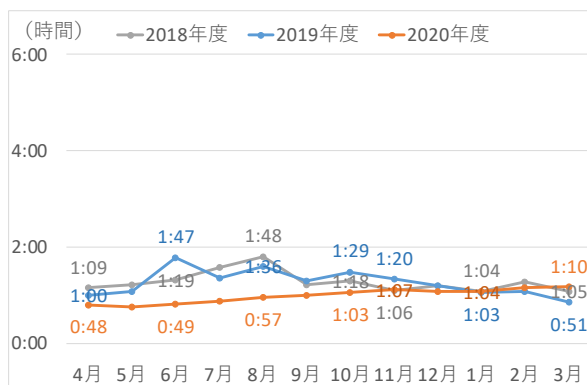
【南1駐車場】



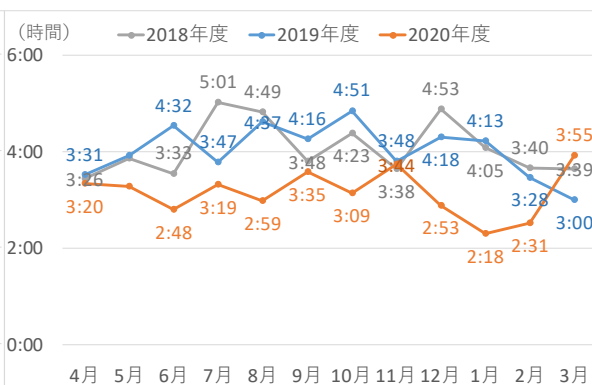
【南2駐車場】



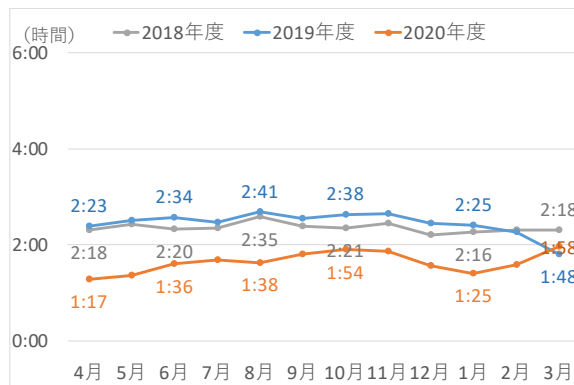
【南3駐車場】



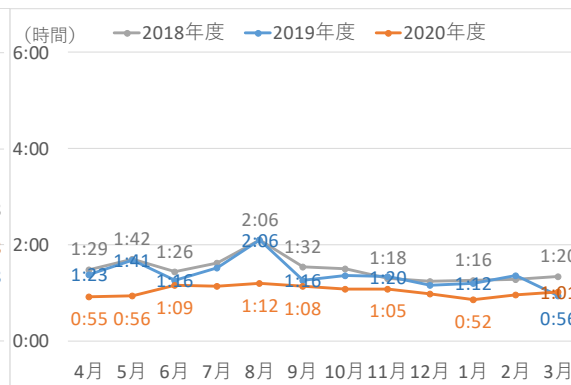
【南4駐車場】



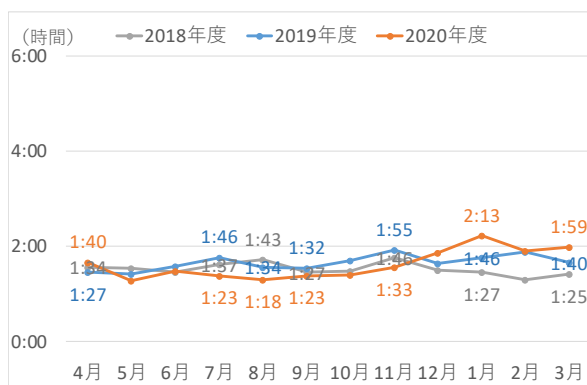
【北1駐車場】



【北2駐車場】



【北3駐車場】



出典：（一財）つくば都市交通センター資料

図 2-17 月別平均駐車時間（一般利用）

4. 駐輪場

つくば駅周辺の市営駐輪場、民営駐輪場（トナリエ）の利用状況を見ると、全体の利用台数は最初の緊急事態宣言時に約3割減少し、2020年度末時点で平年の8割程度まで回復している。

利用形態別に見ると、一時利用は最初の緊急事態宣言時に約3分の1まで大きく減少した後、2020年度末時点で平時の75%程度まで回復している。全体利用の約6割を占める定期利用（契約台数）は、最初の緊急事態宣言時に15%程度減少した後、やや回復するも大きな変動なく推移している。

料金体系別に見ると、民営駐輪場の無料時間（3時間）内での利用台数がコロナ禍前を上回る数まで回復しているのが目立ち、定期利用を含め、通勤・通学等の長時間利用は一定の回復に留まる一方、買い物等の地域内での短時間利用の入出は回復していることがうかがえる。しかし、短時間利用がコロナ禍以前より増加していることから、短時間で用事を済ませる等、つくばセンター地区内での滞在時間が減少している可能性も考えられる。



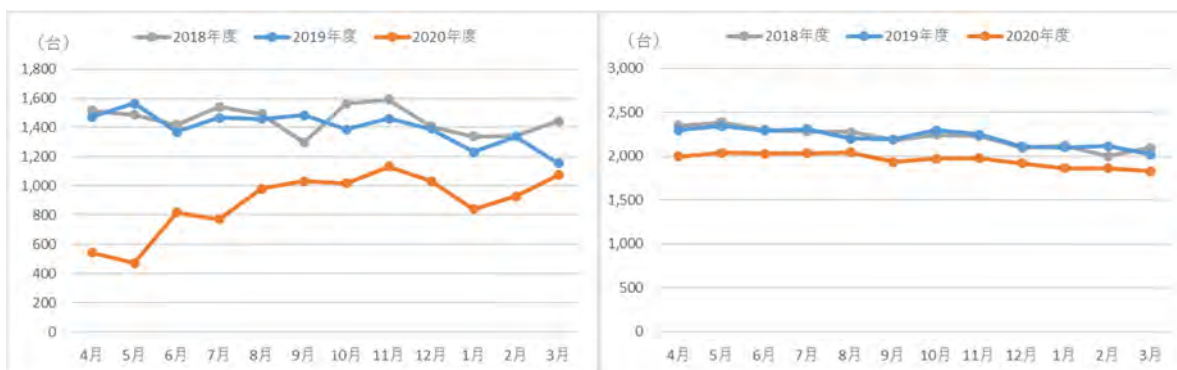
※原付、自動二輪を除く。定期利用台数は定期契約数

出典：つくば市公園・施設課資料、(株)エスコンプロパティ資料を基に作成

図2-18 つくば駅周辺駐輪場1日平均利用台数の推移（市営・民営計）

【一時利用（市営・民営計）】

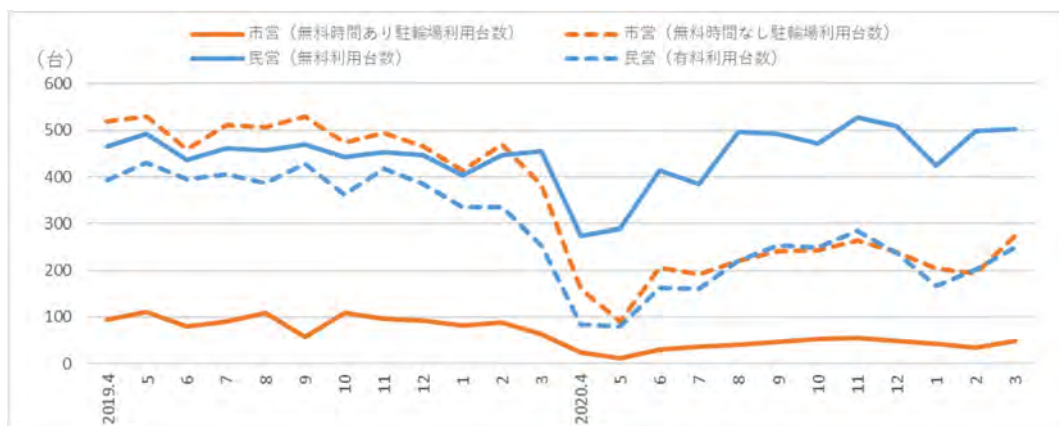
【定期利用（市営）】



※原付、自動二輪を除く。定期利用台数は定期契約数

出典：つくば市公園・施設課資料、(株)エスコンプロパティ資料を基に作成

図2-19 つくば駅周辺駐輪場月別1日平均利用台数



※原付、自動二輪を除く

出典：つくば市公園・施設課資料、(株) エスコンプロパティ資料を基に作成

図 2-20 つくば駅周辺駐輪場1日平均利用台数の推移 (一時利用)



出典：地理院地図（電子国土 WEB）を一部加工し作成

図 2-21 つくば駅周辺駐輪場位置図

表 2-3 つくば駅周辺駐輪場の概要

	駐輪場名	一時利用			定期利用		備考
		収容 台数	利用料金	無料時間	収容 台数	利用料金 (一般利用者)	
市 営	つくば駅中央 [第1区画]	150台	100円／回・日		770台	1,280円／月～ 1,600円／月	利用時間：6時～24時 (土日祝日～22時)
	つくば駅中央 [第2区画]	58台	150円／24時間				
	つくば駅中央 [第3区画]	88台	150円／24時間				
	駅西				121台	2,130円／月	
	つくば駅 A 5 南路上	60台	150円／24時間				
	つくば駅北 1				293台	2,130円／月	
	つくば駅北 2				305台	2,130円／月	
	つくば中央公園東	39台	150円／24時間	2時間以内無料			
	つくば中央図書館西	162台	150円／24時間	2時間以内無料			
	つくば中央図書館南	50台	150円／24時間	図書館・美術館利 用者は終日無料			
	さくら大橋南	117台	150円／24時間				
	さくら大橋北				309台	2,130円／月	
	センター広場東 1				55台	2,130円／月	
	センター広場東 2	44台	150円／24時間	2時間以内無料			
	つくば駅前広場	96台	150円／24時間				
	つくば駅前広場南	42台	150円／24時間		500台	2,130円／月	
民 営	A B	155台	100円／20時間	3時間以内無料			2018/2/26～ 2021/5/19まで休止
	C	206台	100円／20時間				
	D	176台	100円／20時間				2階
	E	189台	150円／10時間				1階
	F	78台	200円／10時間				

※原付、自動二輪を除く

出典：つくば市 HP（公園・施設課）、(株) エスコンプロパティ 資料を基に作成

5. 歩行者交通量

つくばセンター地区におけるコロナ禍による歩行者及び自転車の通行量（以下、通行量）の変化を、（一財）つくば都市交通センターが毎年実施している歩行者・自転車交通量調査結果より分析する。

表 2-4 つくば中心市街地歩行者・自転車交通量調査概要

調 査 日：2018 年度	2018 年 10 月 25 日（木）	2018 年 11 月 3 日（土）
2019 年度	2019 年 10 月 31 日（木）	2019 年 10 月 26 日（土）
2020 年度	2020 年 10 月 29 日（木）	2020 年 10 月 31 日（土）
調査時間：7 時～19 時（12 時間）		
調査地点：つくば駅周辺の 9 地点（2018 年度は 8 地点）※図 2-23		

（1）平日・休日通行量

2020 年度の調査は 10 月で、第 2 波と第 3 波の間で感染者数が少なく、Go To イート等のキャンペーンも行われ、比較的外出に寛容な時期に実施された。

つくばセンター広場周辺の調査地点の通行量は、平日が前年度比約 34%減、休日が約 29%減と、やや平日の減少率が大きかった。

平日通行量の減少が著しい箇所は、駅利用者が多く利用者数減少が大きかった北 1 駐車場からつくば駅に向かう地点 I①で、北 1 駐車場の通勤利用が減少したことが要因と考えられる。

一方、あまり減少が見られなかった箇所は、地点 D、地点 C、地点 E であり、居住者の日常的な生活動線としての利用が多いためと考えられる。

休日通行量の減少が著しい箇所は、駅から大学方面に向かう I③、つくばセンター広場へ向かう I⑤であり、外出の自粛により休日につくばを訪れる人、つくばから出かける人が減少したと考えられる。2020 年度の地点 A の通行量が増加しているのは、調査日当日に近隣のつくばカピオにてイベントが開催されており、イベント関連通行量の増加が要因と考えられる。



※つくばセンター広場周辺の地点 B、地点 C、地点 D、地点 F、地点 H の合計

図 2-22 つくばセンター広場周辺平日・休日通行量

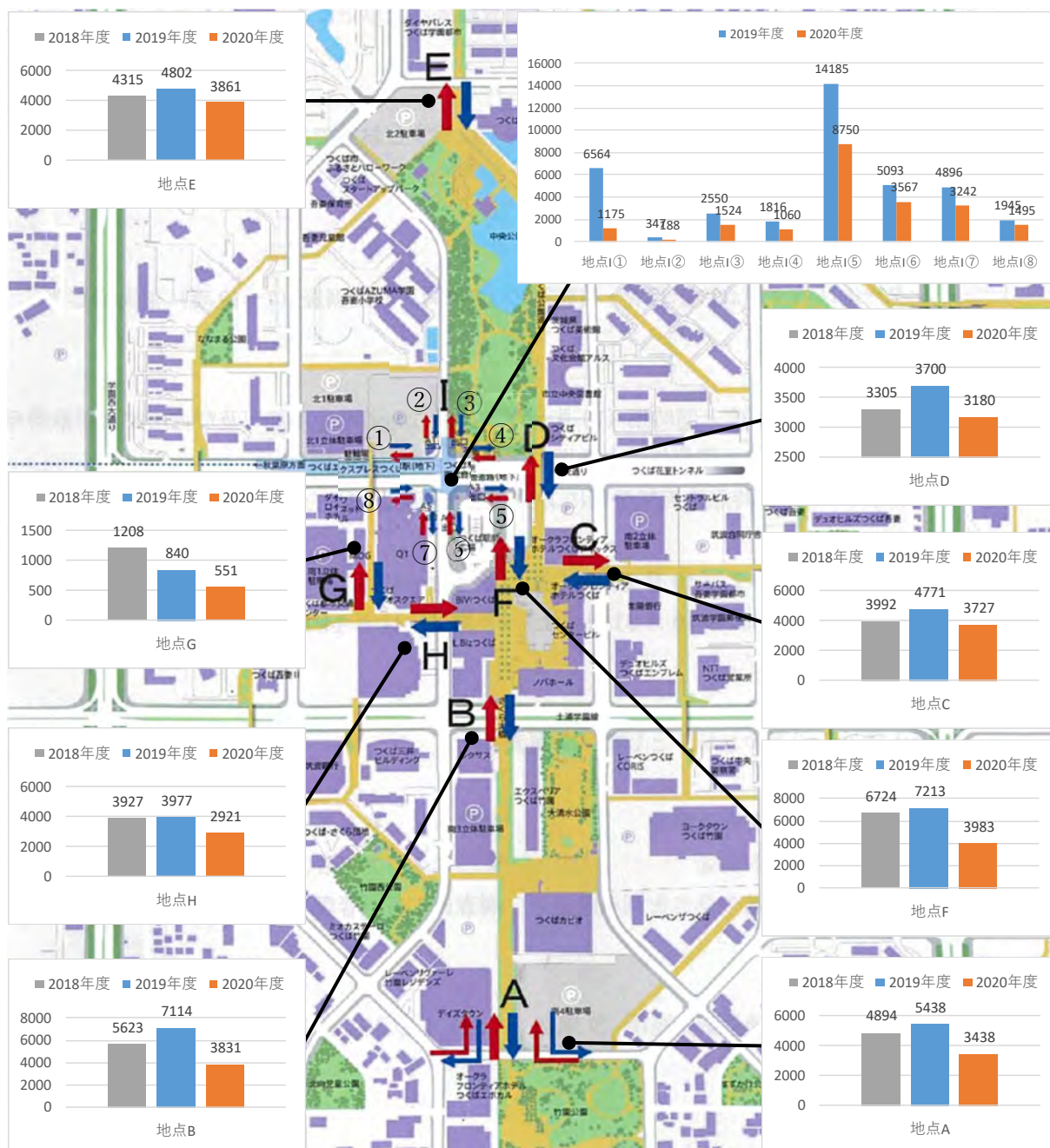


図 2-23 つくばセンター地区歩行者・自転車通行量（平日）

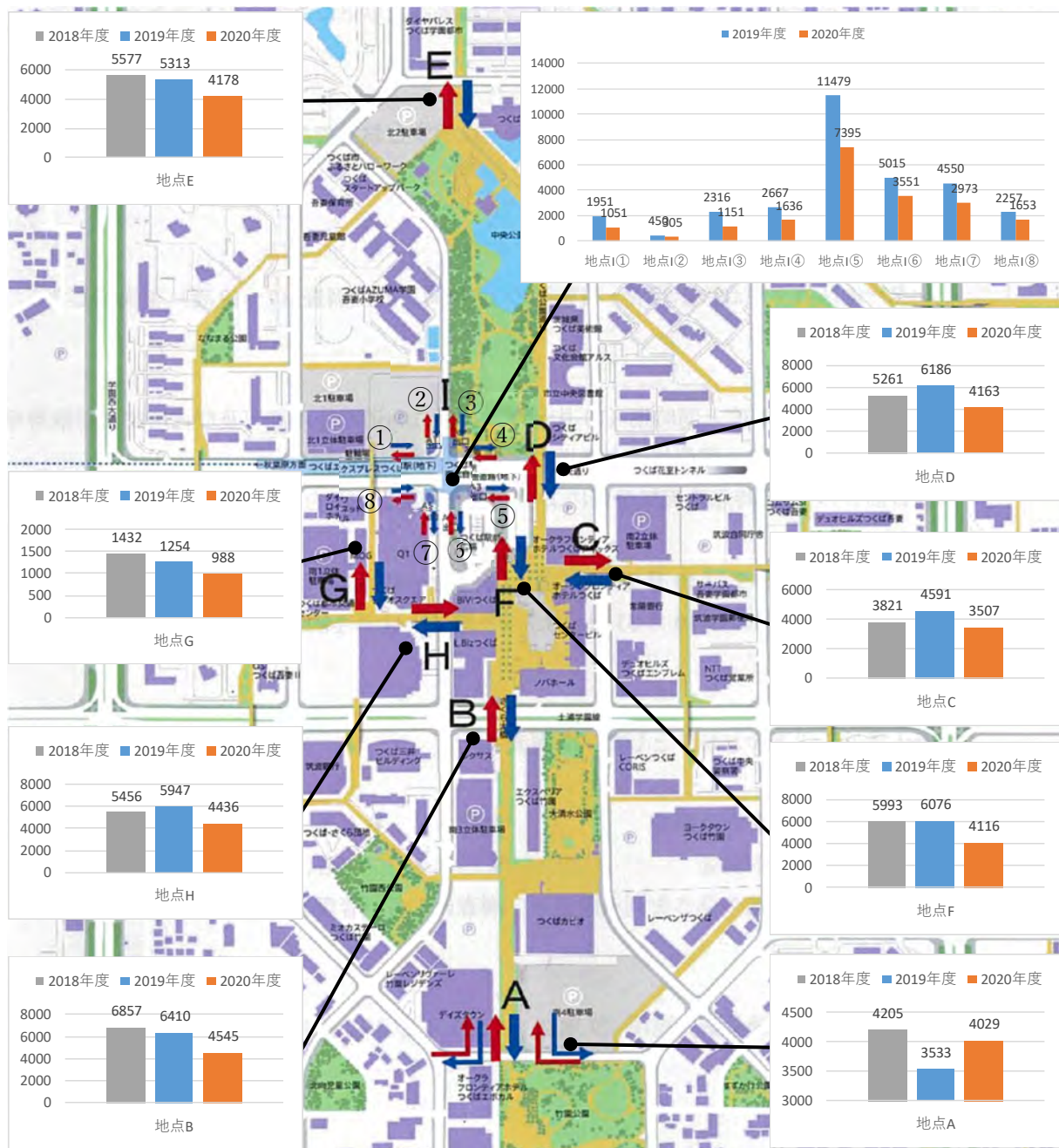


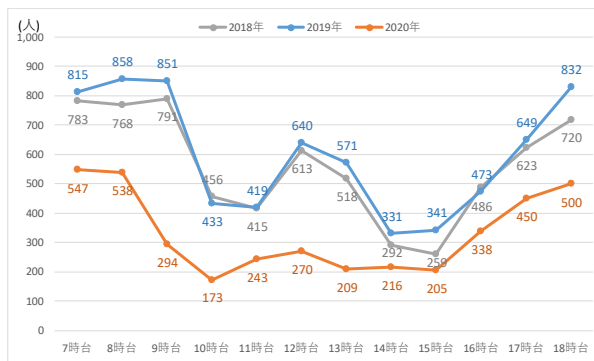
図 2-24 センター地区歩行者・自転車通行量（休日）

(2) 時間帯別交通量

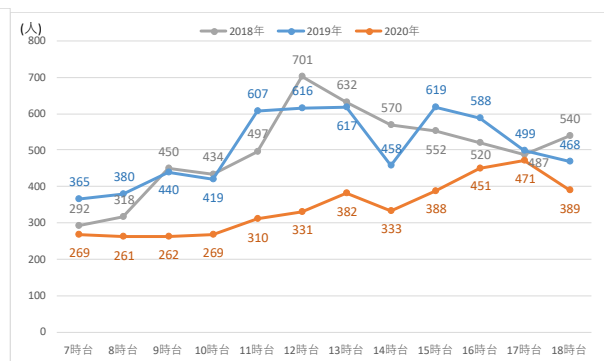
つくばセンター地区内の主要な回遊動線にあたるつくばセンター広場に至る地点F及びつくばセンター広場とクレオを結ぶ橋梁地点Hの時間帯別通行量を見ると、平日は朝の出勤時間帯の通行量が大きく減っている。

また、平日・休日ともに昼食時間帯の通行量が大きく減っており、外出をしても外食を抑える人が多かったことが要因と考えられる。

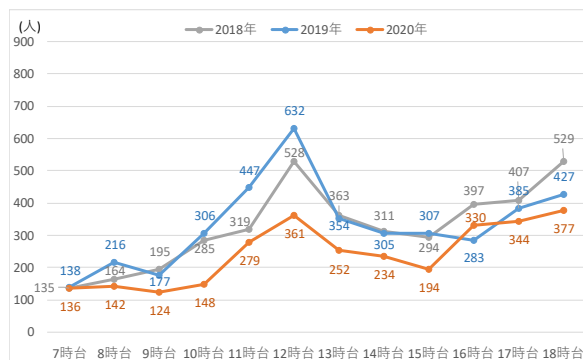
【F 平日】



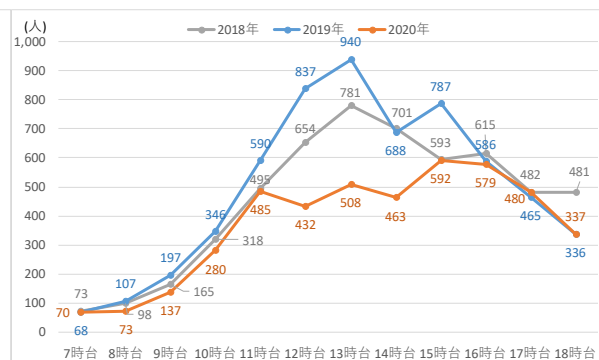
【F 休日】



【H 平日】



【H 休日】



出典：(一財) つくば都市交通センター「つくば中心市街地 歩行者・自転車交通量調査」

図 2-25 つくばセンター地区時間帯別歩行者・自転車通行量

6. 来訪者数

携帯電話の位置情報データから、つくば駅周辺の来訪者数の推移を見ると、コロナ禍の影響が出始める前の2019年11月～2020年2月までは、1日1万～1万2千人程度の人出が見られていたが、緊急事態宣言が発令された4月～5月は急減し、ゴールデンウィーク中の最も少ない時期には1日3千人程度まで減少した。

緊急事態宣言の解除後、徐々に人出は回復し、2020年11月には8千～1万人程度まで増加したが、年末の感染者の急増と年明けから2月末まで首都圏に緊急事態宣言（茨城県は独自の緊急事態宣言）が発令されたことを受け再び減少し、2021年3月末時点では1日1万人程度の回復に留まっている。

※つくばセンター広場、及びトナリエつくばスクエアを含む右図のエリアを通過・滞在した人口（推計人口）

出典：

技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」（au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計）

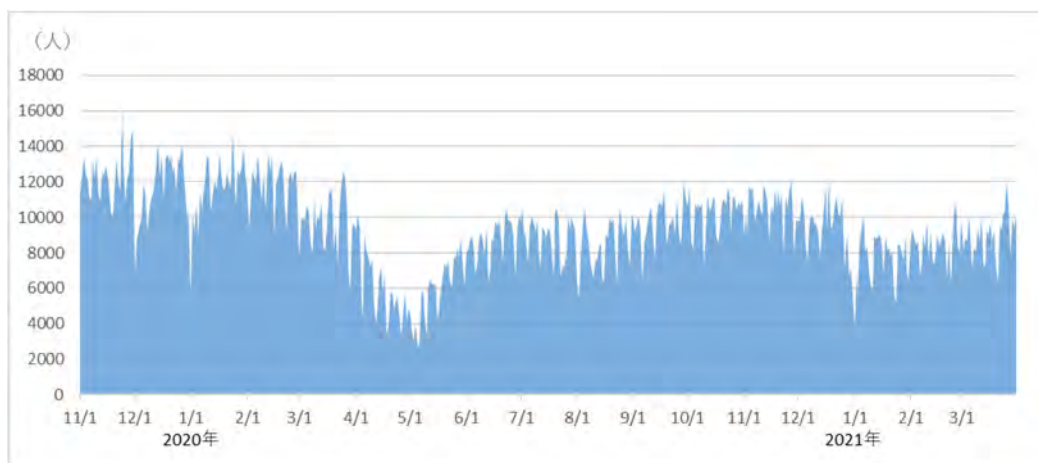


図 2-26 （参考）つくば駅周辺来訪者数の推移

つくば駅周辺を訪れた人を居住地別に見ると、緊急事態宣言時はつくば市内・茨城県内居住者はおおむね半減、首都圏（1都3県）居住者は3割、その他の地域は1割にまで減少した。2020年度末にはつくば市内・茨城県内居住者は8割程度まで回復しているが、首都圏（1都3県）居住者は6割、その他の地域は3割程度に留まっており、県を跨いだ移動は回復が遅れている様子うかがえる。

また、年代別では、70才以上がコロナ禍前より大きく減少しているのが目立ち、高齢者に高いとされる重症化リスクへの懸念から外出を控える傾向があったことが推察される。

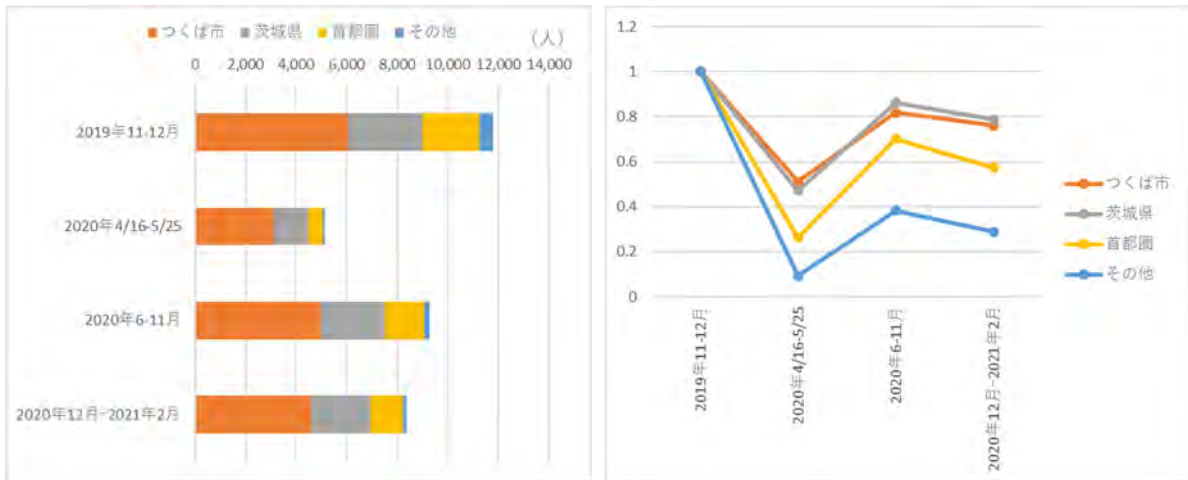
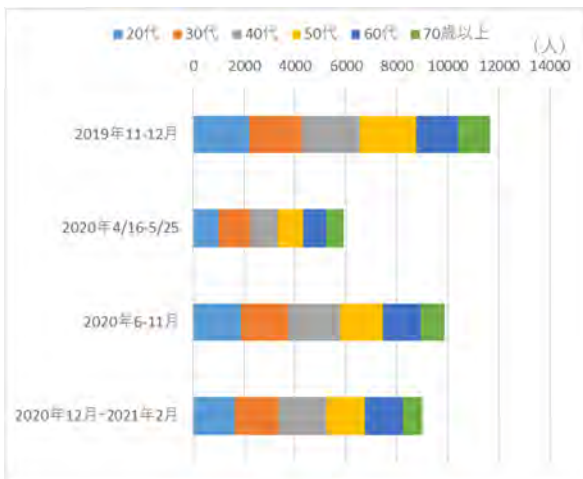
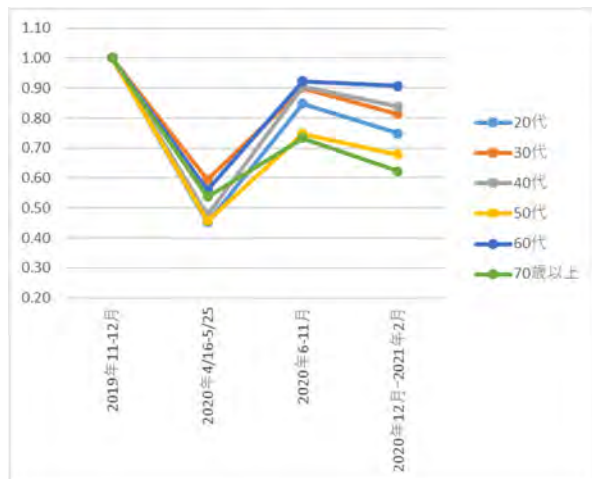


図 2-27 (参考) つくば駅周辺来訪者の居住地別内訳

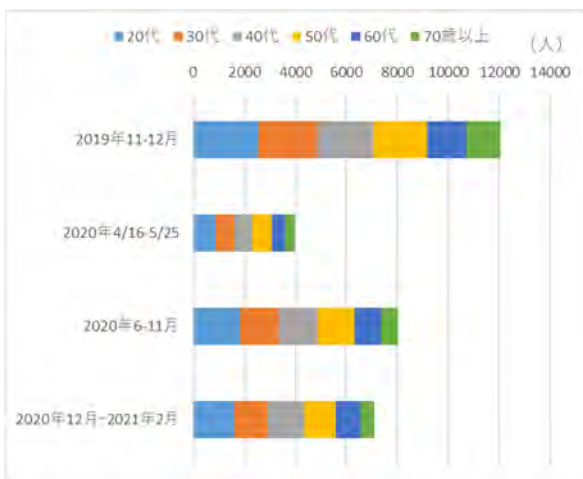
【平日来訪者数】



【平日来訪者増減率】



【祝休日来訪者数】



【祝休日来訪者増減率】

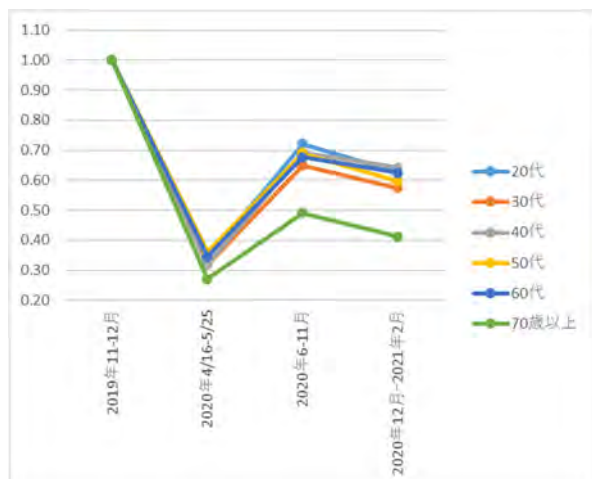


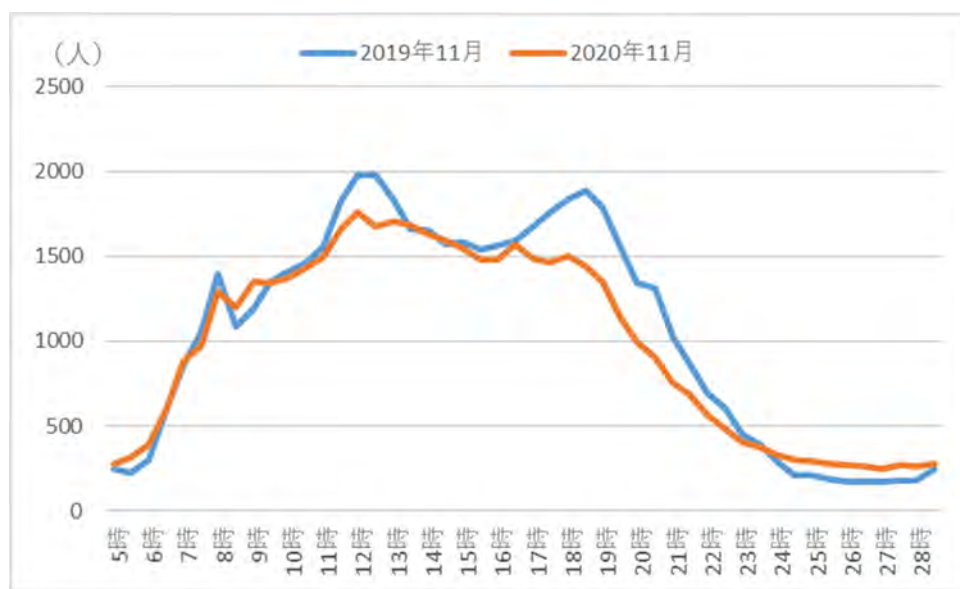
図 2-28 (参考) つくば駅周辺来訪者の年代別内訳

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」(au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計)

時間帯別の来訪者数を、2019 年と 2020 年の 11 月で比べると、平日はランチタイムの 12 時頃と、帰宅時間の 17 時～19 時に多かった人の流れが、コロナ禍後は山がなくなり人出の多い時間帯がなくなっている。また、20 時～22 時も減少しており、会食の自粛を受け帰宅時間が早まっていることがうかがえる。

休日は全体的に人出が大きく減少しており、昼間のピーク時でも平日と同程度の人流となっている。

【平日】



【土日祝日】

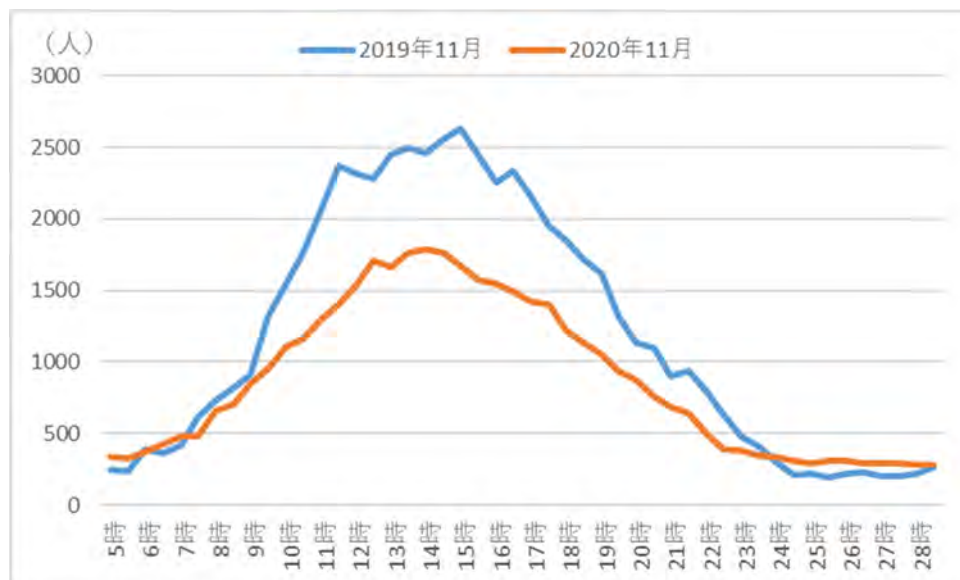


図 2-29 （参考）つくば駅周辺の時間帯別平均来訪者数（11 月）

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」（au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計）

第3章 | 生活・余暇活動

つくばセンター地区には、図書館、美術館、ホール等様々な文化施設があるが、これらの利用者も大きく減少した。特に大きな影響を受けたのはノバホールをはじめとするホールで、大規模なイベントの自粛や海外からのアーティストの来訪が困難となったことが大きく影響している。

中央図書館においては、休館期間や利用制限期間があり来館者は約3割減少したが、貸出冊数は13%減に留まり、家で過ごす時間の増加も相まって多く利用されたことが推察される。

市民活動センターにおいては、利用件数に比べ利用人数が大幅に減少しており、大人数での集まりが抑制されたことがうかがえる。

洞峰公園やゆかりの森テントサイト等では、時期によっては平年以上の利用も見られ、身近で気兼ねなく過ごせる場として多くの人に利用されたものと思われる。一方で中央公園は来訪者が減少しており、イベントの中止が大きく影響したと考えられる。

	2018年度		2020年度
つくばセンター地区 イベント 来場者数	93,397人 つくばペデカフェプロジェクト	-91%	8,762人
中央図書館 貸出冊数	985,064冊	-13%	852,781冊
ノバホール 入場者数	114,363人	-89%	13,026人
市民活動センター 利用者数	12,697人	-78%	2,844人
公園来訪者数	コロナ禍前 2019年10-11月 100% 土日祝日		宣言解除後 2020年10-11月 中央公園 57% 洞峰公園 122%

1. イベント開催状況

つくばセンター地区では、年間を通して各種のイベントが行われており多くの集客があったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 2020 年度はほとんどが中止となった。

表 3-1 つくばセンター地区における主なイベントの開催状況（2020 年度）

	開催	中止
4 月		
5 月		つくばフェスティバル
6 月		市民活動フェスタ
7 月		世界のつくばで盆おどり
8 月		まつりつくば 夏のイベント（水遊び場）
9 月	プレミアムビールとうまいもの祭り	
10 月		つくばクラフトピアフェスト つくばパンまつり 食と酒東北祭り つくばハロウィンフェス 秋のイベントラリー
11 月	コーヒーフェスティバル（web 開催） 音の宝箱	
12 月	冬のイルミネーション 一本からのクリスマス	ランタンアート 世界のうまいもんをつくばで
1 月		
2 月	梅に願いを	
3 月		ふるさとつくばゆいまつり
通年開催	つくばセンターマルシェ（約 4 か月中止）	ストリートサンデー（毎月第 3 日曜日）

※つくばセンター地区活性化協議会主催・共催、支援イベント

出典：つくばセンター地区活性化協議会資料を基に作成

つくばセンター広場等で行われているイベントの内、「つくばペデカフェプロジェクト」として行われているイベントの来場者数でコロナ禍前後の集客状況を比べると、2019 年度は推定約 12 万人の来場が見られたが、2020 年度の開催日数は半分以下、来場者は 1 割以下と大幅に減少している。



※通年開催のマルシェ（出店）は含まない

出典：つくば市学園地区市街地振興課資料を基に作成

図 3-1 つくばペデカフェプロジェクト イベント来場者数・開催日数

2. 文化施設利用状況

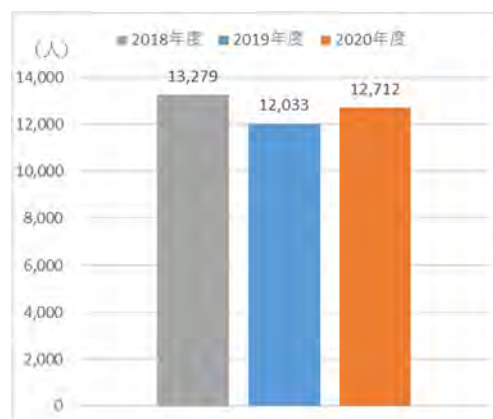
(1) 図書館

中央図書館では、緊急事態宣言期間中は休館となり、再開後の6月及び県独自の緊急事態宣言が発令された1月～2月にかけて、閲覧席や学習室等の滞在型サービスの休止措置が取られた他、感染拡大期には図書館で行うイベントも中止された。

これに伴い大幅に減少した来館者数は、再開後は回復をみせているものの、2020年度末時点で平年の8割程度に留まっている。利用形態別に見ると、貸出利用者は平年と同等まで回復しているが、滞在型の利用者は自習利用と思われる夏休み期間中の利用の増加がほとんど見られず、以降も一定の回復に留まっている。

一方で、中央図書館の貸出冊数は再開直後の6月には平年に近い数まで回復し、その後も平年と同等の数で推移している。屋外の自動車図書館は、運行を再開した6月以降は平年を上回る利用者が見られ、家で過ごす時間の増加もあり本の貸出ニーズは高まっているものの、屋内の図書館での滞在利用が控えられている様子が見える。

【貸出者数】



【貸出冊数】



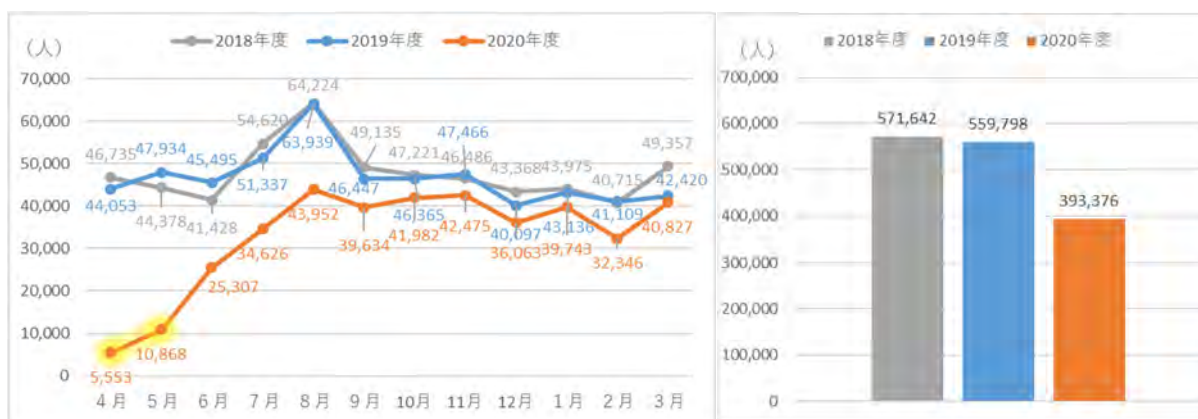
— 休止期間含む

※運行休止期間：2020/4/4、4/5、4/8～5/17

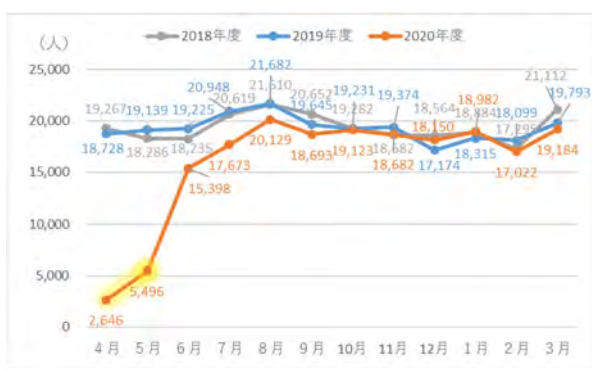
出典：つくば市立中央図書館資料を基に作成

図 3-2 自動車図書館利用状況

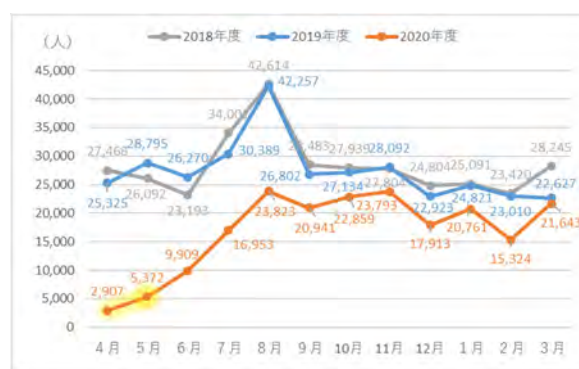
【来館者数】



【貸出利用】

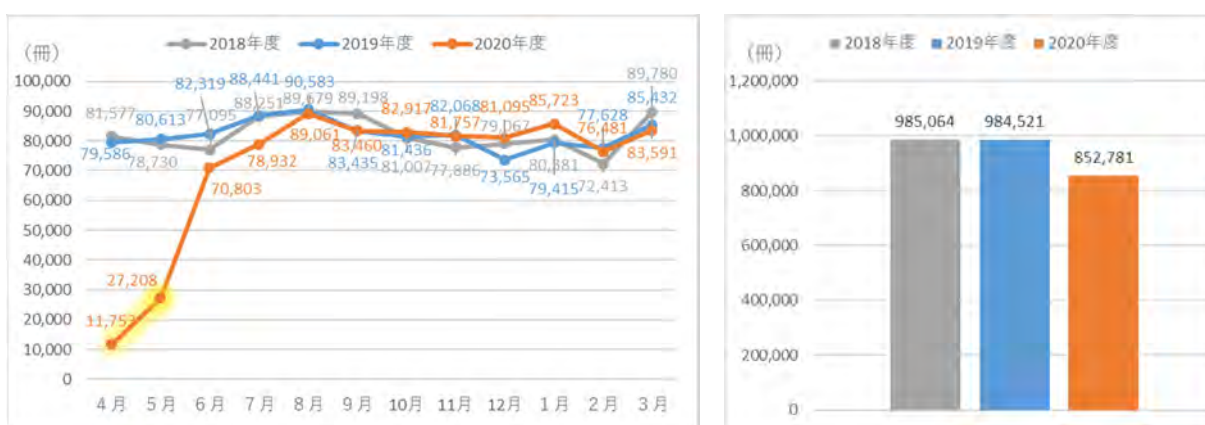


【滞在型利用】



※滞在型利用：来館者数－貸出人数により算出

【貸出冊数】



※休館：2020/4/4～5/11（4/7は時間短縮開館）

予約本貸出のみ：2020/5/12～5/19（時間短縮開館）

滞在型サービス休止：2020/5/12～6/30（時間短縮開館）、2021/1/18～2/23

休館期間含む

出典：つくば市立中央図書館資料を基に作成

図 3-3 中央図書館利用状況

(2) 博物館等

茨城県つくば美術館では緊急事態宣言等期間に合わせて2度の休館措置が取られた他、他の期間でも展覧会の多くが中止（使用辞退）となったことから、展覧会の開催件数も大幅に減少し、入館者数は2018年度の約2割、展覧会の開催数は約3割と大きく減少した。

一方で、講演会やワークショップ等の美術館が開催する普及活動は、休館期間以外は平年と同等の参加者があり、特に夏休み期間は多くの参加が見られた。



※展覧会入館者数
● 休館期間含む

※休館期間：2020/4/11～5/10、2021/1/18～2/7

図 3-4 つくば美術館 入館者数



※つくば美術館主催の講演会、講座、ワークショップ参加者数
● 休館期間含む

図 3-5 つくば美術館 普及活動参加者数

図 3-6 つくば美術館展覧会開催状況

出典：茨城県つくば美術館資料を基に作成

(3) ホール

つくばセンター地区内のホールは、各施設とも休館やイベント等の開催制限を受け利用者数が大幅に減少した。

コンサートや舞台を利用するイベントが多く開催されるノバホール、つくばカピオでは、つくば市主催イベントの開催制限、海外からのアーティストの来日中止等が続き、インターネットを活用した無観客による動画配信を実施したものの利用件数は伸び悩み、ノバホールの2020年度の利用者は2018年度の10分の1程度と大幅に減少した。

音楽会や講演会等の文化芸術活動に多く利用されているアルスホールは、比較的減少幅は小さかったが、利用者数は2018年度の半分以上となった。

【ノバホール】

大ホール約1,000名、小ホール約110名

【カピオ】

アリーナ約2,700名、ホール約400名

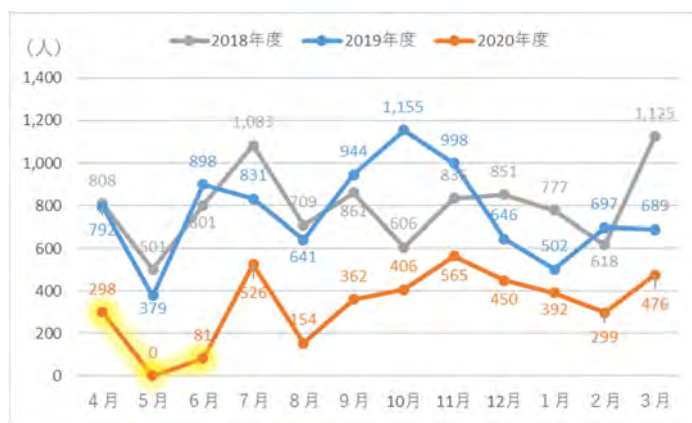
【アルスホール】

ホール100名



※休館期間：ノバホール・カピオ 2020/4/4～5/31、2021/1/18～2/7、アルスホール 2020/4/4～6/8
出典：公益財団法人つくば文化振興財団「事業報告」、つくば市立中央図書館資料を基に作成

図 3-7 つくばセンター地区 主要ホール利用状況



休館期間含む

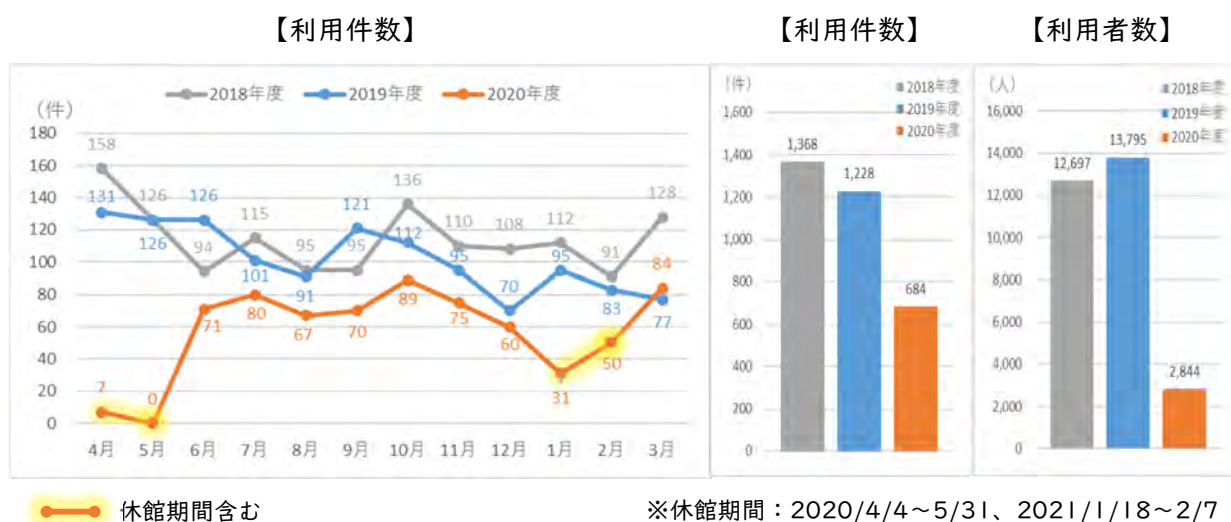
※休館期間：2020/4/4～6/8

出典：つくば市立中央図書館資料を基に作成

図 3-8 アルスホール利用者数

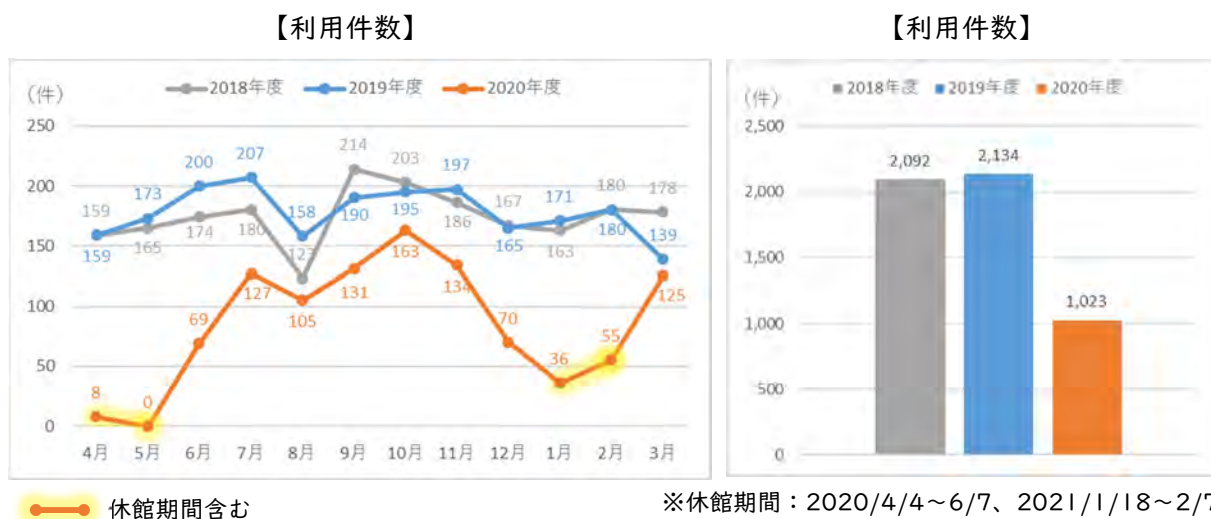
3. 市民活動

つくばセンタービル内にある市民活動センター及び吾妻交流センターの2020年度の利用件数は、平年の約半分に減少している。市民活動センターの利用者数は平年の2割程度と利用件数に比べ大きく減少しており、利用件数は一定の回復が見られるものの集まりが少人数化していることがうかがえる。



出典：つくば市市民活動センター資料を基に作成

図3-9 市民活動センター利用状況



出典：つくば市吾妻交流センター資料を基に作成

図3-10 吾妻交流センター利用状況

4. 屋外活動

(1) 公園・運動施設

携帯電話の位置情報データから公園来訪者数を見ると、中央公園の 2020 年度の来訪者は 2019 年度に比べ大幅に減少している。感染状況が落ち着いていた 10～11 月の 1 日平均利用者数を比較すると、土日祝日で特に大きく減少しており、2019 年は 8 月～10 月の土日祝日に開催されたアウトドア体験が、2020 年は開催されなかったことが影響していると考えられる。

一方で洞峰公園の 2020 年度は 2019 年度と同程度の来訪者数が見られ、10～11 月の 1 日平均利用者数を比較すると、平日・休日ともに増加している。月別駐車場利用台数においても、緊急事態宣言等の期間以外は例年と同等の利用が見られ、外出自粛等が行われる中であっても多くの人が訪れていたことがうかがえる。

【中央公園 平日】



【中央公園 土日祝日】



【洞峰公園 平日】



【洞峰公園 土日祝日】



※5 分以上滞在者の推計人口

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」（au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計）

図3-11 （参考）公園 1 日平均来訪者数（各年 10 月～11 月）

【中央公園】



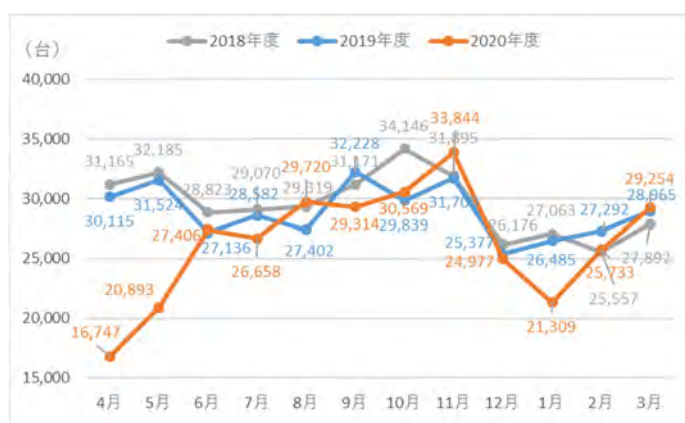
【洞峰公園】



※5分以上滞在者の推計人口

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」(auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計)

図 3-12 (参考) 年間公園来訪者数

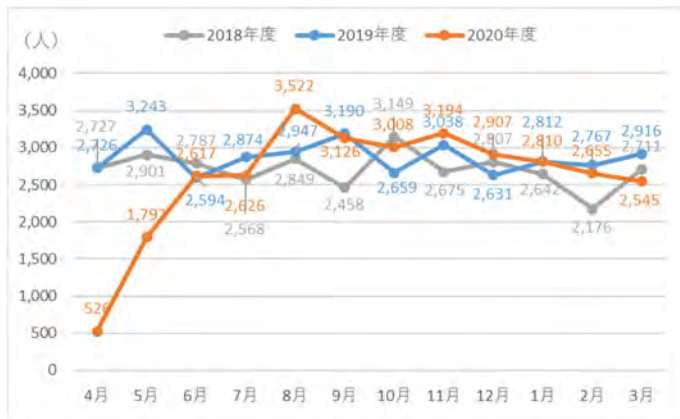


出典：筑波都市整備(株)資料を基に作成

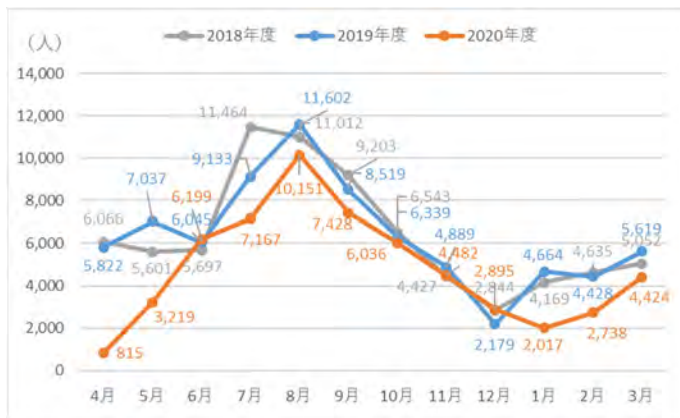
図 3-13 洞峰公園駐車場利用台数

洞峰公園内の施設別利用者数は、緊急事態宣言期間中を除くと、屋内施設の体育館・プールは平年より少なめだが、屋外施設のテニスコートは平年より多めとなっており、コロナ禍により屋外レジャーの需要が高まっていると考えられる。

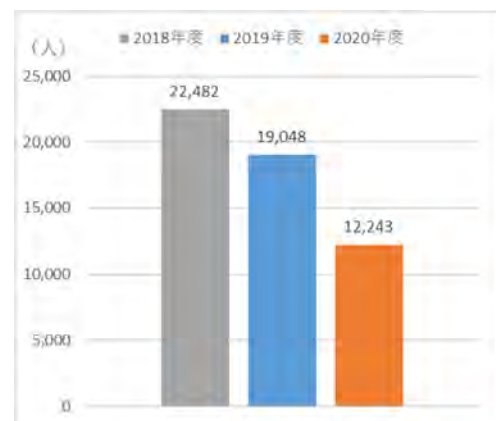
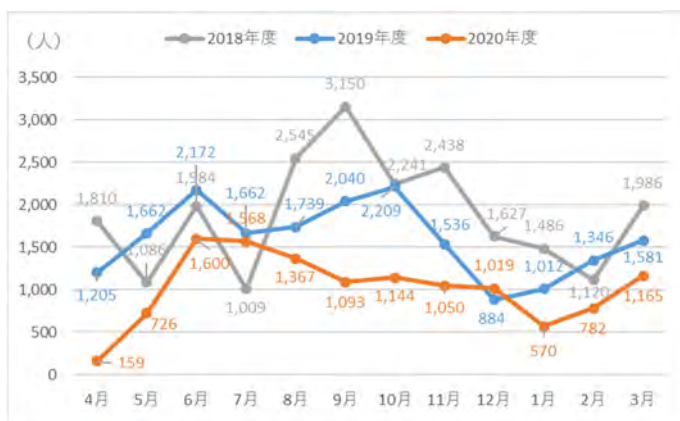
【テニスコート】



【プール】



【体育館】



出典：筑波都市整備(株)資料を基に作成

図 3-14 洞峰公園運動施設利用者数

(2) キャンプ等

キャンプやバーベキューができるゆかりの森では、同施設内の宿泊施設あかまつが感染者隔離施設（無症状、軽症者の受入）として利用された※。

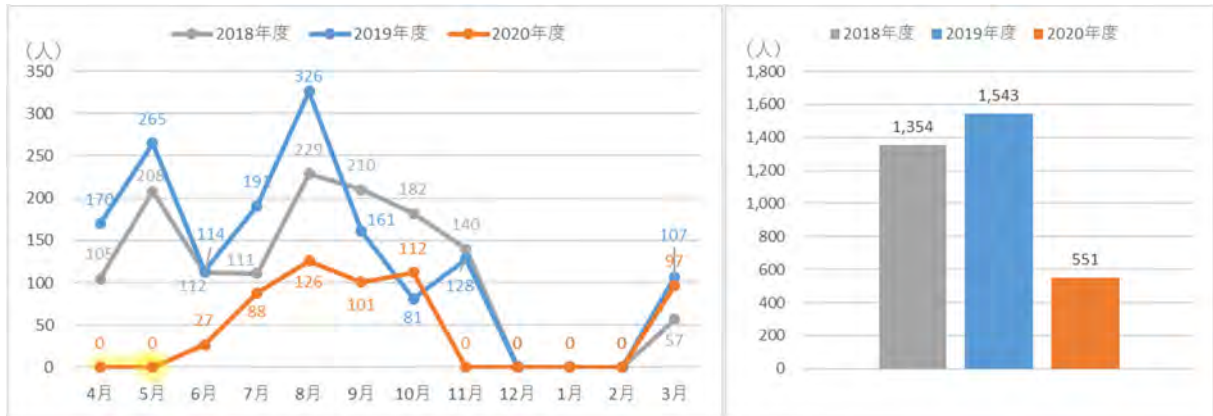
キャビンやバーベキュー場の 2020 年度の利用者は平年を大きく下回ったが、テントは休止期間以外は平年と同等もしくはそれ以上の利用が見られ、特に冬季の利用が大きく伸びている。

テントの利用が大きく伸びた要因としては、屋外のため感染への不安が少ないことや、遠方への外出の自粛が要請される中、身近で非日常的な雰囲気が味わえること、冬キャンプの流行によるものと考えられる。

一方でバーベキューは各地でクラスターが報告される等、飲酒を伴う大勢での飲食による感染リスクの高さから敬遠されたと推察される。

※宿泊施設あかまつ：2020/4/14～9/14 感染者受入れ、10/8～利用再開

【キャビン】

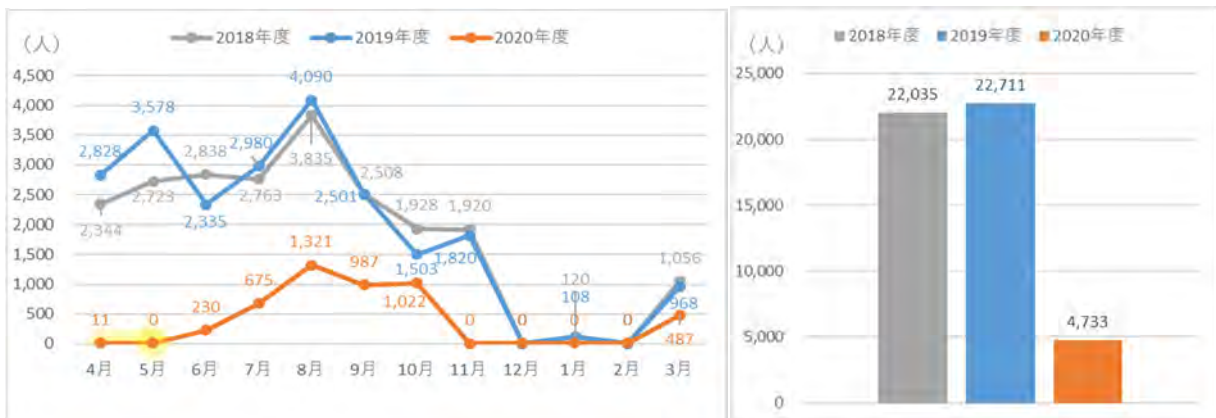


※毎年12月～2月は一般利用休業

【持ち込みテント】



【バーベキュー場】



※毎年12月～2月は一般利用休業

● 休止期間含む（例年の休止期間を除く）

※休業期間：2020/4/3～5/31

出典：つくば市豊里ゆかりの森資料を基に作成

図 3-15 ゆかりの森 キャンプサイト利用者数

(3) サイクリング

つくば市がつくば駅（BiVi つくば）及び筑波山で貸出しているレンタサイクルの利用者数は、筑波山では貸出休止期間以外は平年と同程度、10月・11月は平年を大きく上回る利用が見られた。1～2月は休止期間があったにもかかわらず平年と同程度の利用があり、身近で安心して楽しめるレジャーとして利用が増加したことがうかがえる。

つくば駅でも、10月以降は休止期間を除き平年と同程度の利用台数に回復している。人流がコロナ禍前までには回復していないなかで平年と同程度の利用が見られたことから、つくば駅を起点とした都市観光や、郊外エリアまで足を伸ばしたサイクリングを楽しむ人、あるいはタクシーやバス等の利用を避けるための利用の増加の可能性も考えられる。

【筑波山】



【つくば駅（BiVi つくば）】



● 休止期間含む

※貸出休止：2020/4/4・5、4/8～5/18、2021/1/18～2/7

出典：つくば市サイクルコミュニティ推進室資料を基に作成

図 3-16 つくば市レンタサイクル利用者数

第4章 | 人口・住宅

つくば市の人口は、つくばエクスプレス沿線の開発等により増加基調が続いているが、コロナ禍においてもその傾向に大きな影響は見られず、むしろ人口の伸びは増大した。

この人口の伸びは、国内からの転入の増加に加え、国外・国内ともに転出が減少したことが要因となっている。

コロナ禍によるテレワークの浸透とこれに伴う東京等から郊外地域への転居の傾向については、つくば市においても確認することができた。東京都からの転入者は他県に比べ増加するとともに、東京都への転出者は減少し、東京都との人口移動は転入超過に転じた。不動産事業者からも都心通勤者の住宅の購入が増加し追い風が吹いたという話が聞かれ、つくばセンター地区で販売されたマンションも順調に入居が進んでいる。地価も伸び率は鈍化したものの上昇傾向を維持している。

コロナ禍による入国制限は、つくば市では大きな影響を与えている。外国人の総人口は横ばいだが、転出者・転入者ともに大きく減少し海外との人の往来の停滞がうかがえる。

	2018年度		2020年度
つくば市人口	233,807人	+3.4%	241,809人
社会増減*	+2,886人 転入16,681人 転出13,795人	+816人 -200人 -1,016人	+3,702人 転入16,481人 転出12,779人
海外との転出入*	+610人	-552人	+58人
東京都との転出入*	-340人	+677人	+337人
出生率*	9.7%	-0.5%	9.2%
つくば駅周辺 地価変動率	+4.7% 住宅地	-3.7%	+1.0%

* 年次集計のデータ

1. 人口の動向

(1) つくば市の人口

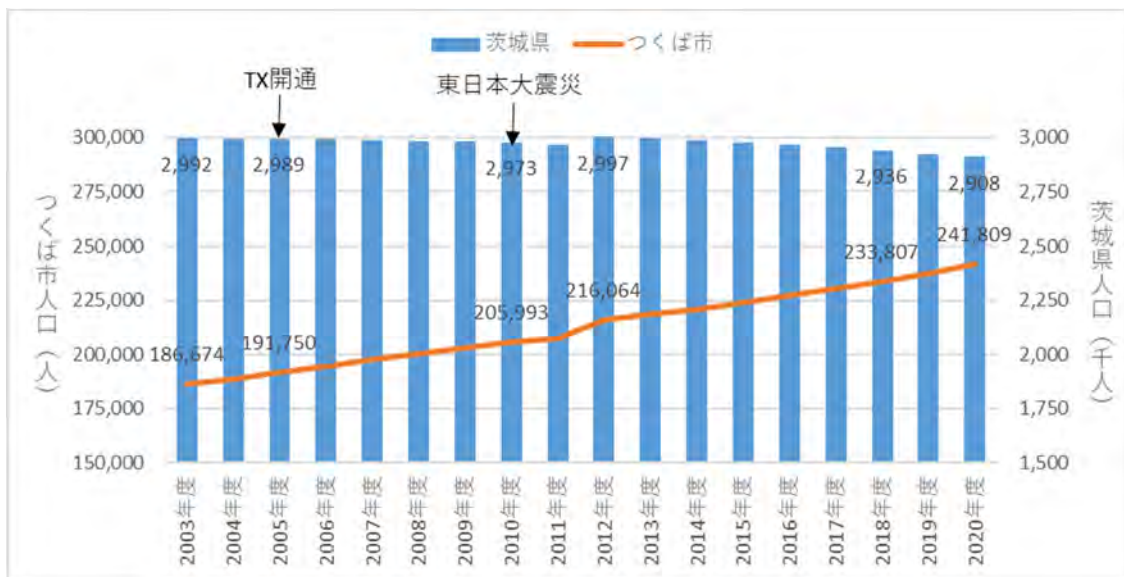
1) 全体人口の推移

茨城県の人口は減少傾向にあるのに対し、つくば市においては、1987年の市誕生以来続く増加基調がコロナ禍においても続いている。

高い増加率を維持してきた東京都において増加率に大きくブレーキがかかった一方、つくば市においてはむしろ増加に拍車がかかったとも言える伸びを示している。

しかしその内訳を見ると2020年度の出生数、転入数はともに前年度よりやや減少しており、前年度以上の人口の増加は、転出数が減少したことが要因となっている。

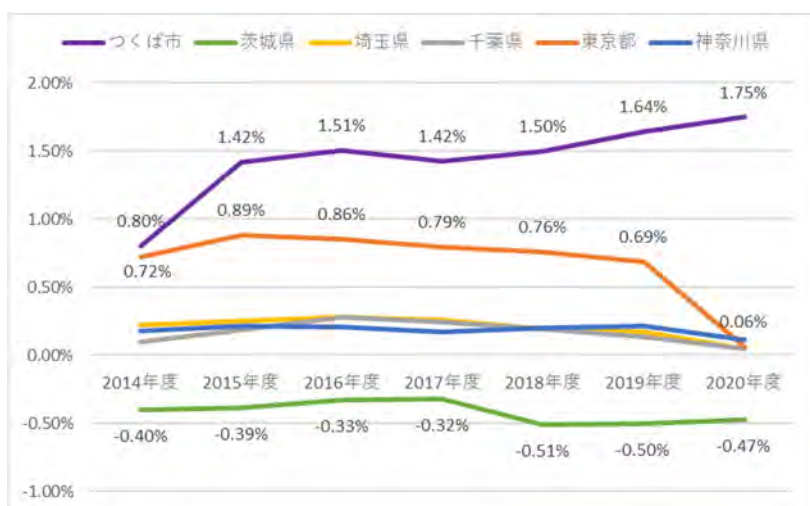
つくば市では、若い世代の流入による人口増加が続いていることから、2020年度の出生数の減少は、新型コロナウイルス感染症の拡大による先行きへの不安から出産が控えられた可能性も考えられる。



※各年度1月1日時点(2012年度までは3月31日時点)。2012年度より外国人人口を含む。

出典：政府統計の総合窓口(e-Stat)及び茨城県HP「住民基本台帳人口」を基に作成

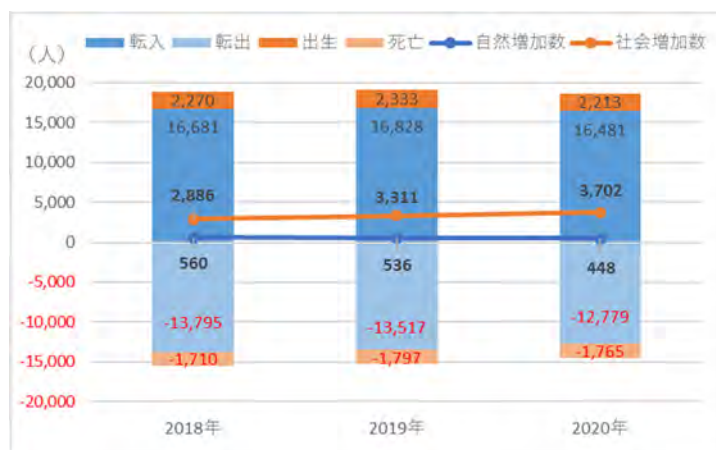
図4-1 つくば市の人口推移



※各年度1月1日時点（2012年度までは3月31日時点）。2012年度より外国人人口を含む。

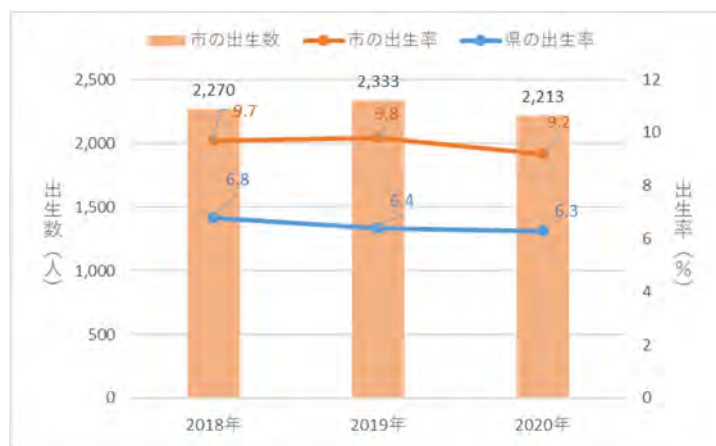
出典：政府統計の総合窓口(e-Stat)及び各都県HP「住民基本台帳人口」を基に作成

図 4-2 つくば市及び周辺都県の人口増減率



出典：茨城県「常住人口調査結果報告書」を基に作成

図 4-3 つくば市の社会・自然動態の推移



出典：茨城県「常住人口調査結果報告書」を基に作成

図 4-4 つくば市における出生数・出生率

2) 地域間の移動

つくば市転入者の転入前の住所地を見ると、2020 年は国外からの転入が大きく減少する一方で、国内からの転入者は増加しており、特に東京都からの転入の増加が目立つ。

転出者は全体的に減少しており、特に国外への転出が大きく減少、また東京都への転出も近隣他県に比べ減少が目立つ。一方で茨城県内への転出は増加しており、コロナ禍により、より人の密度の薄い地域へ人口の移動が起きたことがうかがえる。

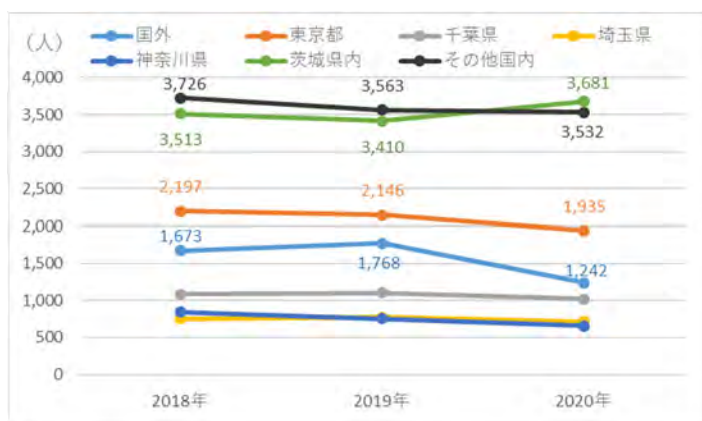


転入者	2018年	2019年	2020年	2020年 -2018年
国外	2,283	2,318	1,300	-983
国内	14,398	14,510	15,181	783
東京都	1,857	1,857	2,272	415
千葉県	1,114	1,173	1,217	103
埼玉県	792	855	864	72
神奈川県	775	701	763	-12
茨城県内	5,431	5,597	5,519	88
その他国内	4,429	4,327	4,546	117
計	16,681	16,828	16,481	-200

※従前の住所地が不明、帰化、職権による記載等を含まず

出典：茨城県「常住人口調査結果報告書」を基に作成

図 4-5 つくば市における従前の住所地別転入者数



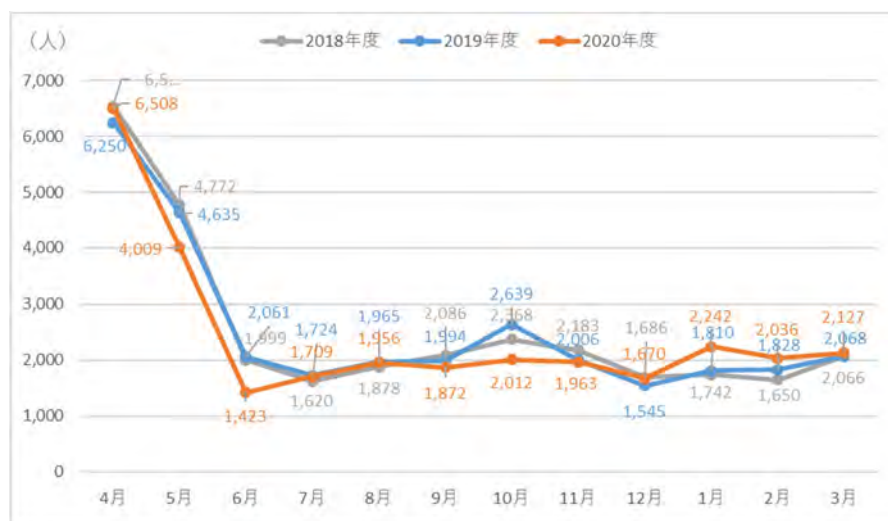
転出者	2018年	2019年	2020年	2020年 -2018年
国外	1,673	1,768	1,242	-431
国内	12,122	11,749	11,537	-585
東京都	2,197	2,146	1,935	-262
千葉県	1,086	1,106	1,017	-69
埼玉県	756	771	716	-40
神奈川県	844	753	656	-188
茨城県内	3,513	3,410	3,681	168
その他国内	3,726	3,563	3,532	-194
計	13,795	13,517	12,779	-1,016

※従前の住所地が不明、帰化、職権による記載等を含まず

出典：茨城県「常住人口調査結果報告書」を基に作成

図 4-6 つくば市における従後の住所地別転出者数

つくば市の月別地域間移動数は、第1回緊急事態宣言下の2020年5月とその直後の6月、及び10月が平年より少なく、2021年1月～2月が平年より多くなっており、コロナ禍による移動時期の変更や、秋入学の留学生等の減少等があったことが推察される。



出典：茨城県「茨城県常住人口調査結果報告書」を基に作成

図 4-7 つくば市における月別地域間移動数

3) 外国人人口

市の外国人人口は、2020 年においても増加傾向となっているものの、増減率は大幅に低下している。

日本では、新型コロナウイルス感染症の拡大に応じ段階的に行ってきた入国制限を、2020 年 4 月 3 日には欧米をはじめとする 70 か国以上に拡大、以降も各国の感染状況を鑑みて入国制限は強化され続けた。2020 年 11 月 1 日に上陸拒否の対象の指定が解除したものの依然留学生等へのビザの発行は 2021 年 3 月 18 日付で再び停止されていることから、国内への入国者自体が減少したことが影響していると考えられる。



出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計」を基に作成

図 4-8 つくば市の在留外国人数

(2) つくばセンター地区の人口

つくばセンター地区の人口は、2物件のマンションの新規入居があった竹園1丁目で大きく増加し、公務員宿舍の廃止の影響がある吾妻2丁目以外は減少が見られなかった。

町丁目別人口の増減率（2020年/2018年）では、全体的に増加傾向にあるものの、つくばセンター地区の周辺地域においては、筑波大学宿舍等で大きな減少が見られるが、ほとんどの地域が横ばい又は増加となっている。



※各年4月1日時点

出典：つくば市 行政区別人口表（住民基本台帳人口）

図4-9 つくばセンター地区の人口推移



出典：『国勢調査町丁・字等別境界データセット』（CODH 作成）
「平成27年国勢調査町丁・字等別境界データ」（NICT 加工）を利用

図4-10 つくばセンター地区町丁目

表 4-1 研究学園地区、TX 沿線地区内の主な町丁字の人口の変動

【研究学園地区】

	2018/4/1	2021/4/1	増減数	増減率
春日 1 丁目	897	960	63	7%
春日 2 丁目	2,838	3,099	261	9%
春日 3 丁目	1,798	1,863	65	4%
春日 4 丁目	2,005	1,848	-157	-8%
東新井	1,802	1,721	-81	-4%
二の宮 1 丁目	2,384	2,401	17	1%
二の宮 2 丁目	1,384	1,392	8	1%
二の宮 3 丁目	1,384	1,416	32	2%
二の宮 4 丁目	2,546	2,424	-122	-5%
松代 1 丁目	1,769	1,774	5	0%
松代 2 丁目	1,131	1,122	-9	-1%
松代 3 丁目	2,421	2,481	60	2%
松代 4 丁目	1,611	1,587	-24	-1%
松代 5 丁目	1,082	1,333	251	23%
桜 1 丁目	520	739	219	42%
桜 2 丁目	1,076	1,136	60	6%
桜 3 丁目	538	531	-7	-1%
天王台 2 丁目	13	18	5	38%
天久保 1 丁目	828	882	54	7%
天久保 2 丁目	1,537	1,606	69	4%
天久保 3 丁目	1,040	1,094	54	5%
天久保 4 丁目	543	565	22	4%
吾妻 1 丁目	1,890	2,120	230	12%
吾妻 2 丁目	761	290	-471	-62%
吾妻 3 丁目	1,674	1,993	319	19%
吾妻 4 丁目	1,884	1,701	-183	-10%
竹園 1 丁目	2,894	4,116	1,222	42%
竹園 2 丁目	1,205	1,265	60	5%
竹園 3 丁目	2,729	3,192	463	17%
千現 1 丁目	1,761	1,752	-9	-1%
千現 2 丁目	833	795	-38	-5%
並木 2 丁目	1,732	1,820	88	5%
並木 3 丁目	2,130	2,305	175	8%
並木 4 丁目	1,440	1,368	-72	-5%
梅園 2 丁目	3,254	3,243	-11	0%
筑波大学生宿舍	1,749	1,164	-585	-33%
筑波大看護婦宿舍	127	113	-14	-11%

【TX 沿線】

	2018/4/1	2021/4/1	増減数	増減率
学園の森 1 丁目	1,130	2,010	880	78%
学園の森 2 丁目	1,594	2,594	1,000	63%
学園の森 3 丁目	1,168	1,351	183	16%
研究学園 1 丁目	13	8	-5	-38%
研究学園 2 丁目	656	781	125	19%
研究学園 3 丁目	759	1,183	424	56%
研究学園 4 丁目	2,142	2,251	109	5%
研究学園 5 丁目	2,483	2,394	-89	-4%
研究学園 6 丁目	1,581	1,562	-19	-1%
研究学園 7 丁目	1,007	1,023	16	2%
研究学園 7 丁目 3 番地か	260	306	46	18%
学園南 1 丁目	565	650	85	15%
学園南 2 丁目	1,300	1,396	96	7%
学園南 3 丁目	1,844	2,135	291	16%
みどりの 1 丁目	2,582	2,924	342	13%
みどりの 2 丁目	1,562	2,868	1,306	84%
みどりの中央	2,246	3,087	841	37%
みどりの東	806	1,354	548	68%
みどりの南	1,453	3,286	1,833	126%

出典：つくば市 行政区別人口表（住民基本台帳人口）

2. 住宅供給動向

(1) つくば市における住宅着工数

つくば市の人口及び転入者数は増加傾向にあるものの、つくば市全体の住宅着工数は減少傾向にある。

住宅の種別では、貸家は2018年度以降大きく減少しているが、持ち家、分譲住宅には大きな変化は見られない。貸家の着工数の減少は、2018年に発覚したシェアハウス建設への不正融資を契機とした銀行融資の引き締めが影響していると考えられる。



出典：茨城県「住宅着工データ」を基に作成

図 4-11 つくば市の住宅着工数

(2) つくばセンター地区における住宅供給動向

つくばセンター地区における新築マンション供給は、2016年度以降途絶えていたが、2020年2月、11月、2021年10月に3つの物件が竣工している。

今後の竣工予定物件を含め、販売された物件は全て完売となっている。不動産事業者からは、コロナ禍により、明らかに都内から住まいを求める人が増えたこと、またテレワーク等に対応できるよう、部屋数の多さを求める方が増えたという声が聞かれた。

また近隣都市における1995年以降に供給されたマンション戸数より、つくば市の需要の高さがうかがえる。

表 4-2 2018 年 4 月以降に販売開始の
つくばセンター地区における新築分譲マンション（2021 年 11 月時点）

	物件名/事業者	発売	竣工	最低価格	平均価格	総戸数	販売状況
				最高価格			
1	レーベンつくばCORIS / (株)タカラレーベン	2018.6	2020.2	3,995 万 10,737 万	4,800 万	330 戸	完売
2	デュオヒルズつくばセンチュリー / (株)フージャースコーポレーション	2019.2	2020.10	3,798 万 6,098 万	4,100 万	229 戸	完売
3	プラウドつくば / 野村不動産(株)	2020.9	2021.10	4,189 万	5,259 万	68 戸	完売
4	ハイスweetつくば春日 / 積水化学工業(株)	2021.12	2022.9	2,900 万 5,400 万	3,700 万	122 戸	販売 開始前
5	レ・ジェイドつくば / (株)エスコン	2021.3	2022.10	4,390 万 16,990 万	6,425 万	218 戸	完売
6	つくばテラス / 総合地所(株)、近鉄不動産(株)	2021.12	2023.8	不明	未定	320 戸	販売 開始前

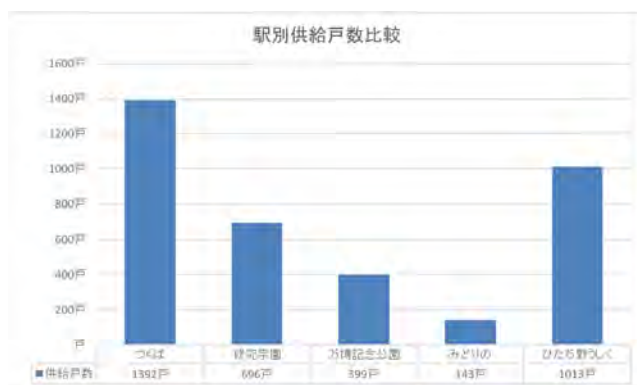
出典：(有)エム・アール・シー「MRC マンションデータ」



出典：
『国勢調査町丁・字等別境界データセット』
(CODH 作成)
「平成 27 年国勢調査町丁・字等別境界データ」(NICT 加工)を加工して作成

図 4-12 つくばセンター地区
新規供給マンション位置図

【駅圏別供給戸数】



【駅圏別平均単価】



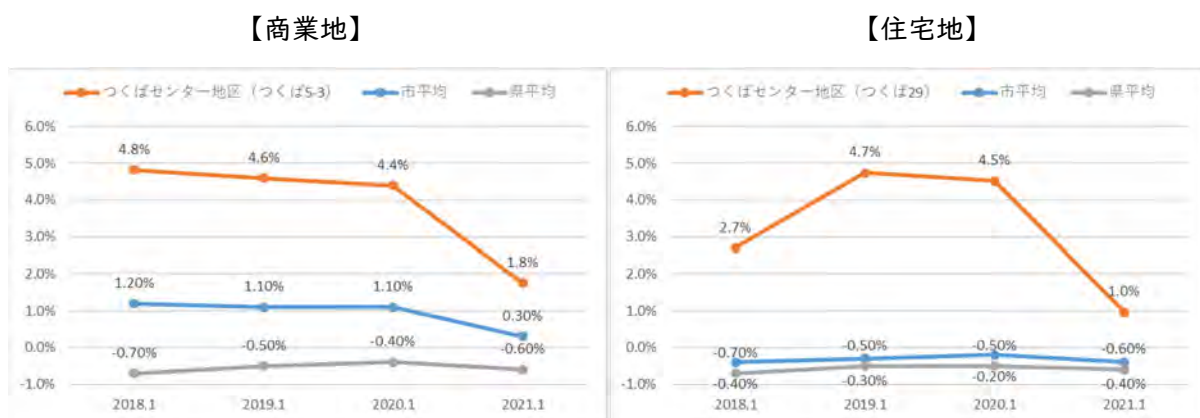
出典：(有)エム・アール・シー「MRC マンションデータ」

図 4-13 駅圏別マンション供給状況

3. 地価

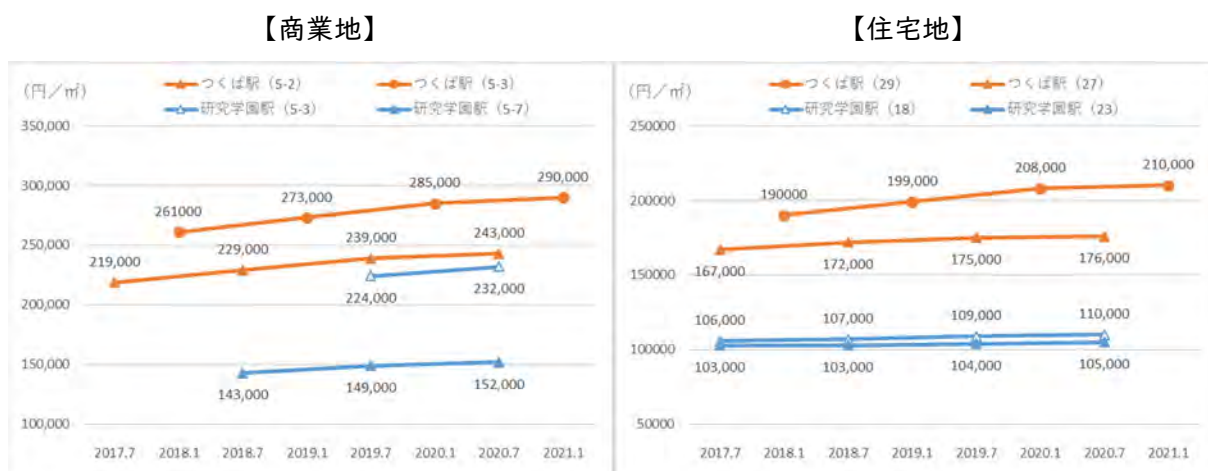
茨城県の地価は減少傾向が続いており、つくば市全体の地価も商業地は増加傾向だが、住宅地は微減傾向となっている。

つくばエクスプレス沿線の研究学園駅周辺やつくば駅周辺は商業地・住宅地ともに上昇傾向が続いており、つくば駅周辺の地価変動率は高い水準で推移してきたが、2021年1月には伸び率は大きく低下した。



出典：茨城県「地価公示結果の概要」を基に作成

図 4-14 用途別地価の平均変動率



出典：地価公示、都道府県地価調査を基に作成

図 4-15 つくば駅周辺・研究学園駅周辺地価の推移

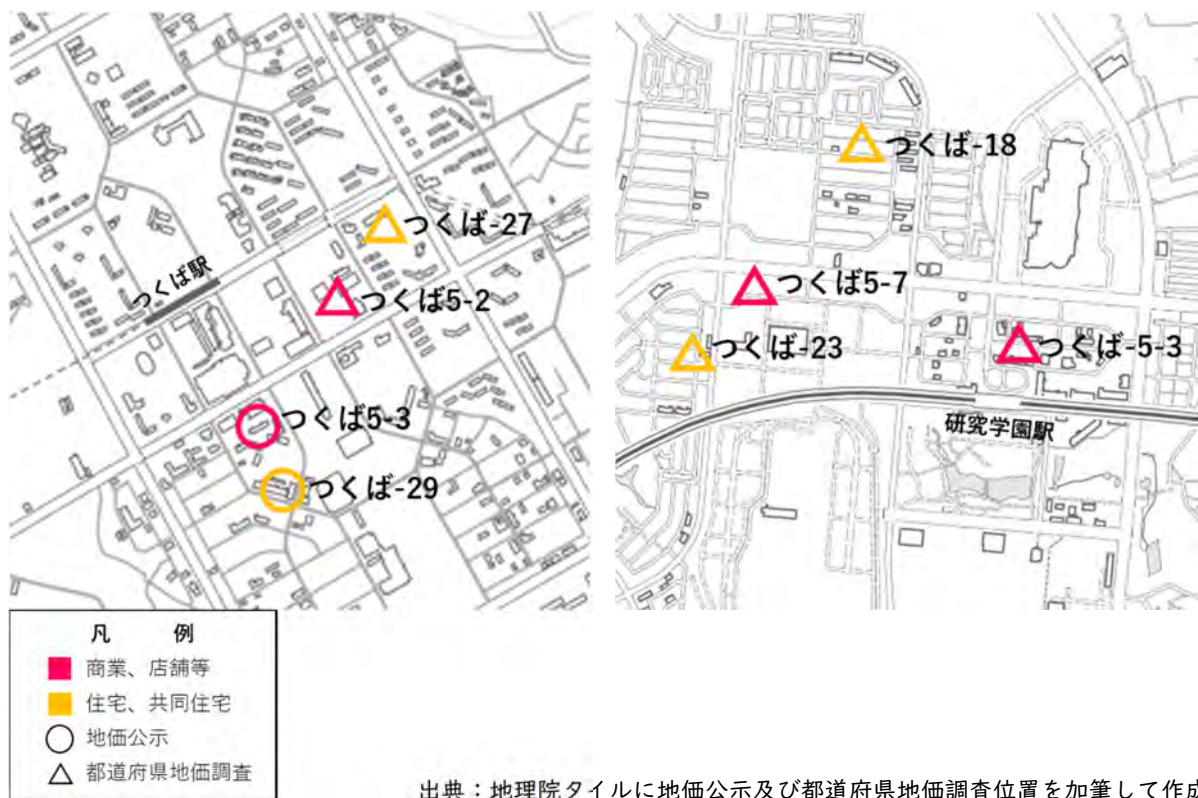


図 4-16 つくば駅周辺・研究学園駅周辺地価 位置図

第5章 | 産業・経済

コロナ禍がつくば市の産業に与えた影響の全体像をつかむことは難しいが、法人市民税は減少が見られ、研究学園都市といえどもマイナスの影響は免れなかったと見られる。つくば駅周辺の事業所数は減少傾向が続いているが、飲食店をはじめとする店舗においてはコロナ禍を受け減少が加速していることがうかがえる。土浦中心部と比べつくば駅周辺の方が店舗の減少率は高くなっており、つくばセンター地区は個人経営の店舗が少なく柔軟な対応が難しいことが要因となっている可能性がある。

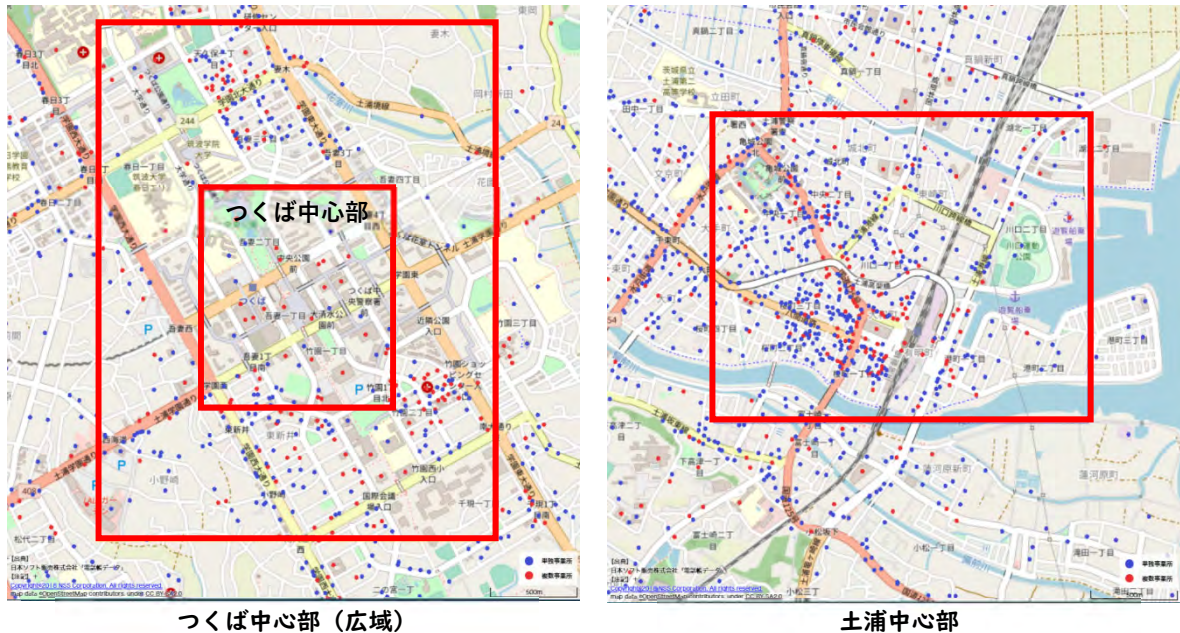
つくば市の観光客数は全体としては大きく減少しているが、筑波山への観光客数はその他の場所に比べ減少が少なく、平年を上回る時期も見られた。

つくば駅周辺のオフィスにおけるテレワーク導入率は、企業規模が大きい事業所が集積していることもあり東京都心部と比べても高い水準となっており、対応が進んでいる。一方で、オフィスで働く人の人流には大きな減少は見られず、都心ほど強い出勤抑制は行われていないと推察される。

	2018年度		2020年度
つくば駅周辺 商業施設来客数	443万人 年間	-36%	282万人
つくば市 観光客数	筑波山269万人 その他180万人	-27% -79%	筑波山197万人 その他38万人
つくば市 法人市民税収	42億円	-16%	35億円
つくば駅周辺 事業所数	コロナ禍前 2019年7月 100%		緊急事態宣言後 2020年7月 全体 94% 飲食店89%
つくばセンター地区 テレワーク 導入率	緊急事態宣言前 2020年3月 52%	+21%	第2回緊急事態宣言時 2021年1~2月 73%

I. 事業所立地動向

つくばセンター地区の事業所立地動向を把握するため、RESAS を用いて以下のエリアの事業所数の推移を把握した。



【出典】

日本ソフト販売株式会社「電話帳データ」

【注記】

業種分類については日本ソフト販売株式会社による独自調査に基づく。

各年データは、7月時点の電話帳掲載情報から作成されているが、電話帳の更新タイミングの変更等により年次間で掲載情報に変化が生じないケースがある。

2018年から2019年にかけて『その他組合・団体』の一部について『事業団・公団』に、また『自動車部品・タイヤ販売』の一部について『二次産業（製造・加工）』にそれぞれ分類が変更されている場合がある。

その他の業種変更に関しては、下記ファイルを参照

・2018年から2019年にかけての業種分類変更

・2019年から2020年にかけての業種分類変更

小分類の構成が年次によって異なる場合があるため小分類単位でのグラフは作表されない。

出典：RESAS（地域経済分析システム）-事業所立地動向-（<https://resas.go.jp/industry-location>）

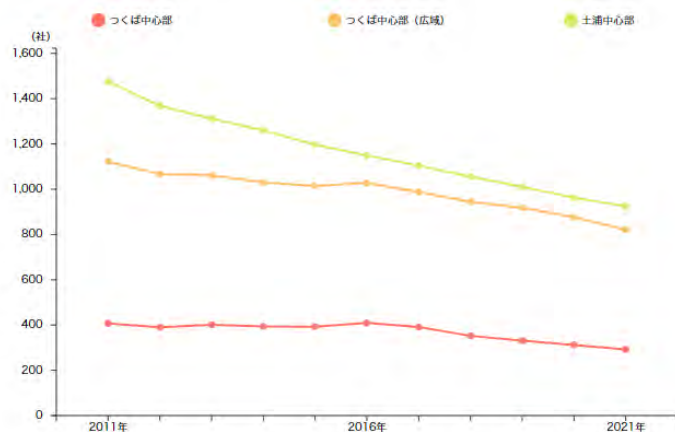
図 5-1 事業所立地動向 計測区域

つくば中心部の事業所数は、コロナ禍前（2019年7月時点）と比べ、2020年で5.7%（19社）の減少となっている。中心市街地及び周辺地域を含む広域のつくば中心部では4.6%、土浦中心部では4.8%の減少となっており、つくば中心部の減少率が高くなっている。

コロナ禍の影響が大きいと思われる店舗の業種別内訳を見ると、サービス系の店舗はどのエリアも横ばいまたは微減であるが、飲食店や販売・卸の減少が顕著となっている。

つくば中心部では、飲食店、販売・卸の減少率は2020年時点で1割を超えており、他地域に比べ高い減少率となっている。コロナ禍の長期化により、休業や時短営業が繰り返される中で、雇用の維持や当初の休業給付金は、大型店には不利なくみになっていたことから、つくば中心部は個人店舗が少ないことが、より大きな減少率につながった可能性がある。

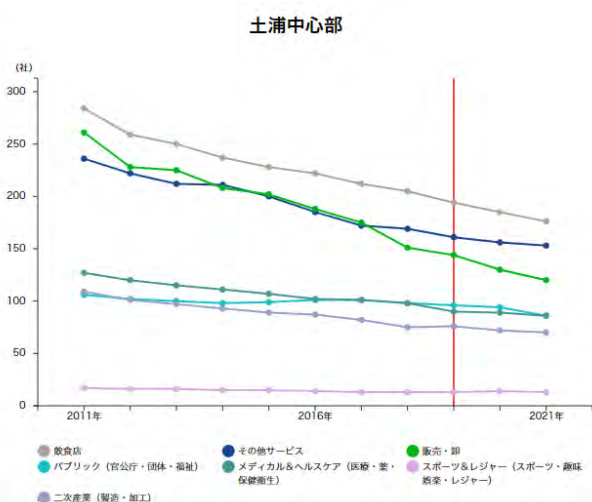
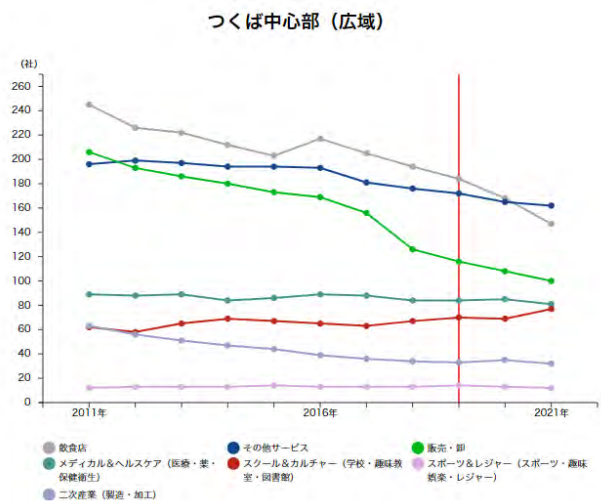
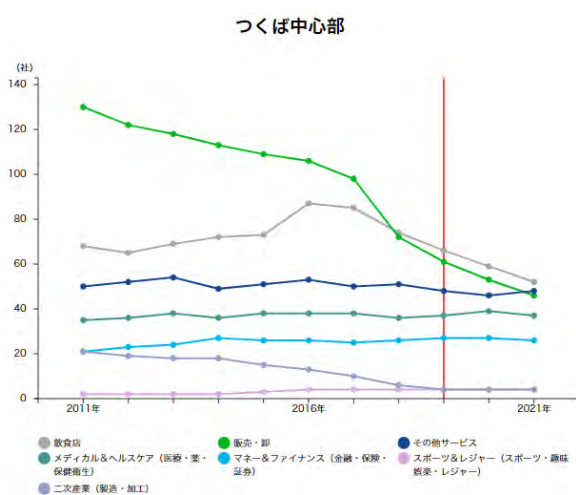
また、業態別の飲食店数の推移を見ると、「夜の店」であるスナック・バー・酒場の減少数が各エリアとも多いが、各種レストラン等の昼間も営業している店舗の閉店も少なくない。



	減少率（2019年比）	
総事業所数	2020年	2021年
土浦	4.8%	8.5%
つくば中心部（広域）	4.6%	10.6%
つくば中心部	5.7%	11.8%

出典：RESAS（地域経済分析システム）-事業所立地動向-（<https://resas.go.jp/industry-location>）

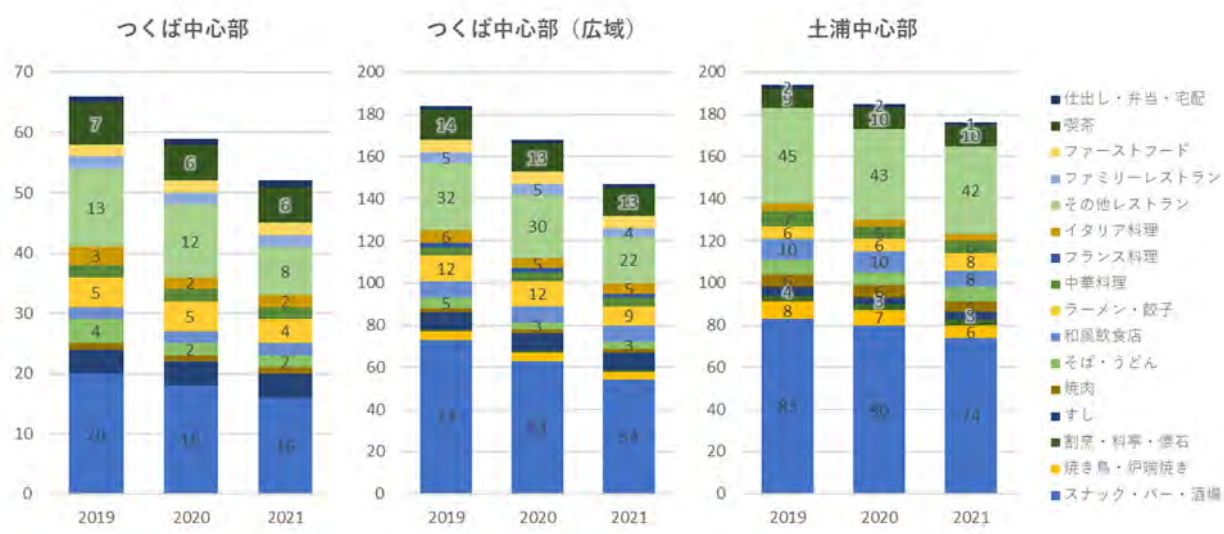
図 5-2 事業所数の推移（各年 7 月時点）



	減少率（2019年比）	
飲食店	2020年	2021年
土浦	4.6%	9.3%
つくば中心部（広域）	8.7%	20.1%
つくば中心部	10.6%	21.2%
販売・卸	2020年	2021年
土浦	9.7%	16.7%
つくば中心部（広域）	6.9%	13.8%
つくば中心部	13.1%	24.6%
その他サービス	2020年	2021年
土浦	3.1%	5.0%
つくば中心部（広域）	4.1%	5.8%
つくば中心部	4.2%	0.0%

出典：RESAS（地域経済分析システム）-事業所立地動向-（<https://resas.go.jp/industry-location>）

図 5-3 業種別事業所数の推移（各年 7 月時点）



出典：RESAS（地域経済分析システム）-事業所立地動向-（<https://resas.go.jp/industry-location>）

図 5-4 業態別飲食店数の推移（各年 7 月時点）

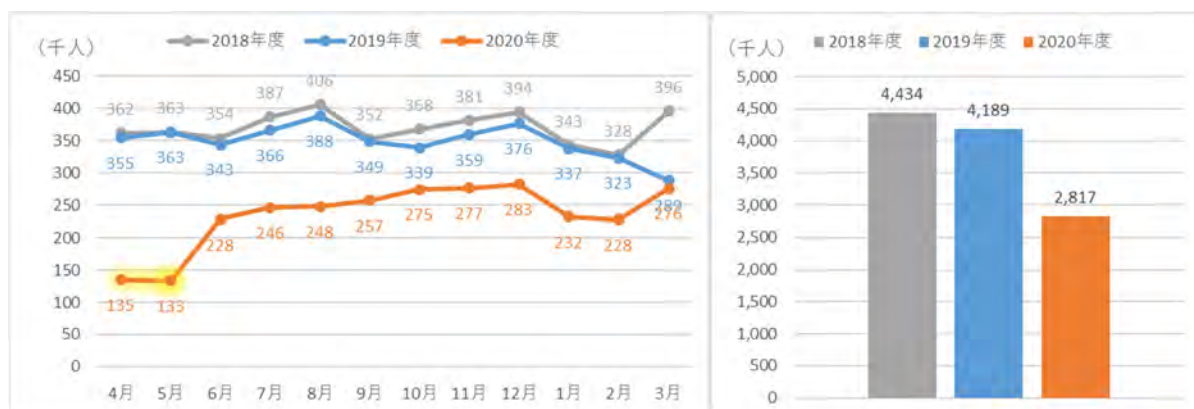
2. 商業施設

(1) 来客数等

つくばセンター駅直近に位置する大型商業施設つくばクレオスクエア※(現トナリエつくばスクエア)においては、2020年3月より一部店舗で営業時間短縮が始まり、4月から5月にかけては緊急事態宣言期間前後に生活必需品店舗等を除き全館休館、6月8日より通常営業を再開した。その後、2021年1月から2月には県独自の緊急事態宣言に合わせ、飲食店の営業時間短縮が行われた。

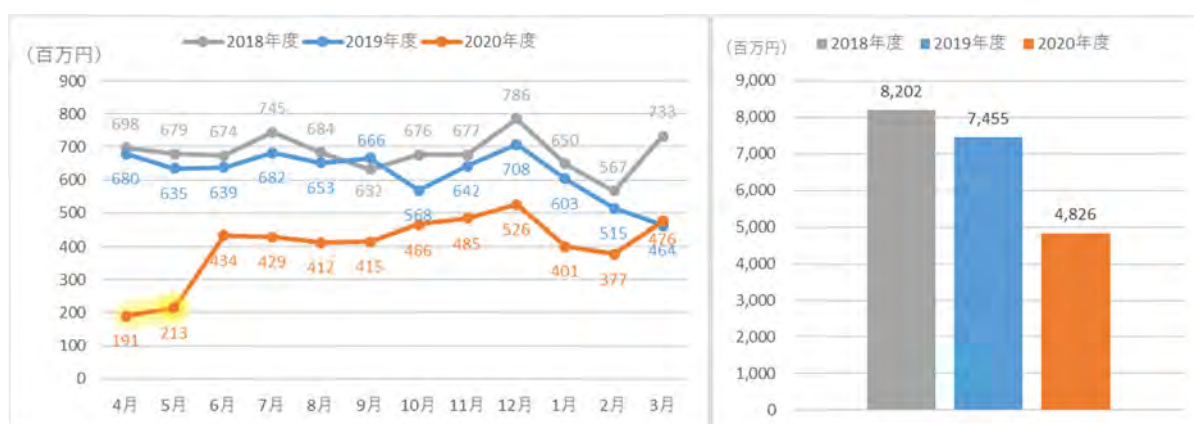
クレオスクエアとBiViつくばを合わせた来客数は、1回目の緊急事態宣言期間は、2018年度の約4割、売上高は約3割と大幅に減少、その後徐々に回復はしているが、2020年度末の売上高及び来客数は2018年度の7割程度に留まり、2020年度に来客数・売上高は2018年度の約6割となった。

※クレオはリニューアルのため閉館中(2018/2/1～2021/5/18)



※Q't、MOG、BiViつくばの合計

図 5-5 つくばセンター駅周辺商業施設の来客数



※Q't、MOG、BiViつくばの合計

図 5-6 つくばセンター駅周辺商業施設の売上高

【営業状況】

Q't、MOG 時短営業：2020/3/6～4/9 一部店舗、4/10～6/7 全館、2021/1/27～2/20 飲食店
休館（生活必需品店舗等除く）：4/4・5、4/18～5/21

BiViつくば 時短営業：2020/1/27～2/20、4/22～5/6、11/30～12/13、2021/1/8～20

出典：(株) エスコプロパティ、大和リース (株) 資料

(2) つくば駅周辺店舗等の動向

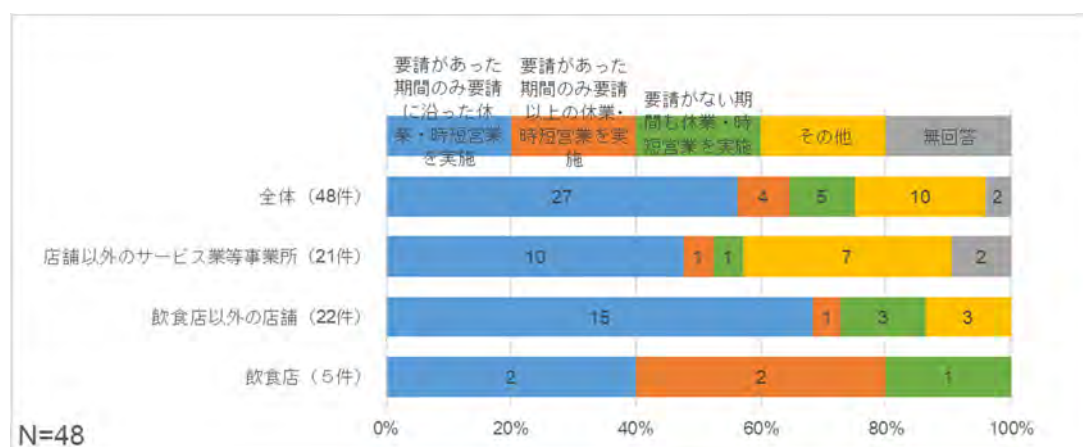
つくば駅周辺に立地する店舗・サービス業事業所等におけるコロナ禍の影響や対応状況について、アンケート調査により把握を行った。(全体調査結果は巻末参照)

表 5-1 つくばセンター地区における企業活動に関するアンケート調査概要

調査期間：2022 年 1 月 7 日～2022 年 1 月 20 日
調査対象：つくば三井ビルディング、BiVi つくば、トナリエつくばスクエア、南 3 パークビル入居企業、つくばセンター地区活性化協議会会員事業所
回答企業数：店舗・サービス業事業所等 48 事業所（上記調査対象よりオフィスを除く）

コロナ禍による営業日・営業時間の変更等の対応状況については、約 6 割の事業所が国・自治体の要請があった休業・時短営業の対応となっているが、店舗や飲食店では、要請以上の対応をとった事業所も見られる。

飲食店を除く店舗やサービス業等の事業所では、通常営業の事業所も多く見られた。



その他

- ・通常営業（7 件）
- ・デベロッパーが定めた期間休業（1 件）
- ・zoom 等を用いたオンライン活動（1 件）
- ・無回答（1 件）

図 5-7 コロナ禍における営業日・営業時間の対応

2022 年 1 月時点の来客数については、全体では 7 割の事業所がコロナ禍前の 7 割程度まで回復しているという回答であったが、約 3 割の事業所では半分以下と回答しており、店舗以外のサービス業等事業所の方が回復率が低くなっている。

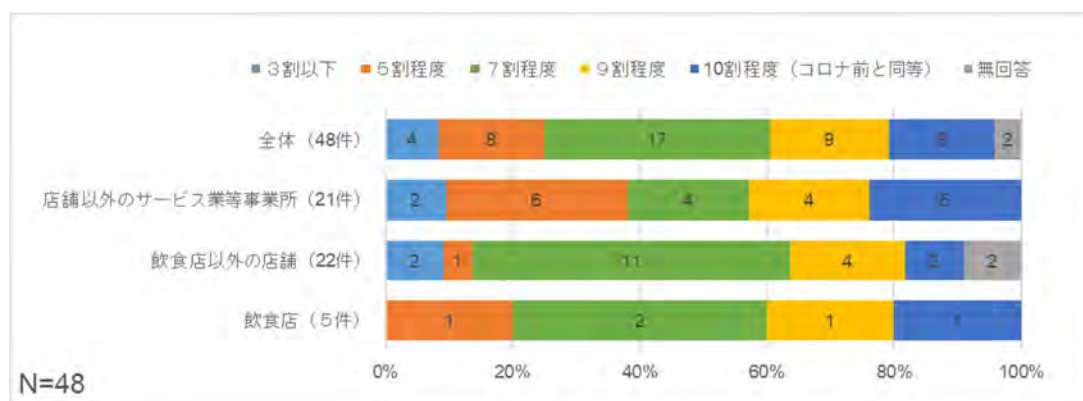


図 5-8 来客数の回復状況

飲食店の調査回答数は少ないが、コロナ禍の工夫として宅配やテイクアウトの他、営業時間を早めたりといった取組が見られる。一方で特に何もしていないという回答も多かった。

飲食店のテイクアウト代行サービスは、コロナ禍当初はつくば市内で利用できるサービスがなかったが、2020 年 7 月より Reatta Eats (リアッタ イーツ) がサービスを開始し、その後 Uber Eats (ウーバー イーツ) 等複数のサービスが利用可能となっている。

Reatta Eats では、つくば市がつくばセンター広場で実施している「ソトカフェ」と連携し、市内の飲食店の料理をつくばセンター広場へ配達するサービスも行っている。



図 5-9 飲食店におけるコロナ禍の取組・工夫

店舗・サービス業等 48 事業所の内、7 事業所より移転や閉店の検討をしているという回答があった。なお、調査回答事業所の内、2020 年度以降につくばセンター地区に立地した事業所は 4 事業所見られた。

コロナ禍においてつくばセンター地区の良かった点としては、都内よりも影響を受けにくかったことや、在宅ワークになった人の新たな利用が増えたこと等があげられた。一方で東京に近いことから、茨城県の中では影響を受けやすいことや、東京からの利用者の減少が大きな影響を与えたこと等があげられた。

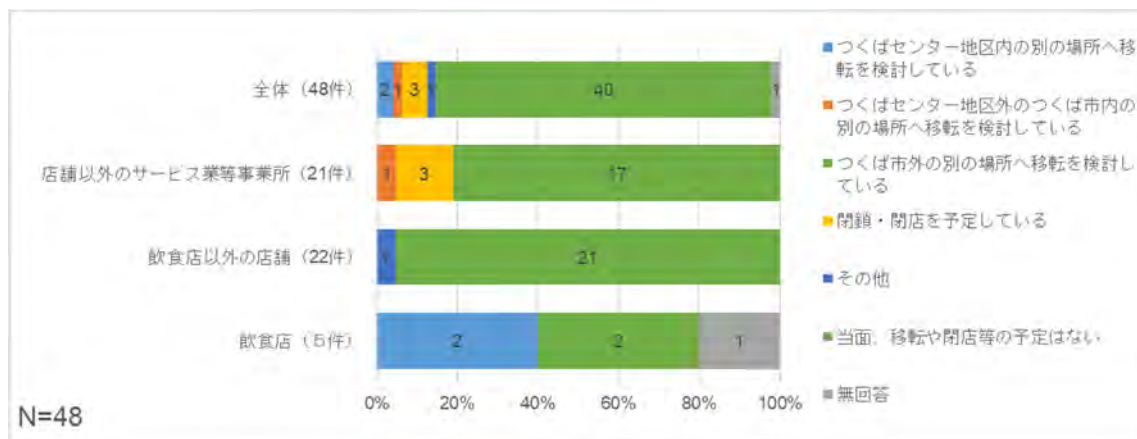


図 5-10 移転や閉店の予定

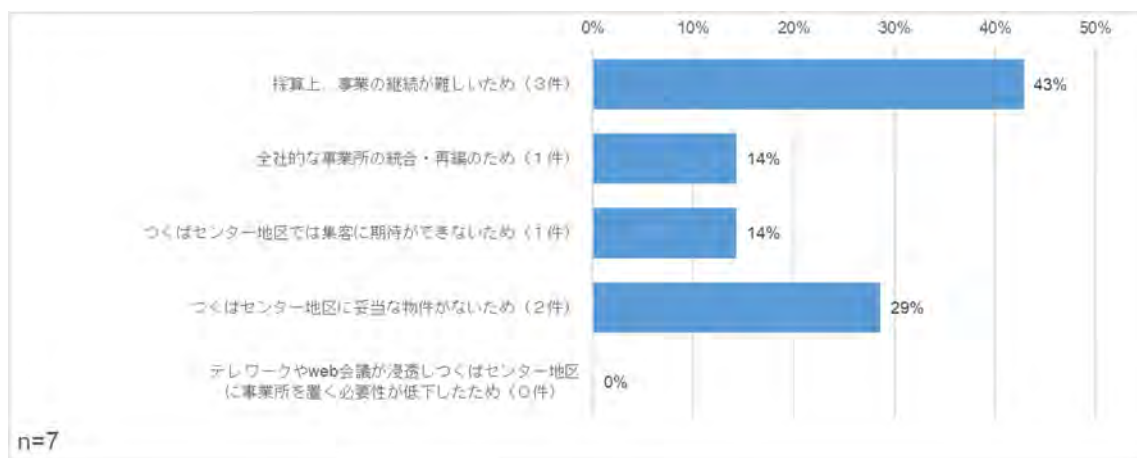


図 5-11 移転や閉店を検討している理由

表 5-2 つくばセンター地区に事業所があってよかった点・困った点

業種	良かった点	困った点
飲食店	・ 駅から近く立ち寄りやすい	・ 企業の接待等の宴会需要が無くなった
飲食店以外の店舗等	・ コロナの影響度合いが東京都心部と比較すると軽微に留まっている ・ 都内で休業があった際も営業できることが多かった	
店舗以外のサービス等事業所	・ 都心への通勤者が在宅ワークになったことから施設を利用してくれるようになった ・ 県の要請に従う店が多く、治安が良かった ・ つくば駅が近く便利	・ 徒歩圏内の利用者は増えたが車利用者は増えていない。有料駐車場による機会損失はコロナ以降も変わらない ・ つくばを含む県南地域の新規感染者数が多いため、コロナの影響を受けやすい ・ 軽食のお店が少ない
その他	・ 車での往来が容易なこと、人の密集がないこと	・ 東京都内からのアクセスが良いため都内からの利用が多いが、多くがキャンセルとなった

3. オフィス

(1) 出勤者数の動向

携帯電話の位置情報データから、つくば駅周辺でオフィスビルが集まるエリアの平日来訪者数の推移を見ると、緊急事態宣言が発令された4月～5月は減少が見られるものの、以降はコロナ禍前と比べ顕著な減少は見られない。

緊急事態宣言明けの6～7月の来訪者数は大きく増加しており、入社や異動等で人員や体制が変わることの多い4月に本社が抑制された反動の影響が推察される。

※つくばセンター広場、及びトナリエつくばスクエアを含む右図のエリアを通過・滞在した人口（推計人口）

出典：

技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」(au スマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計)

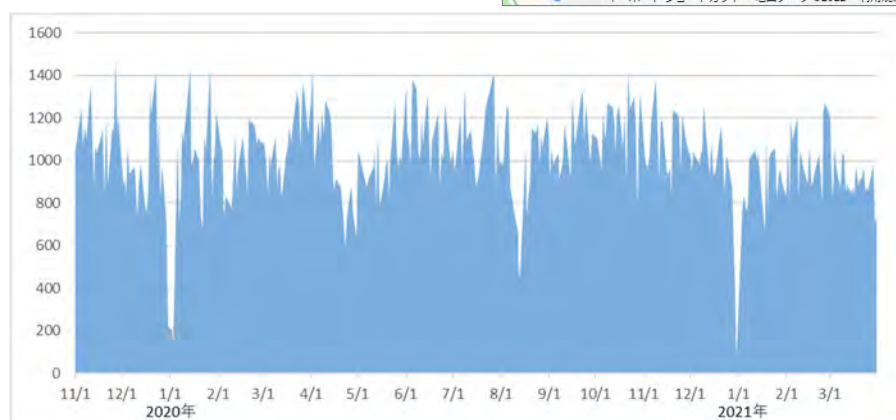


図 5-12 (参考) つくば駅周辺オフィスエリア来訪者数の推移 (平日 | 日平均)

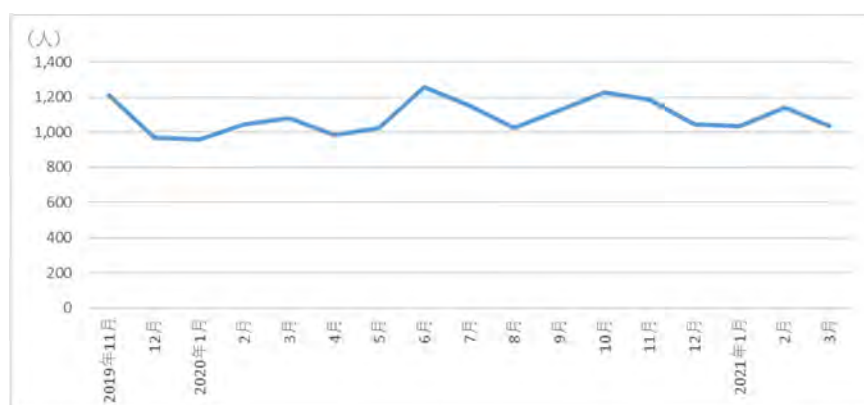


図 5-13 (参考) つくば駅周辺オフィスエリア来訪者数の推移 (月別平日 | 日平均)

(2) つくば駅周辺企業の動向

つくば駅周辺に立地するオフィスにおけるコロナ禍の影響や対応状況について、アンケート調査により把握を行った。(全体調査結果は巻末参照)

表 5-3 つくばセンター地区立地企業アンケート調査概要

調査期間：2022 年 1 月 7 日～2022 年 1 月 20 日
調査対象：つくば三井ビルディング、BiVi つくば、トナリエつくばスクエア、南 3 パークビル入居企業、つくばセンター地区活性化協議会会員事業所
回答企業数：オフィス 33 事業所（上記調査対象より店舗・サービス業事業所等を除く）

1) コロナ禍の企業活動等への影響

コロナ禍における経営環境について、「マイナスの影響があった」と回答した事業所が 6 割を占めているが、「あまり影響はなかった」「どちらともいえない」と回答した事業所も約 4 割あった。同時期に実施された全国企業を対象とした調査においても、「既にマイナスの影響がある」企業は約 6 割となっており、全国と同様の傾向となっている。

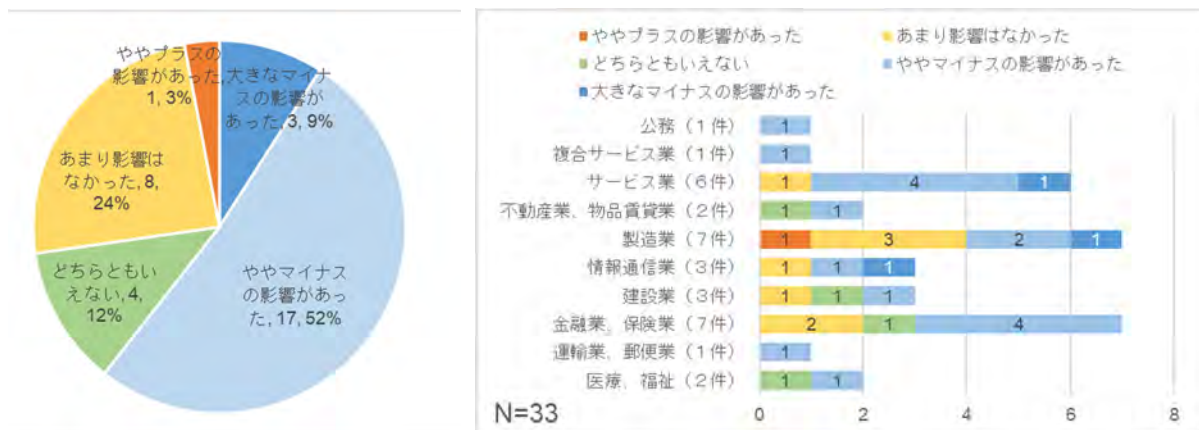
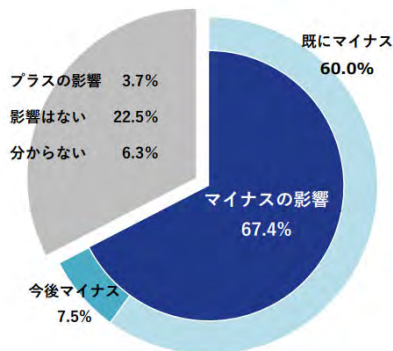


図 5-14 コロナ禍の経営への影響



注1：母数は、有効回答企業1万769社
注2：小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

出典：(株) 帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査」(2021 年 12 月)
(調査対象：全国 23,826 社（有効回答企業数 10,769 社）調査期間：2021/12/16～2022/1/5
<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p220101.pdf>

図 5-15 (参考) 全国の企業におけるコロナ禍の業績への影響

オフィスの機能や形態の変化については、約7割は「特に変えていない・変える予定はない」と回答しているが、「レイアウトを変えた・変えることを検討している」企業は約2割、「オフィス面積を縮小した・縮小を検討している」企業も少数だが見られる。サテライト機能の付加については、実施・検討企業は見られなかった。

東京都心部でオフィス空室率が拡大する等、コロナ禍を受けたオフィスの縮小や移転の動きが見られるが、全国企業を対象とした調査においても、オフィス面積は「変わらない」とする企業が85%を占めており、つくばセンター地区企業においても同様の傾向となっている。

今後のオフィスの移転や閉鎖等の予定については、1事業所がつくばセンター地区内での移転を検討しているとの回答があった。なお、2020年度以降に開設されたオフィスは、5件見られた。

コロナ禍においてつくばセンター地区の良かった点として、都心に比べ人との接触が少ないことや、従業員が近くに住んでいるため在宅勤務時にも必要に応じ出社が容易なこと等があげられた。

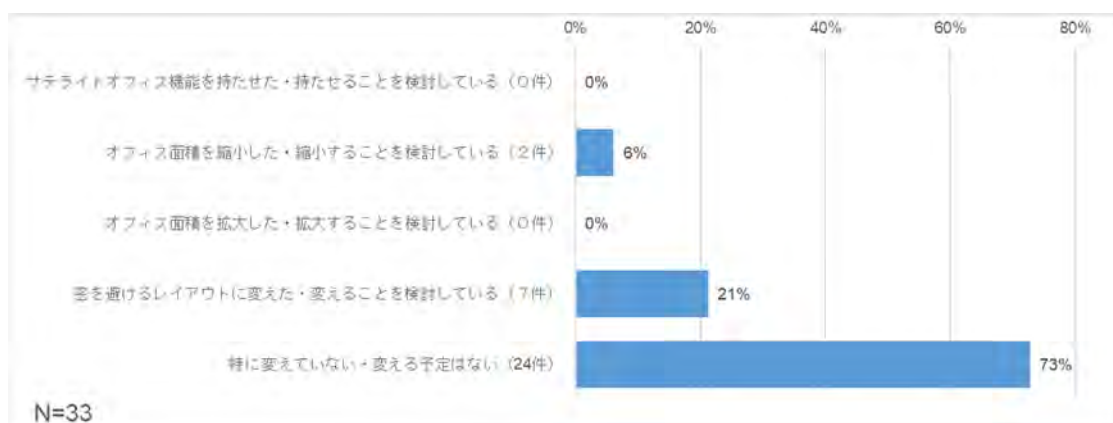
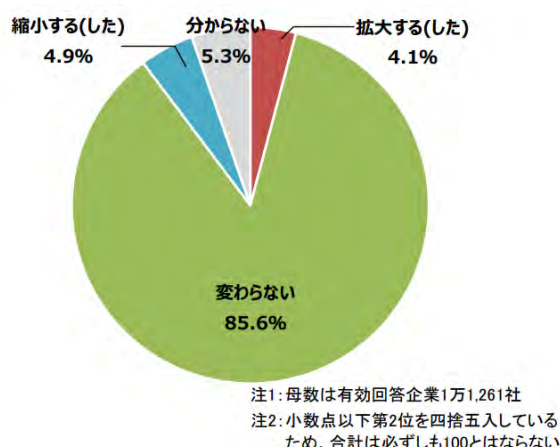
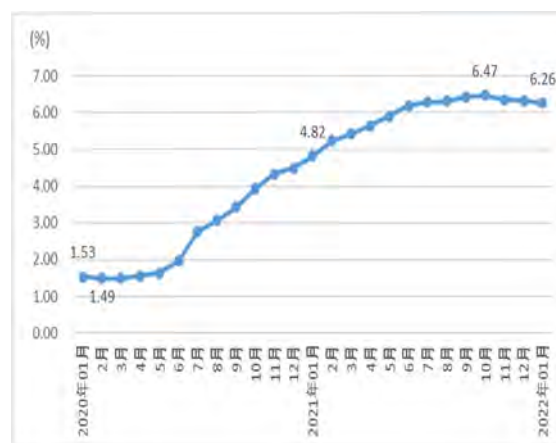


図 5-16 オフィスの機能や形態の変化、変更予定



出典：(株) 帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査」(2021年3月)
(調査対象：全国 23,703 社(有効回答企業数 11,261 社) 調査期間：2021/3/18~31
<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p210402.pdf>

図 5-17 (参考) オフィス面積の拡大・縮小予定 (全国)



出典：(株)三鬼商事「オフィスデータ」より作成
<https://www.e-miki.com/market/datacenter/index.html>

図 5-18 (参考) オフィスビル空室率の推移 (東京都心5区)

2) テレワーク等の動向

従業員の出勤率は、第1回緊急事態宣言期間中は半数以上の事業所が6割以下、2022年1月時点でも約3割が6割以下と回答しており、出勤者の減少が長期に続いていることがうかがえる。一方で、緊急事態宣言期間においても4分の1の事業所は通常と変わっていない。東京都心と比べ人の密度が低いことや、通勤で鉄道を使わない人も多いことが影響していると考えられる。

テレワークは、第1回緊急事態宣言時に7割が導入しており、その後も高い比率で継続されており、コロナ収束後も約6割が活用予定としている。

全国的には、テレワークを導入していない企業が7割、東京都区部でも4割を占めている中で、つくばセンター地区の事業所のテレワーク導入率は非常に高くなっている。これは、つくばセンター地区の調査対象企業がオフィスビルの入居企業が中心で、企業規模が大きいことが要因と考えられる。

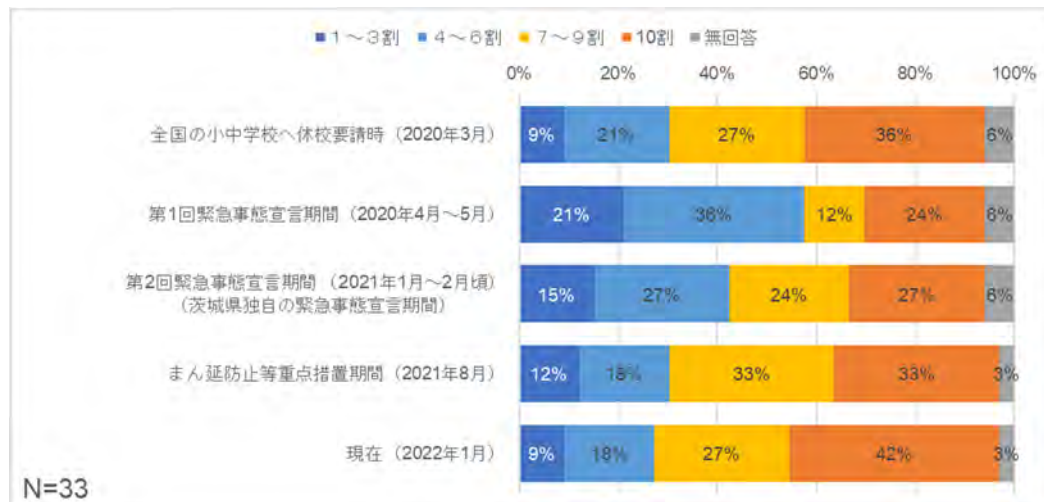
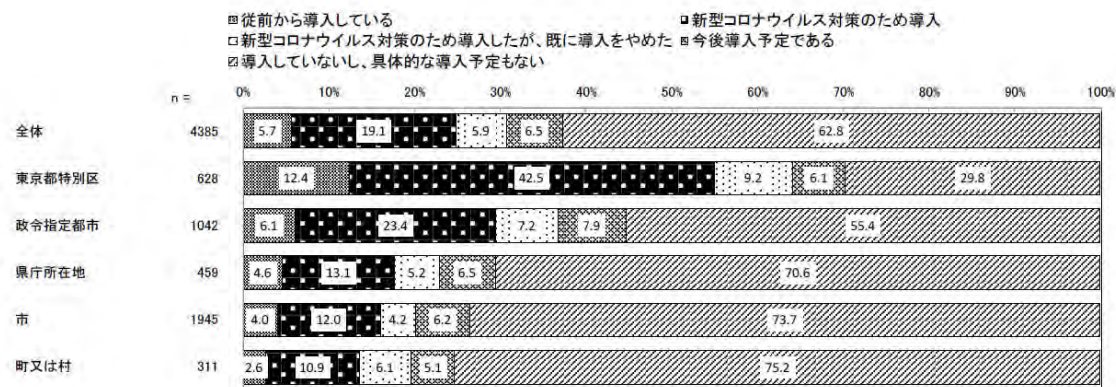


図 5-19 従業員の出勤率

N=33			出勤者数の抑制	時差通勤の導入	フレックスタイム制の導入	テレワークの導入	web会議システムの導入	特に何もしていない	その他	無回答
2020年	3月	全国の小中学校への休校要請時	45%	33%	27%	52%	58%	21%	3%	6%
	4～5月	第一回緊急事態宣言期間	67%	42%	30%	73%	67%	9%	3%	0%
2021年	1～2月	第二回緊急事態宣言期間	58%	39%	30%	73%	70%	9%	3%	0%
	8月	まん延防止等重点措置期間	55%	39%	33%	76%	73%	9%	0%	0%
2022年	1月	アンケート実施時点	48%	42%	36%	76%	70%	12%	0%	0%

図 5-20 働き方に係る対応状況

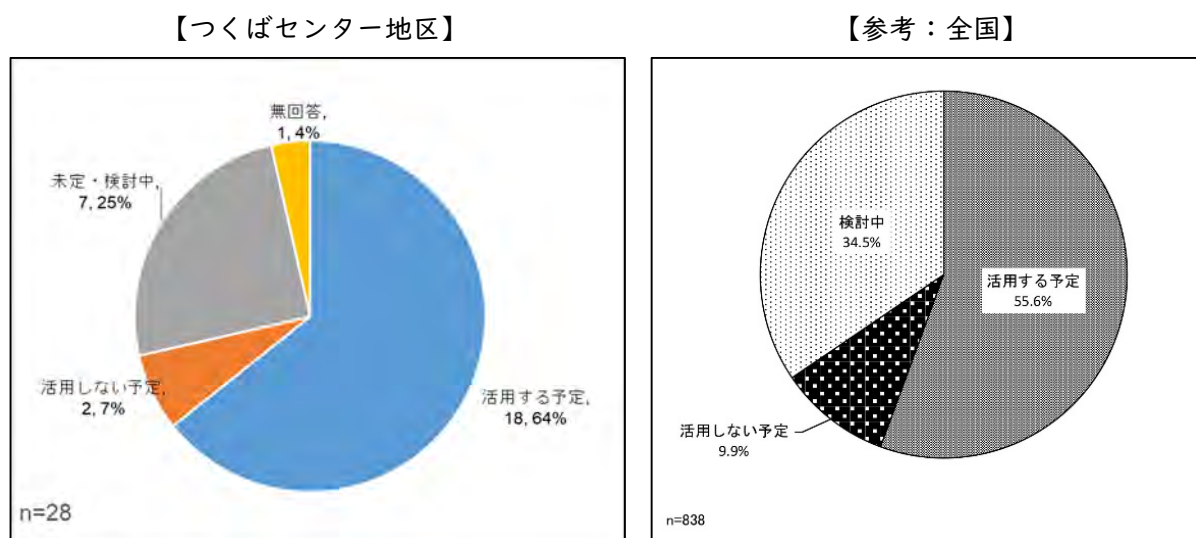


※調査対象企業：30,000 社（株式会社東京商エリサーチの所有する TSR 企業情報ファイルから、平成 28 年経済センサス活動調査における業種大分類別及び都道府県別の分布を参考に、比例配分し抽出。従業員数 10 人以上の企業を調査対象。）

調査時期：2020 年 12 月 15 日～2021 年 1 月 8 日

出典：総務省「テレワークセキュリティに係る実態調査報告書（2 次実態調査）」2021 年 4 月

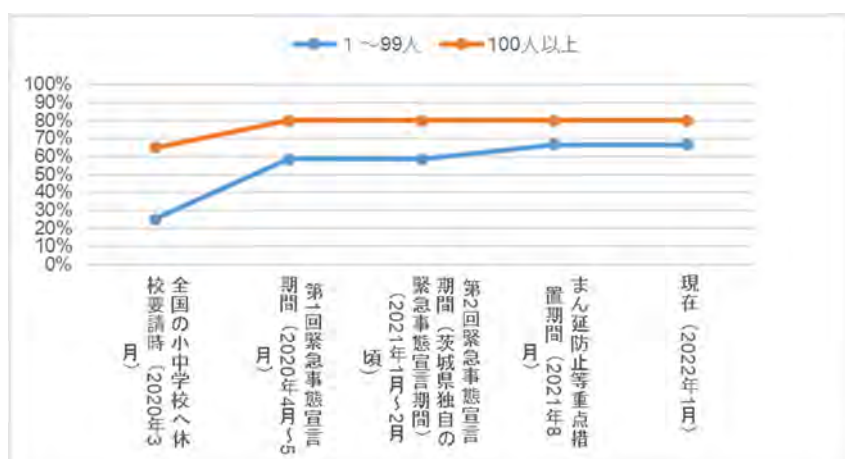
図 5-21（参考）テレワークの導入状況（全国）



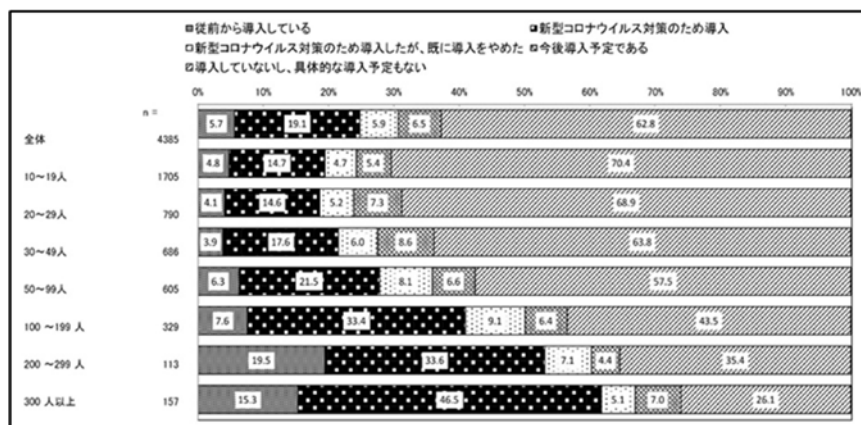
出典：総務省「テレワークセキュリティに係る実態調査報告書（2 次実態調査）」2021 年 4 月

図 5-22 新型コロナ収束後のテレワークの活用予定

【つくばセンター地区】



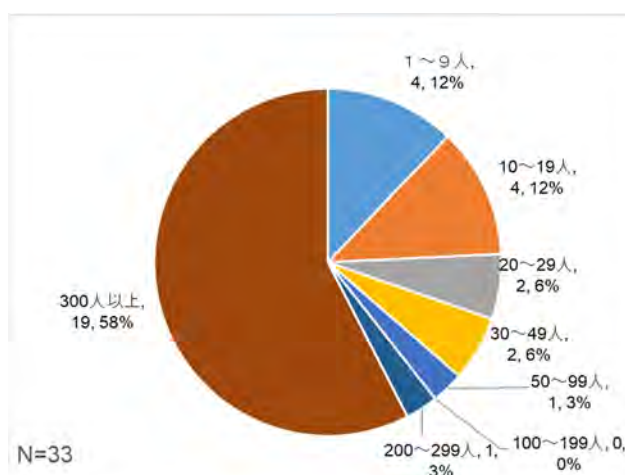
【参考：全国】



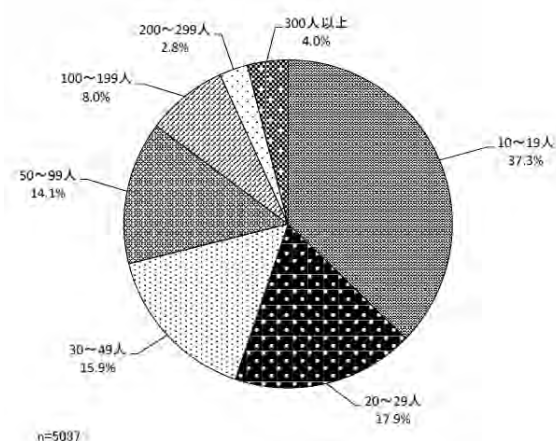
出典：総務省「テレワークセキュリティに係る実態調査報告書（2次実態調査）」2021年4月

図 5-23 テレワーク導入状況

【つくばセンター地区】



【参考：全国】



出典：総務省「テレワークセキュリティに係る実態調査報告書（2次実態調査）」2021年4月

図 5-24 調査回答企業の従業員規模

(2) テレワークスペース

つくば駅周辺にはコワーキングスペースの他、電源を備えたカフェが数箇所あるが、いずれもコロナ禍以前に開設されているものである。

スタートアップ関係者向けのコワーキングスペースを有する「つくばスタートアップパーク」(2019年10月1日開設)では、緊急事態宣言時は利用者の大きな減少が見られたが、登録会員数は2020年4月以降、増加が続いている。

つくばセンター地区の周辺や郊外エリアでは、古民家を改装したワーケーションのような雰囲気ワークスペースや、リモート面接等に使える学生用施設の設置等も見られる。



出典：つくば市スタートアップ推進室資料を基に作成

図 5-25 つくばスタートアップパーク利用状況

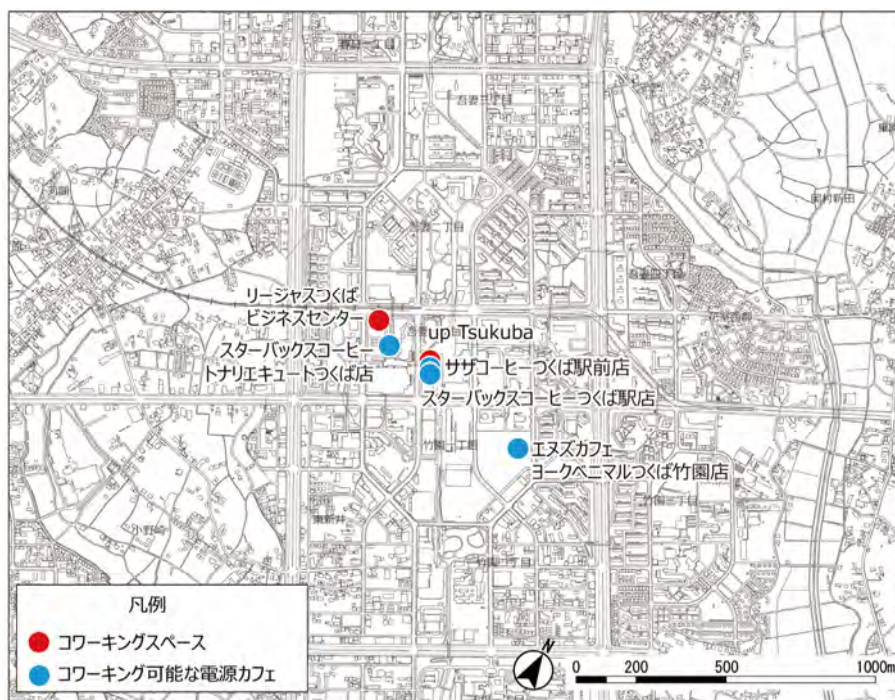


図 5-26 つくばセンター地区の主なテレワークスペース

4. 観光・交流

(1) 観光客数

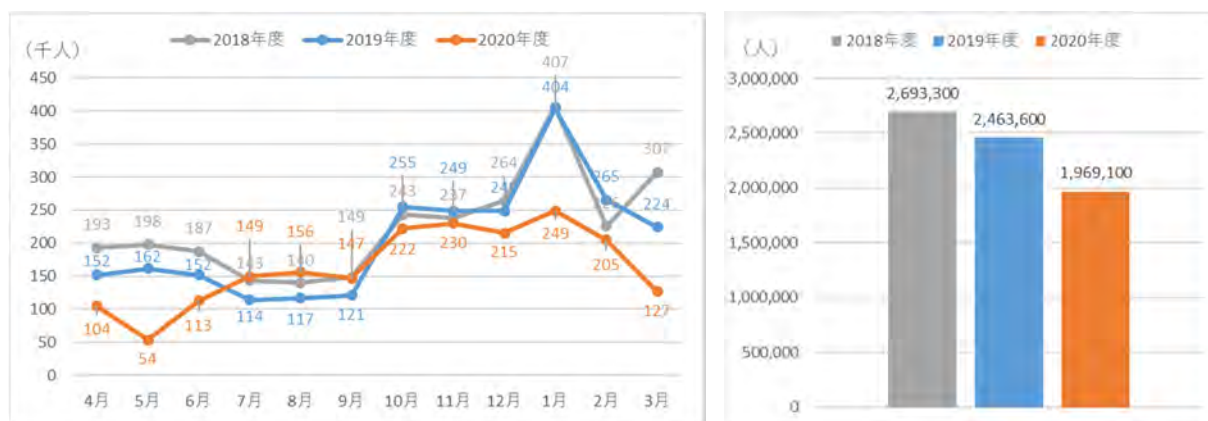
2020年度のつくば市全体の観光入込客数は、2018年度の約半分まで減少した。

一方で筑波山の観光入込客数は、緊急事態宣言や県のまん延防止警戒期間を除き大幅な減少は見られず平年並みで推移している。海外からの観光客が訪れることが難しい中で平年と同程度の来客が見られたのは、都道府県を跨ぐ移動の自粛が求められる中、感染リスクが少ない登山が楽しめる等、身近な観光地として近傍からの来訪が増えたことが要因と考えられる。

【つくば市全体】



【筑波山全体】



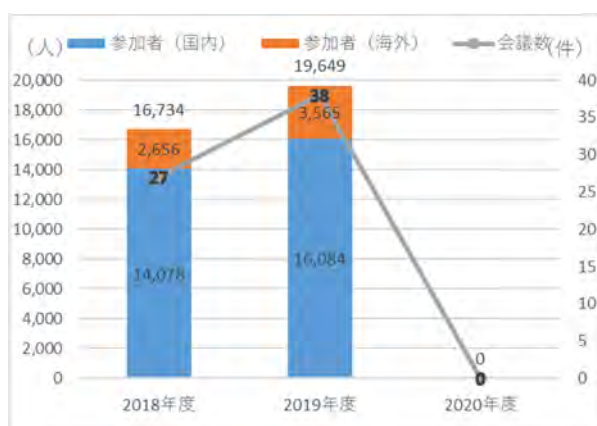
出典：つくば市観光推進課資料を基に作成

図 5-27 つくば市内観光入込客数

(2) 国際会議

筑波研究学園都市の中核施設であるつくば国際会議場においては、2019年度には38件の国際会議が開催され、国内外から約2万人が訪れていたが、2020年2月を最後に2020年度は開催されていない。

他地域も同様の傾向であり、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、2020年1月以降、国内の国際会議件数・外国人参加者数は前年度の半数以下に落ち込み、4月から9月は国内における国際会議開催数はゼロとなった。国際的な行き来が困難となったことを受けリモート会議等による開催も増加したが、これらを加えても2020年度の会議件数は前年度の4分の1に留まっている。



休館期間：2020/4/11～5/19

出典：つくば国際会議場資料

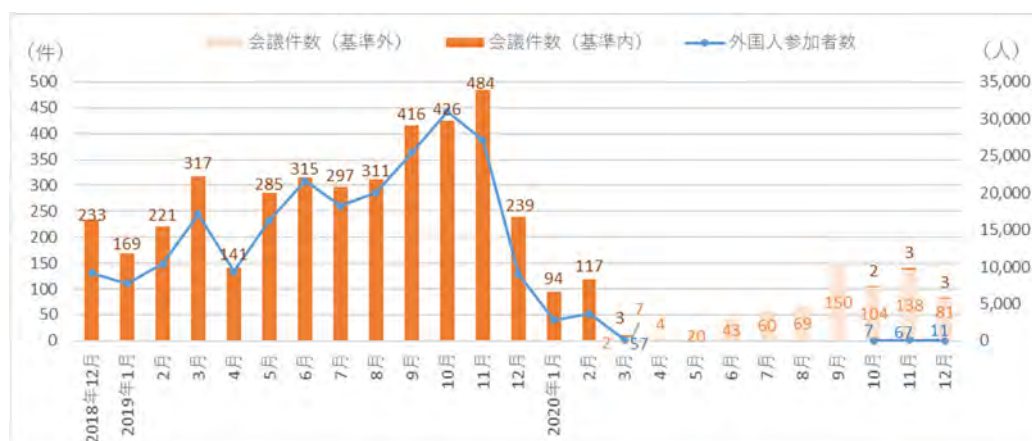


※年次集計

出典：日本政府観光局「国際会議統計」より作成

図 5-28 つくば国際会議場 国際会議開催状況

図 5-29 (参考) 国内の国際会議開催状況



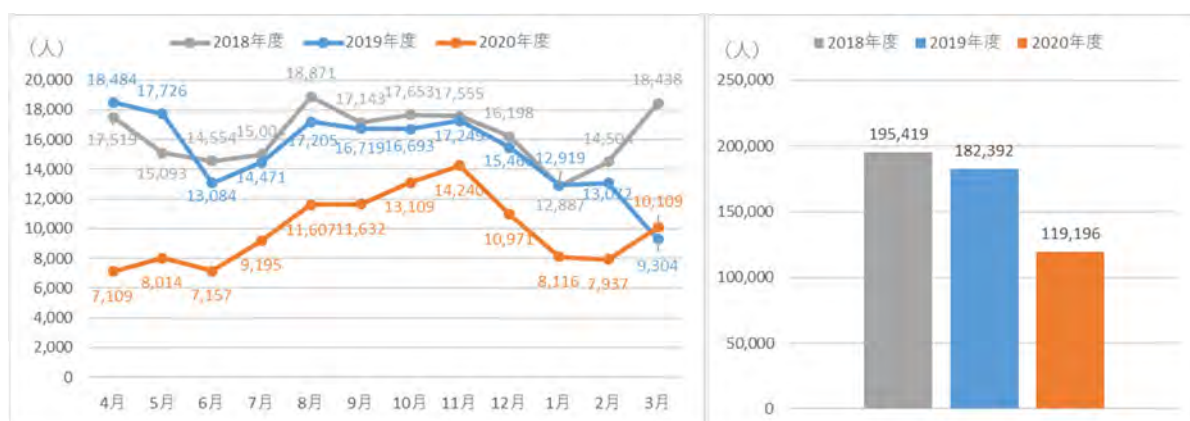
※基準外会議：日本政府観光局が収集した国際会議情報の内、リモート開催等のため、国際会議統計が対象とする定量基準（参加者50名以上、参加国数3居住国・地域以上）を満たさないものの、参加者が会場出席して入れば条件を満たしていたもの

出典：日本政府観光局「国際会議統計」より作成

図 5-30 (参考) 国内における月別国際会議開催数・外国人参加者数の推移

(3) 宿泊者数

つくばセンター地区のホテルの宿泊者数は、2020年3月より大きく減少し、2020年度は2018年度の約6割となった。緊急事態宣言明け以降は徐々に増加し11月には平年の8割程度まで回復したが、年末の感染拡大とともに再び減少し、2020年度末時点で平年の5割程度に留まっている。



※一部ホテルでは軽症者・無症状者の受け入れを実施

出典：ホテル日航つくば、ホテル JAL CITY つくば、ダイワロイネットホテル資料を基に作成

図 5-31 つくばセンター地区の主なホテルの宿泊者数

5. 市財政

つくば市の2020年度の歳出総額は、2018年度の1.5倍に増大している。ほとんどの費目で増加しているが、総務費の増加が多くを占めている。また、額は小さいものの、商工費も大幅に増加している。

歳入については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の交付を受け、国庫支出金が増加している。市税収入については、個人市民税は増加しており、人口増加の影響が考えられるが、法人市民税は約2割減少している。



出典：つくば市決算書を基に作成

図 5-32 つくば市歳入・歳出内訳

第 6 章 | 研究・教育

筑波研究学園都市の主要な機能である研究・教育機能については、対面での交流や海外との往来の面で大きな影響を受けた。

つくば国際会議場での国際会議は 2020 年度はゼロとなり、産業技術総合研究所での外国人受入れ数は職員数には大きな影響はなかったものの研究員・研修生の受入れは大幅に減少した。筑波大学の留学生数は、2020 年 5 月時点での減少は少ないが、学生宿舎の外国人数からは、秋入学以降の留学生数の減少がうかがえる。

研究発表や研究関連のイベントも対面での実施は大幅に減少したが、イベントについては、緊急事態宣言明けからオンラインによる活動が増加し、2020 年度末にはコロナ禍前と同程度のイベントが開催されている。

また、共同利用施設の利用や、企業との共同研究等もコロナ禍前と同等あるいはそれ以上の水準となっているケースが見られる等、様々な制約がある中でも活発に研究活動が進められていたことがうかがえる。

	2018年度		2020年度
国際会議 来訪者	16,734人 つくば国際会議場	-100%	0人
筑波大学 留学生数	2,457人 5月時点	-9%	2,247人
産業技術総合研究所 外国人受入数	820人	-46%	439人
産業技術総合研究所 研究発表数	14,147件	-37%	8,871件
TIA共同利用施設 利用件数	3,811件	+28%	4,882件
つくばサイエンスアー 研究機関等 見学者数	933,683人	-78%	206,510人
研究関連 イベント	2019年度 356件 内、オンライン利用1件 TCIホームページ掲載イベント	-44%	2020年度 198件 内、オンライン利用187件

I. 研究活動

つくば市に本部を置く産業技術総合研究所の研究活動に係るデータを見ると、2020年度の研究発表数は、誌上発表は大きな減少は見られないものの口頭発表は平年の半分と大きく減少している。企業との共同研究・委託研究については、件数はやや減少が見られるが研究費には大きな変動が見られない。

つくば市内の研究教育機関を中心とするTIA*における共用装置利用件数や、筑波大学発ベンチャー企業数はマイナスの傾向は見られない。

一方で、筑波大学附属図書館の利用者は、閉館日を除く1日平均利用者も平年の3分の1程度に大きく減少しており、オンライン授業等により大学を訪れる学生等が大きく減少したことがうかがえる。

*TIA：産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学、高エネルギー加速器研究機構、東京大学及び東北大学が協力して運営するオープンイノベーション拠点

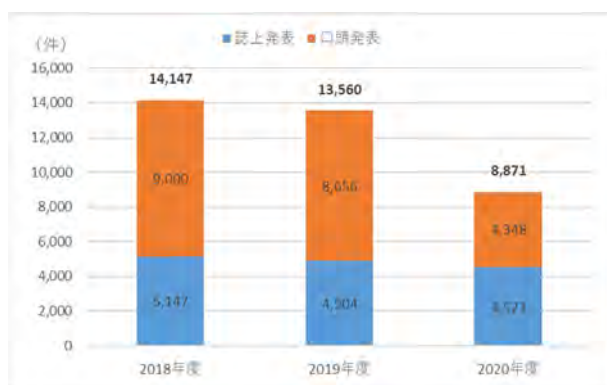


図 6-1 産業技術総合研究所 研究発表数



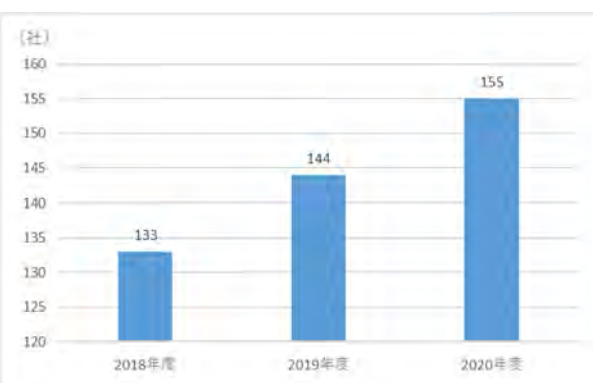
図 6-2 産業技術総合研究所 企業との共同研究・受託研究実績

出典：国立研究開発法人産業技術総合研究所「産総研レポート」「産業技術総合研究所年報」を基に作成



出典：TIA「TIA 事業報告書」を基に作成

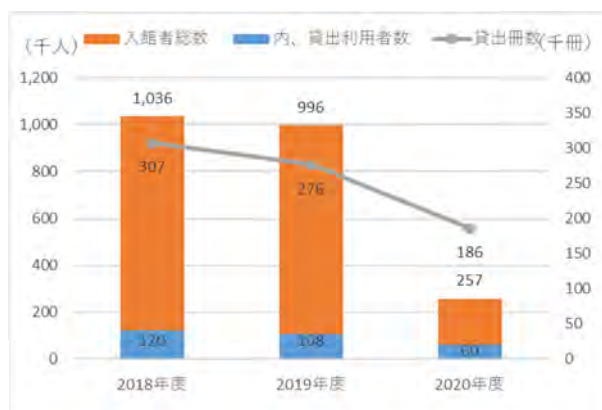
図 6-3 TIA 共同利用施設利用状況



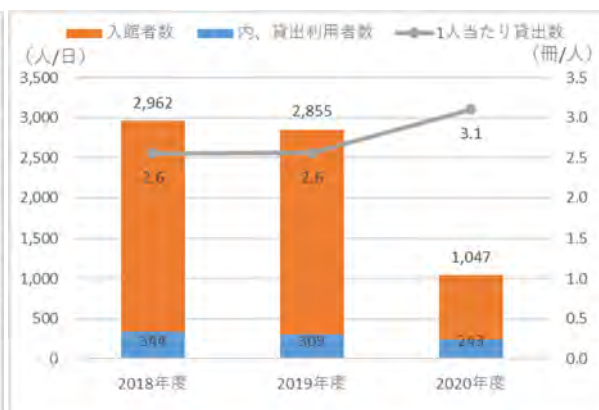
出典：筑波大学「地図とデータで見る筑波大学リーフレット」を基に作成

図 6-4 筑波大学発ベンチャー企業数（累計）

【年間利用状況】

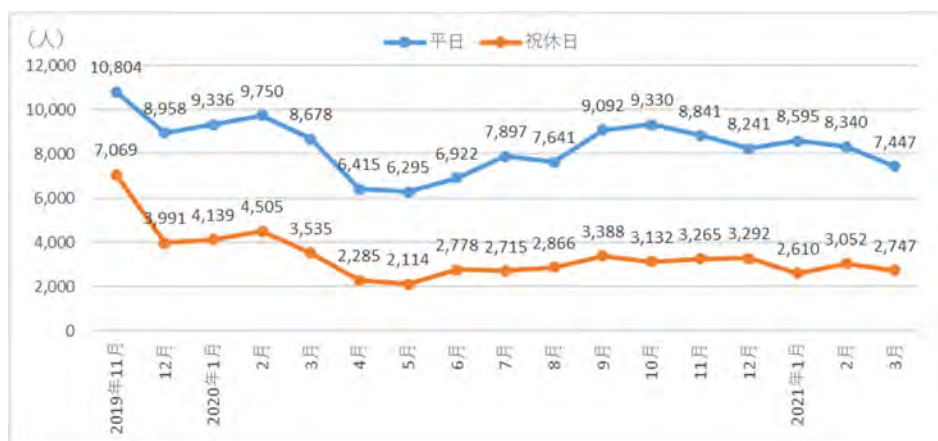


【1日平均利用者・一人当たり貸出数】



出典：筑波大学「地図とデータで見る筑波大学リーフレット」を基に作成

図 6-5 筑波大学附属図書館利用状況



※1時間以上滞在者の推計人口

出典：技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」(auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計)

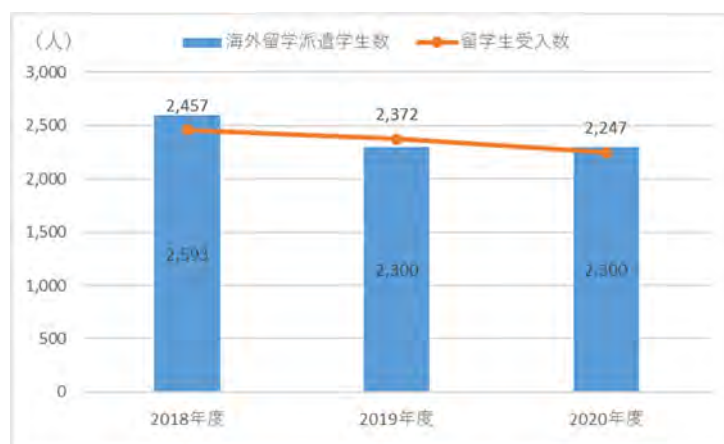
図 6-6 筑波大学平日1日平均滞在人口の推移

2. 交流活動

筑波大学における留学生の受入及び派遣数は、2020 年度時点では大きな減少は見られないが、筑波大学生宿舍の外国人居住者を見ると、平年は 5 月と 10 月に見られる大きな増加が 2020 年度は見られず、一時はコロナ禍前の半数近くにまで減少したことがわかる。

産業技術総合研究所の外国人受入れ数も、職員としての受入れ数に大きな減少は見られないが、外来研究員、技術研修生は大幅に減少しており、2020 年 4 月から強化された入国制限影響していると考えられる。

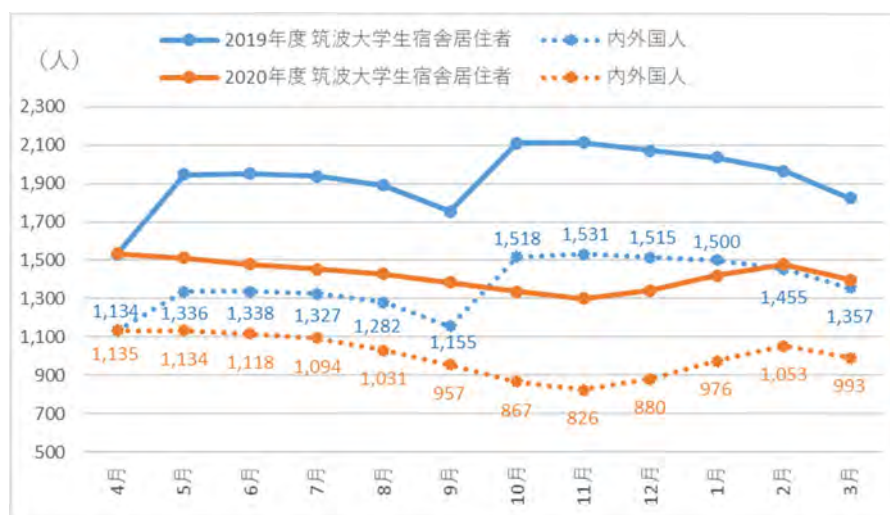
筑波大学において毎年 2 回実施している「日本留学生試験」の内、2020 年 6 月は中止となっている。



※各年 5 月 1 日時点。派遣学生数は当該年度中。前年度からの継続者含む。

出典：筑波大学「地図とデータで見る筑波大学リーフレット」を基に作成

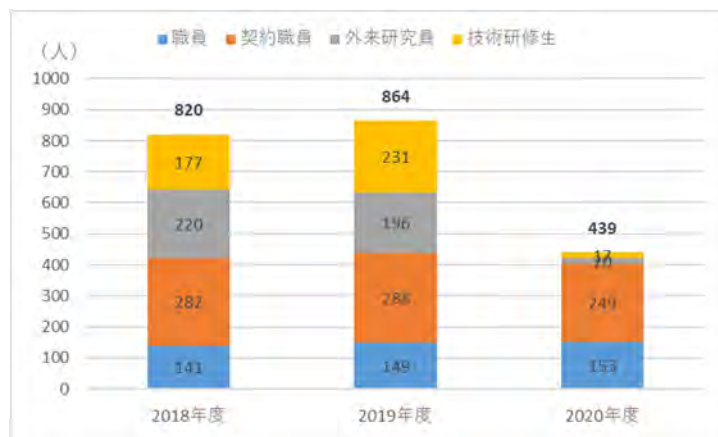
図 6-7 筑波大学における留学生受入・派遣状況



※住民基本台帳（住民票）データ。各月 1 日時点。

出典：つくば市「行政区別人口表」を基に作成

図 6-8 筑波大学宿舍居住者の推移

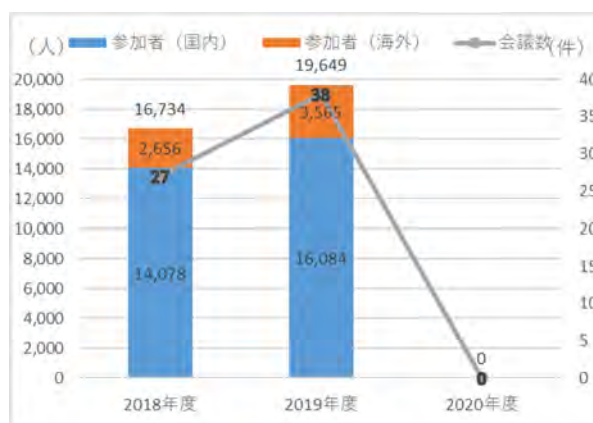


出典：国立研究開発法人産業技術総合研究所「産総研レポート」

図 6-9 産業技術総合研究所 外国人受入れ実績

つくば国際会議場においては、2019 年度には 38 件の国際会議が開催され、国内外から約 2 万人が訪れていたが、2020 年 2 月を最後に 2020 年度中は開催されていない。

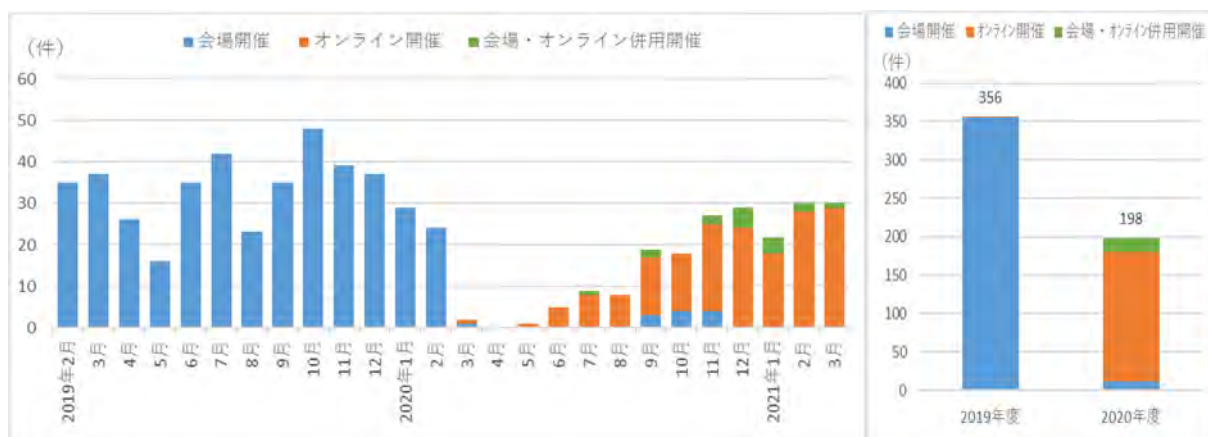
つくばの研究・教育機関等が中心に開催する各種セミナーやシンポジウム、講演会等のイベントについても、初期の感染拡大期には多くが中止となった様子がうかがえる。しかし、6 月頃からオンラインやオンラインと会場を併用した開催が増え、2020 年度の開催件数は前年度の半数程度まで回復している。（詳細は 5 章産業・経済 p.81 参照）



休館期間：2020/4/11～5/19

出典：つくば国際会議場資料

図 6-10（つくば国際会議場国際会議開催状況（再掲））



※つくば研究支援センターHPのイベント告知ページに掲載されたイベント件数を集計（最終的な開催の有無は情報提供があったもの以外は未確認）。つくば市外のイベントを含む。

出典：つくば研究支援センターHP掲載情報を基に作成

図 6-11 筑波研究学園都市 研究関連イベント開催数（再掲）

3. 普及活動

つくばでは、子どもや一般を対象とした科学に関する様々なイベントや体験教室等が行われているが、公的機関が行うものが中心であることから、2020年度は多くイベント等が中止や縮小となった。

例年多くの人に参加し、つくばの都市観光のコンテンツにもなっている「つくばサイエンスツアー」の利用者も大幅に減少した。

2021年度からは、「つくばサイエンスツアー」や「つくばちびっこ博士」等、オンラインの併用等による再開の動きが見られる。



出典：(一財)茨城県科学技術振興財団「事業報告」を基に作成

図 6-12 つくばサイエンスツアー利用者数



※サイエンスQ：小中学生を対象とした、研究機関研究員による出前授業。
つくば市外の学校への出張を含む。

出典：筑波研究学園都市交流協議会 HP 掲載情報を基に作成

図 6-13 サイエンスQの開催数・参加人数

第7章 | 今回調査のまとめ

前章までのデータに見るように、コロナ禍が都市活動に与えた影響は、極めて大きいことがわかった。

一方で、DXやICT、5Gの進展や普及等により予測されてきた、従来の働き方、新たなライフスタイルへの転換においては、一足飛びに時代が進んだともいえる。

この事象下にあって、これからのつくば市、とりわけつくばセンター地区を考えると、必ずしもマイナス思考ではなく、むしろアフターコロナがもたらす様々な要因をプラスに転化していくことに知恵を絞ることが大切である。

そうすることにより、つくばセンター地区がコロナ前に抱えつつあった課題を、プラス方向に導くことが可能になると推察する。

人流について見ると、つくばセンター地区の特徴的な土地利用である筑波大学や、つくば駅の利用者の多くを占める各種研究機関の関係者等の勤務特性が大きく影響していると考えられる。

例えば、他駅と比較したつくば駅の利用者数の回復の遅れは、その要因の一つとして、テレワークへの転換と定着やオンライン授業や会議への適応が迅速に行われた結果であると考えられる。

このようなことから、新たなライフスタイルへの対応や転換にそれほど大きな違和感なく、むしろ積極的に受け入れる素地があるということは、プラス要因として評価すべきことと推察する。

公共交通利用者数に目を転じると、路線バスの乗降客も他と同様に外出制限等の影響を受けているが、筑波山神社入り口で増加の傾向が見られる。

密を回避できるアウトドア需要が増えたことにも起因しているとはいえ、この地域の一番の地域資源ともいえるべき筑波山への評価や興味が増加したためとも考えられ、ごく身近な場所で大事な地域資源に触れられることの価値が改めて見直されることにより、ますますこの地域の優位性や評価が高くなるのではと推察する。

駐車場の利用状況からは、通勤・出張等のパーク＆ライド利用の減少の継続が読み取れ、テレワークが一過性のものでは終わらないことが示唆される。

また、病院に近接する駐車場の定期利用台数の顕著な増加からは、人流が減ったまちのなかで、医療従事者の奮闘が長く続いていること、また人々の安心をしっかりと支えていることに改めて気づかされた。

生活余暇活動に目を向けると、前述の筑波山人気にも見られるように、密状態を避けられる屋外レジャーの需要が高くなった結果として、公園への来訪者、特に洞峰公園への来訪者が増えている。ただし、つくばセンター地区の中央公園の利用者数は思いのほか増加が見られず、イベント開催の中止の影響を受けたのか、むしろ減少している。

広域からの利用者数が多く、テニスコート等のスポーツ施設も備える洞峰公園と単純比較す

ることはできないが、洞峰公園周辺（近接して）にはパン屋さん等のお店も多くあることも勘案すると、中央公園周辺（近接して）には日常に出かけられる飲食や物販のお店が少なく、結果的にイベントを楽しむ目的以外の公園単独利用は思ったより少ないのかもしれない。

多用途を混在させる等土地利用の工夫等に一考の余地があると推察する。

また、近年続いていたキャンプ需要（ブーム）は、つくばでも同様でありゆかりの森のテント利用、特に冬場の利用が大きく伸びている。

キャンプ文化が一過性のブームを経て、やっと文化として定着したとも考えられるが、手軽に都会の雰囲気とアウトドアの良さを楽しめるつくばならではの良さも再認識されたとも推察される。

さらに、図書館の利用者（貸出数）を見ると、閉館やサービス休止等の影響を受けてはいるが、ほぼ平年なみに回復してきている。

中央図書館等の利用に比較して屋外の自動車図書館は運行再開後には平年を上回る利用者が見られる。ステイホームの影響や利用時の密状態への懸念もあるかと考えるが、アウトドア需要の高まりを契機に、今後、自動車図書館の頻度や展開場所の工夫を検討してはどうかと推察する。

コロナ禍に起因する人口増減については、ここ数年続いている増加基調に明確な変化はないが、つくばセンター地区で見ると、吾妻 2 丁目や筑波大学生宿舎の減少率が高くなっている。平常（対面）での授業への切り替えの遅れや、留学生や新入生のつくばでの生活の開始が遅れていることに起因すると考えられる。（地域間移動数が減少している。）今後、通常の授業形態が多くなれば一定程度まで回復するのではと推察する。

産業・経済の観点から見ると、つくば駅周辺の事業所数は減少傾向が続いているが、特に飲食店をはじめとする店舗においてはコロナ禍を受け減少が加速していることがうかがえる。

今回、土浦中心部と比較したデータを示したが、都市の成り立ちや構造、歴史の違いによる店舗数や業態の違い等も見られ、そのことにも起因するのか、つくば駅周辺の方が店舗の減少率は高くなっていることがうかがえる。つくばセンター地区には、地に足がついた(地域に馴染んだ歴史ある)個人経営の店舗が少なく、柔軟な対応が難しいことが要因となっている可能性も推測される。

今回、つくば駅周辺の商業・業務施設とつくばセンター地区活性化協議会会員事業所を対象にアンケート調査を実施したが、コロナ禍による経済活動にマイナスの影響があったと答えた事業所の割合は約 6 割あり、全国企業を対象とした同様な調査での割合と同程度であった。

一方、全国や東京都区部と比較して、テレワークの導入率は非常に高くなっていて、回答された事業所の規模が比較的大きいことを差し引いても、新たな時代の働き方への順応性が高い地域であることが改めて確認できたのではと考える。

コロナ禍がもたらした新しい働き方の進展は、住まい選びに大きな変化をもたらすことになった。東京一極集中からの脱却もその一つだが、新たな時代に選ばれる都市についても、「働く場所の近くを優先する」という住まい選びから、環境や自身のライフスタイルを重視すること

へと変化してきている。

このことは、最近のつくばセンター地区の新築マンション等への移住者動向にも表れていて、コロナ禍を契機とした都心勤務者の転入が増えている。これまでつくば市に縁のなかった人たちの転入は、都心との距離感に加え、一定の都市的利便性や教育環境の他、新しく作られた場所ゆえの入りやすさ等が評価された結果と考えられ、国等の研究教育機関の宿舍が大半を占めていたつくばセンター地区の居住者構成に変化をもたらし、今後の都市の多様性醸成に期待を抱かせるところである。

このように、コロナ禍の影響による都市活動の変化を観察することにより、これまでのつくばセンター地区の特徴がより顕在化するとともに、改めて評価されるべき特徴も浮き彫りとなった。

これからのつくばセンター地区の将来像、あり方等の検討の一助となることを目指し、今後とも、時代の変化を捉えつつ、新たな比較データ等を追加しながら、継続して観察を行うこととしたい。

1. コロナ禍の企業活動に関するアンケート

アンケート調査期間：2022年1月7日～2022年1月20日

調査対象：つくば駅周辺の商業・業務施設

(つくば三井ビルディング、BiViつくば、トナリエつくばスクエア、南3パークビル)

つくばセンター地区活性化協議会会員事業所

回収数 / 配布数：81件 / 250件 (回収率 32.4%)

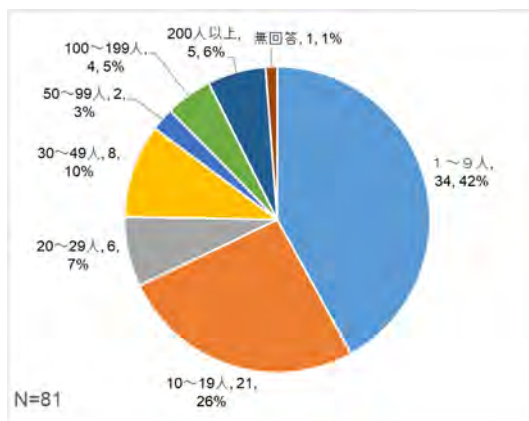
回収方法：web、メール、FAXによる回答

調査目的：つくばセンター地区立地企業のコロナ禍における企業活動への影響及び対応について把握するため

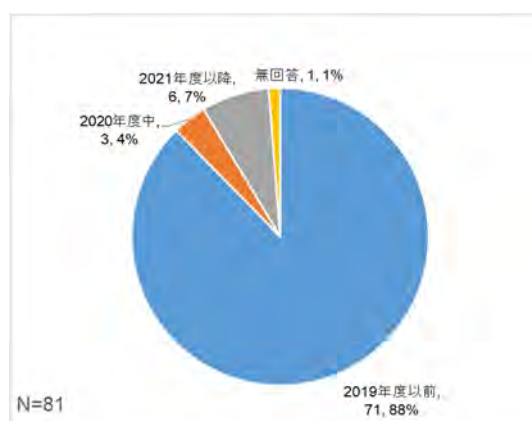
アンケート単純集計結果

【つくばセンター地区に位置する事業所の概要】(全体：有効回答数 81 件)

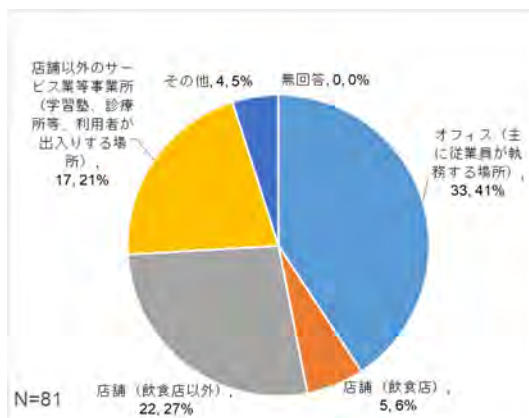
1. 従業員規模



2. 事業所の開設時期



3. つくばセンター地区に位置する事業所の種別



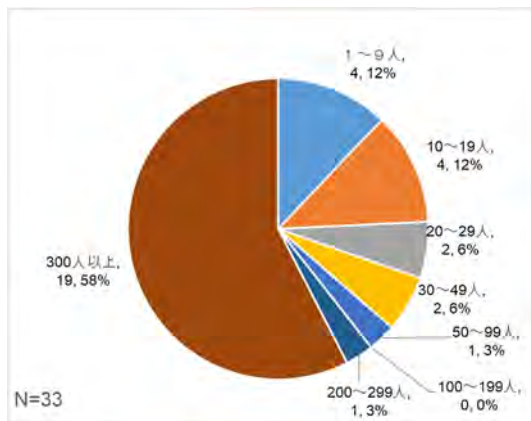
2020 年度中開店 : オフィス 3 件

2021 年度以降開店 : 飲食店 1 件、店舗 3 件、

オフィス 2 件

【企業・組織の概要について】（オフィス：有効回答数 33 件）

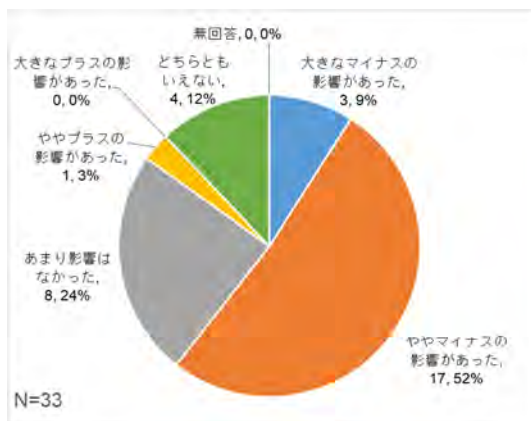
1. 事業所の組織全体の従業員規模



2. 事業所の業種



3. 事業所におけるコロナ禍による経営への影響



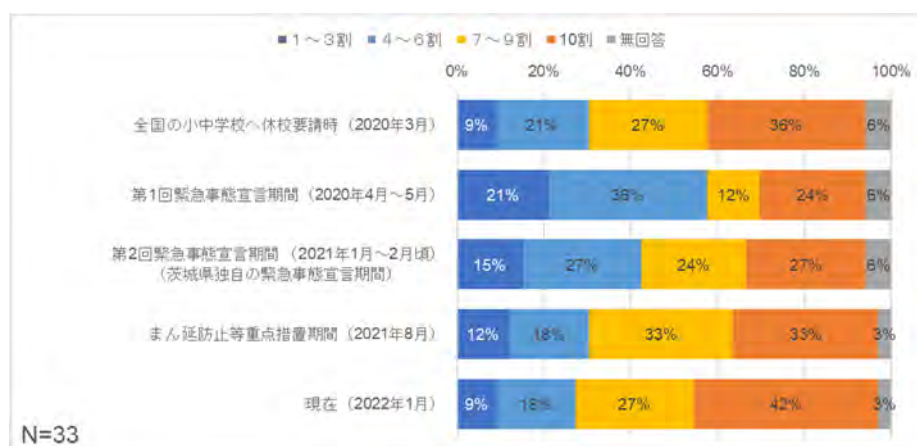
4. 従業員の働き方（複数選択可）

N=33			出勤者数の抑制	時差通勤の導入	フレックスタイム制の導入	テレワークの導入	web会議システムの導入	特に何もしていない	その他	無回答
2020年	3月	全国の小中学校への休校要請時	45%	33%	27%	52%	58%	21%	3%	6%
	4～5月	第一回緊急事態宣言期間	67%	42%	30%	73%	67%	9%	3%	0%
2021年	1～2月	第二回緊急事態宣言期間	58%	39%	30%	73%	70%	9%	3%	0%
	8月	まん延防止等重点措置期間	55%	39%	33%	76%	73%	9%	0%	0%
2022年	1月	アンケート実施時点	48%	42%	36%	76%	70%	12%	0%	0%

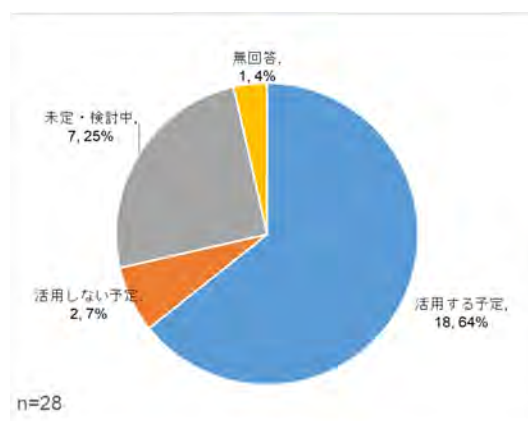
○その他意見

・開業前のため回答ができない（1件）

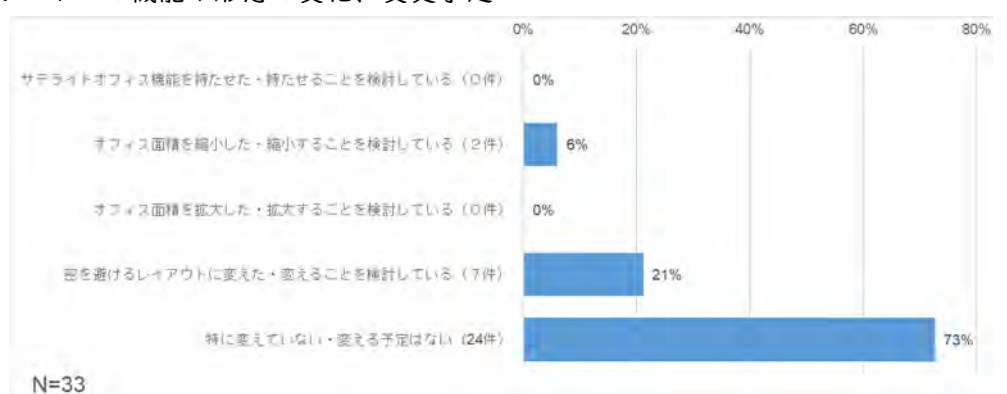
5. コロナ禍の各期間の従業員のおおむねの出勤率



6. コロナ収束後のテレワークの活用予定（テレワークを導入した事業所のみ回答）

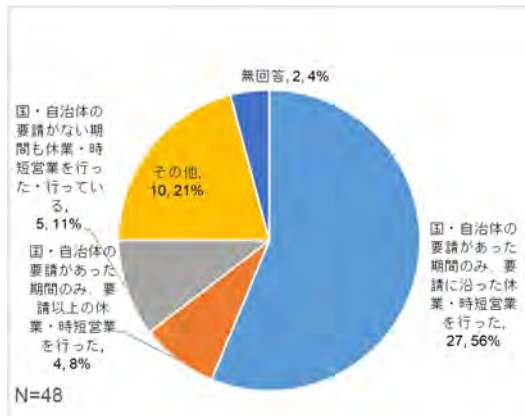


7. オフィスの機能や形態の変化、変更予定



【営業状況について】（店舗等：有効回答数 48 件（内、飲食店：5 件））

1. コロナ禍による営業日・営業時間の対応



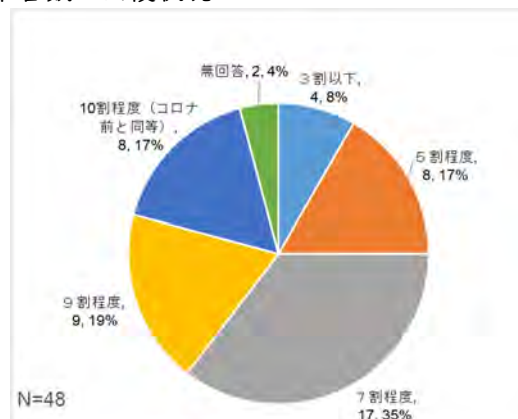
○その他意見（計 9 件）

- ・通常営業（7 件）
- ・デベロッパーが定めた期間休業対応を実施（1 件）
- ・Web 会議システム等を用いたオンライン活動を実施（1 件）

2. 【飲食店限定】コロナ禍の営業に対応するために行った取組や工夫（複数回答可）



3. コロナ前と比べた来客数の回復状況

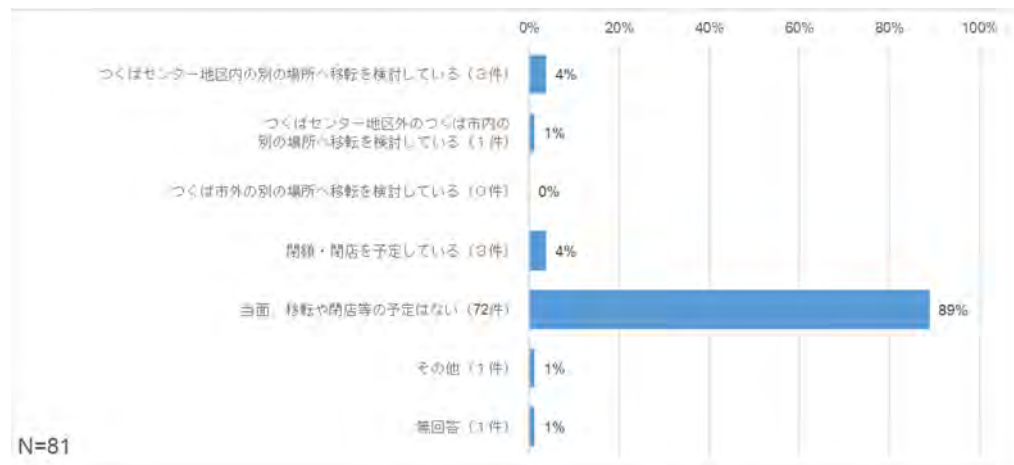


【つくばセンター地区の操業環境について】（全体：有効回答数 81 件）

1. コロナ禍において、事業所・店舗がつくばセンター地区にあってよかった点、または困った点

業種	良かった点	困った点
飲食店	・ 駅から近く立ち寄りやすい	・ 企業の接待等の宴会需要が無くなった
飲食店以外の店舗等	・ コロナの影響度合いが東京都心部と比較すると軽微に留まっている ・ 都内で休業があった際も営業できることが多かった	
店舗以外のサービス等事業所	・ 都心への通勤者が在宅ワークになったことから施設を利用してくれるようになった ・ 県の要請に従う店が多く、治安が良かった ・ つくば駅が近く便利	・ 徒歩圏内の利用者は増えたが車利用者は増えていない。有料駐車場による機会損失はコロナ以降も変わらない ・ つくばを含む県南地域の新規感染者数が多いため、コロナの影響を受けやすい ・ 軽食のお店が少ない
オフィス	・ 東京ではなくてよかった ・ 人との接触が少ないのが良かった ・ 従業員の生活圏がつくば市内のため、在宅勤をしても取引先からの対応依頼に応える	・ 人の往来が多いため不安にはなった
その他	・ 車での往来が容易なこと、人の密集がないこと	・ 東京都内からのアクセスが良いため都内からの利用が多いが、多くがキャンセルとなった

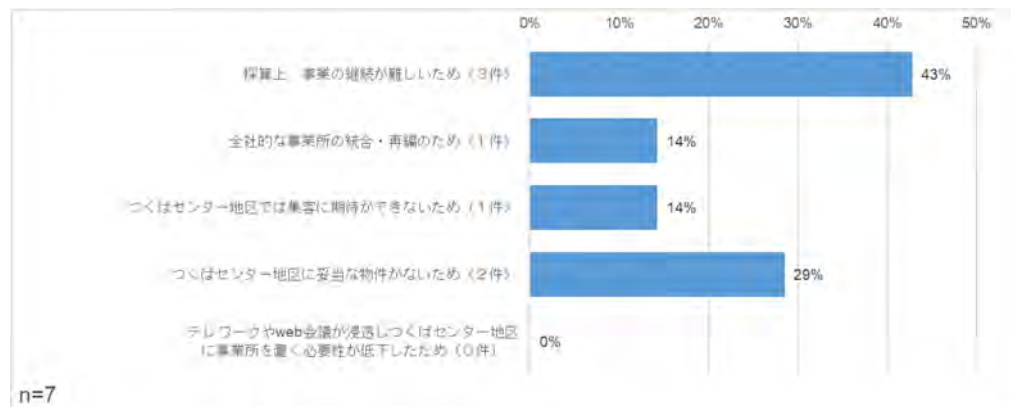
2. 今後、つくばセンター地区内の事業所・店舗の移転や閉店の予定



○その他の意見

・次回の定期契約の賃料次第によって検討

3. 「つくばセンター地区外への移転」または「閉鎖・閉店」を検討している理由（複数回答可）



4. 今後、新たな生活様式等ライフスタイルやワークスタイルが変化する中であっても、住む人、働く人、訪れる人にとって、よりよいつくばセンター地区であるための改善点や提案について

	改善点や提案
全般	・ 今後もつくば駅周辺においてマンション建設が続いていくと思われるが、ベッドタウン化してしまうと魅力はなくなる。観光や、オフィス、カフェ、レストラン、研究所の中心部への一部移転等、マンション以外のまちづくりを考えるべき（オフィス） ・ 研究学園駅周辺との差別化（店舗以外のサービス等事業所） ・ 人が集まる目的を作ってほしい。筑波山以外にもイベントの実施や集客力のある店舗等、街の活性化につながる活動を望む（店舗） ・ すべてにおいて中途半端感が否めない（店舗以外のサービス等事業所） ・ 治安向上（オフィス）
施設等	・ 筑波山観光にきた人が帰りに利用できる施設（その他） ・ 遅い時間まで開いているスーパーマーケット（店舗以外のサービス事業所） ・ 魅力的な商業施設の誘致（オフィス、飲食店） ・ 駅前商業施設の店舗に魅力的なもの、目新しいものがない（新しいものはイオンやイーアスに）。一定レベルの日用品、食品、贈答品等が購入できる場所がない。富裕層のニーズに応えるものがないと、買い物は都心になってしまう。（店舗） ・ 通勤、通学者向けの手軽にランチやテイクアウトできる飲食店（店舗以外のサービス事業所） ・ 飲食営業をするための仕込み場、シェアキッチン希望（飲食店） ・ 文化施設 美術館等々（オフィス） ・ コワーキングスペース（オフィスワークに加え異業種交流を期待）（オフィス） ・ 自習やイベント（オンライン等も含め）活用可能な場所が数多くあるとよい（店舗以外のサービス等事業所） ・ 医療機関・クリニック（オフィス）
ソフトの取り組み	・ 官民連携によるサービスの提供（店舗等） ・ 大学や JAXA との連携（飲食店） ・ プロジェクションマッピングの活用（オフィス） ・ ペDESTリアンデッキの有効活用（店舗）

交通・アクセス	・駐車場の無料化、短時間利用の無料化（飲食店、店舗以外のサービス等事業所） ・駐車場料金の値下げ、利用しやすい料金設定（店舗以外のサービス等事業所、オフィス、その他） ・有料駐車場が来店・テナント入店の障害になっているのでは（飲食店・オフィス） ・駐車券購入へのクレジットカード決済の導入（経費処理の手間が大きい）（オフィス） ・自家用車の利用者が増え、周辺道路が混雑していたように感じる（オフィス） ・バス路線の充実（オフィス） ・つくば駅から少し離れると遠いため、レンタルできる自転車等（その他） ・シェアリングサービス（特にキックボード）（オフィス）
インフラ	・ペDESTリアンデッキの更なる緑化。西側の公園の美観。（オフィス） ・老朽化した公共設備の改修（店舗等） ・道路の整備、メンテナンス（オフィス） ・歩行者用の街灯の整備（オフィス） ・喫煙ブースの設置（その他） ・つくばの魅力や案内をする掲示板の駅前への設置（オフィス） ・共同利用できる蓄電池（オフィス）

令和4年1月11日

一般財団法人 つくば都市交通センター
理事長 茂木 貴志

コロナ禍の企業活動に関するアンケートご協力のお願い

平素より、当財団の交通計画運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当財団においては、つくばセンター地区の活性化に資するための調査研究として、つくばセンター地区を中心とした都市活動の変化について把握するため、つくば市と連携・協力し、地域の人流や産業、くらしに関わる各種データの収集を行っております。

この度、この調査の一環として、コロナ禍におけるテレワークの実施状況等企業活動の実態を知るため、つくばセンター地区に事業所をお持ちの皆様にアンケートを実施することといたしました。

つきましては、下記URLまたはQRコードからの回答もしくは、別添アンケート票による回答をご協力お願い申し上げます。（所要時間約5分）

なお、本調査およびアンケート集計結果につきましては、R4年3月発刊の「TUTCライブラリー」として取りまとめ、当財団ウェブサイト等で公表させていただくことを予定しています。

ご多忙の折、お手数をおかけし恐縮ですが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 回答方法：①URL または QR コードによる回答

（※Google にログインしたまま送信してもアカウントは送信先に通知されません）

URL→ <https://forms.gle/zzzg221ijP8B5jcz7>

QR コード→



②別添のアンケート票による回答（FAX または返信用封筒による郵送）

FAX 送信先：029-861-0501

郵送：返信用封筒をご利用ください

2. 回答期限：令和4年1月31日

以上

つくばセンター地区における企業活動に関するアンケート

【つくばセンター地区内に位置する事業所の概要】

◆つくばセンター地区に位置する事業所の従業員規模について教えてください。

- ☐ 10名以下 ☐ 10名超～19名以下 ☐ 20名超～29名以下 ☐ 30名超～49名以下
☐ 50名超～99名以下 ☐ 100名超～199名以下 ☐ 200名超

◆つくばセンター地区に位置する事業所の開設時期について教えてください。

- ☐ 2019年度以前 ☐ 2020年度中 ☐ 2021年度以降

◆つくばセンター地区に位置する事業所の種別について教えてください。(主に該当するものを1つ選択)

- ☐ ①オフィス(主に従業員が執務する場所) ☐ ②店舗(飲食店) ☐ ③店舗(飲食店以外)
☐ ④店舗以外のサービス等事業所(学習塾、診療所等、利用者が出入りする場所) ☐ ⑤その他

【企業・組織の概要について】※事業所の種別にて①を選択した方のみ回答

問1-1 貴事業所の組織全体の従業員規模について教えてください。

- ☐ 10名以下 ☐ 10名超～19名以下 ☐ 20名超～29名以下 ☐ 30名超～49名以下
☐ 50名超～99名以下 ☐ 100名超～199名以下 ☐ 200名超～299名以下 ☐ 300名超

問1-2 貴事業所の業種について教えてください。

- ☐ 農林漁業 ☐ 鉱業、採石業、砂利採取業 ☐ 建設業 ☐ 製造業
☐ 電気・ガス・熱供給、水道業 ☐ 情報通信業 ☐ 運輸業、郵便業 ☐ 卸売業、小売業
☐ 金融業、保険業 ☐ 不動産業、物品賃貸業 ☐ 学術研究、専門・技術サービス業
☐ 宿泊業、飲食サービス業 ☐ 生活関連サービス業、娯楽業 ☐ 教育、学習支援業
☐ 医療、福祉 ☐ 複合サービス業 ☐ サービス業(他に分類されないもの)
☐ 公務(他に分類されるものを除く)

【企業活動や従業員の働き方について】※事業所の種別にて①を選択した方のみ回答

問2-1 貴事業所では、コロナ禍による経営への影響はありましたか。

- ☐ 大きなマイナスの影響があった ☐ ややマイナスの影響があった ☐ あまり影響はなかった
☐ ややプラスの影響があった ☐ 大きなプラスの影響があった ☐ どちらともいえない

問2-2 つくばセンター地区内の事業所において、次の期間に行った従業員の働き方について教えてください。(あてはまるものを全て選択)

	出勤者数の抑制	時差出勤の導入	フレックスタイム制の導入	テレワークの導入	web会議システムの導入	特に何もしていない	その他
全国の小中学校への休校要請時(2020年3月)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
第1回緊急事態宣言期間(2020年4月～5月)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
第2回緊急事態宣言期間(2021年1月～2月)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
まん延防止等重点措置期間(2021年8月)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
現在(2022年1月)	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

問2-3 問2-2で「その他」と回答した事業所にお尋ねします。どのような取り組みを行いましたか。(自由回答)

問2-4 コロナ禍の各期間中の従業員のおおむねの出勤率を教えてください。(平時と変わらない場合は10割とする)

	1～3割	4～6割	7～9割	10割
全国の小中学校への休校要請時 (2020年3月)	☐	☐	☐	☐
第1回緊急事態宣言期間 (2020年4月～5月)	☐	☐	☐	☐
第2回緊急事態宣言期間 (2021年1月～2月)	☐	☐	☐	☐
まん延防止等重点措置期間 (2021年8月)	☐	☐	☐	☐
現在 (2022年1月)	☐	☐	☐	☐

問2-5 問2-1で「テレワークの導入」と回答した事業所にお尋ねします。コロナ収束後もテレワークを活用する予定ですか。

☐ 活用する予定 ☐ 未定・検討中 ☐ 活用しない予定

問2-6 コロナ禍において、つくばセンター地区内のオフィスの機能や形態に変化はありましたか。また変える予定はありますか。

- ☐ サテライトオフィス機能を持たせた・持たせることを検討している
☐ オフィス面積を縮小した・縮小することを検討している
☐ オフィス面積を拡大した・拡大することを検討している
☐ 密を避けるレイアウトに変えた・変えることを検討している
☐ 特に変えていない・変える予定はない
☐ その他

【営業状況について】 ※事業所の種別 にて②、③、④、⑤を選択した方のみ回答

問3-1 コロナ禍による営業日・営業時間について、どのような対応を行いましたか。

- ☐ 国・自治体の要請があった期間のみ、要請に沿った休業・時短営業を行った
☐ 国・自治体の要請があった期間のみ、要請以上の休業・時短営業を行った
☐ 国・自治体の要請がない期間も休業・時短営業を行った・行っている
☐ その他

問3-2 【飲食店限定】コロナ禍の営業に対応するために行った取組みや工夫があれば教えてください。(あてはまるものを全て選択)

- ☐ 宅配を始めた ☐ テイクアウトを始めた ☐ 営業時間を早めた
☐ 屋外に飲食スペースを設置した ☐ 昼間の営業を拡充した ☐ 特に何もしていない
☐ その他

問3-3 コロナ前と比べ、現在の来客数はどの程度回復していますか。

- ☐ 3割以下 ☐ 5割程度 ☐ 7割程度
☐ 9割程度 ☐ 10割程度(コロナ前と同等)

【つくばセンター地区の作業環境について】 ※全ての方にご回答をお願いします

問4-1 コロナ禍において、事業所・店舗がつくばセンター地区にあってよかった点、または困った点があればご記入ください。(自由回答)

--

問4-2 今後、つくばセンター地区内の事業所・店舗の移転や閉店の予定はありますか。

- ☐ つくばセンター地区内の別の場所へ移転を検討している
- ☐ つくばセンター地区外のかくば市内の別の場所へ移転を検討している
- ☐ つくば市外の別の場所へ移転を検討している
- ☐ 閉鎖・閉店を予定している
- ☐ 当面、移転や閉店等の予定はない
- ☐ その他

問4-3 問4-2で「つくばセンター地区外への移転」または「閉鎖・閉店」を検討しているとお答えした方にお尋ねします。その理由を教えてください。(あてはまるものを全て選択)

- | | |
|--|--|
| ☐ 採算上、事業の継続が難しいため | ☒ 全社的な事業所の統合・再編のため |
| ☐ つくばセンター地区では集客に期待ができないため | ☐ つくばセンター地区に妥当な物件がないため |
| ☐ テレワークやweb会議が浸透しつくばセンター地区に事業所を置く必要性が低下したため | |
| ☐ その他 | |

問4-4 今後、新たな生活様式などライフスタイルやワークスタイルが変化する中であっても住む人、働く人、訪れる人にとって、よりよいつくばセンター地区であるために、改善が望まれることやご提案がありましたら教えてください。(自由回答)

--

※アンケートは以上です。御協力ありがとうございました。
差し支えなければ事業所名・連絡先を御記入下さい。

事業所名:

御担当者名:

TEL:

調査にあたりご協力いただいた機関

本稿のデータ収集にあたっては、下記の機関にご協力を頂きました。
深く感謝申し上げます。

- ・つくば市
- ・茨城県立つくば美術館
- ・公益財団法人つくば文化振興財団
- ・関東鉄道株式会社
- ・首都圏新都市鉄道株式会社
- ・株式会社日本エスコン
- ・大和リース株式会社
- ・つくばまちなかデザイン株式会社（つくばセンター地区活性化協議会）
- ・ホテル日航つくば
- ・ダイワロイネットホテルつくば
- ・筑波都市整備株式会社
- ・つくば国際会議場
- ・一誠商事株式会社
- ・株式会社タカラレーベン
- ・アンケート協力事業所
（三井ビルディングテナント、BiVi つくばテナント、トナリエつくばスクエアテナント
つくばセンター地区活性化協議会会員企業、南3パークビルテナント）

（敬称略 順不同）

TUTC Library 48

発行日 令和4年3月
発行所 一般社団法人 つくば都市交通センター
〒305-0031
茨城県つくば市吾妻1-5-1
TEL 029-855-7211